

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	MCスキル I					
開講科目英名	MC Skill I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	
【担当教員、実務者経験】						
SUTVの情報番組のキャスター、地元のFM局のパーソナリティー等を経てブライダル司会者へ。2000組のカップルの司会を担当。関西一円のゲストハウスやホテルで司会、また関西4つのゲストハウスのオープニングに携わり司会も担当。ブライダル専門の司会事務所株式会社 株式会社カルテットを経営。司会者の育成と共に20名の司会者とともに「言葉の力でいい結婚式を」と毎週たくさんさんの結婚式をお任せいただいている。						
【授業の学習内容】						
<p>社会人になると、話し方一つでその後の仕事が左右されることもある。 その重要な話し方を、腹式呼吸や滑舌などと共に、どのように話せば人に伝わりやすくなるのかを学習する。 同時に、プランナーとMCのかかわり方やMCの果たす役割を学び、人前式の司会者コメントを考えながら、現場での流れを知る。</p>						
【到達目標】						
ブライダルの現場で通用するように、人前式の流れを理解し、ブライダルコメントができるようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 自己紹介(動画撮影) / 印象の良くなる話し方ができるようになる
2回目	腹式呼吸で相手へ届く声の出し方ができるようになる / MCとしての結婚式における役割と重要性を理解できるようになる
3回目	一言一言の発声をしっかりとできるようになる / 挙式前の打ち合わせの内容や重要性を理解出来るようになる
4回目	口周りのトレーニングをし、滑舌良く話すことができるようになる / 接客における敬語を話すことができるようになる
5回目	【発声・滑舌テスト】 正しいアクセントで発声できるようになる / 人前式の流れを知り、理解できるようになる
6回目	新郎新婦入場の司会コメントを考え、話すことができるようになる
7回目	開式の司会コメントを考え、話すことができるようになる
8回目	誓いの言葉シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
9回目	誓いのキスシーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
10回目	指輪の交換シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
11回目	結婚誓約書シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
12回目	フラワーシャワー退場シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
13回目	グループごとに人前式司会コメントを通して話すことができるようになる
14回目	グループごとに人前式司会コメントを通して発表し、相手の良い点。改善点を評価し、レベルアップを図ることができる①
15回目	グループごとに人前式司会コメントを通して発表し、相手の良い点。改善点を評価し、レベルアップを図ることができる②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう <ul style="list-style-type: none"> ・正しい式の流れができている 20% ・アレンジを加えた台本作りができている 20% ・正しい言葉遣いができている 20% ・発表時の総合評価 40%
受講生へのメッセージ	普段から少しずつ意識することで、人に伝える話し方ができるようになります。 話し方一つで、人から信頼されたり、仕事に繋がったりすることもあります。 ぜひ、積極的に取り組んで下さいね。
【使用教科書・教材・参考書】	
レジュメ・筆記用具	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ウォーキング I					
開講科目英名	Walking & Posture I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員・実務者経験】

大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	
4回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
5回目	
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
7回目	
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	
10回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
11回目	
12回目	
13回目	1～12回目までの確認チェックを一人ずつ行い、理解度を確認することができる
14回目	フィードバックを行い、確認チェックできていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。
15回目	総復習ならびに15回を終えての感想、反省点など次期の目標を改めて落とし込み意識を高めることができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・定期試験 70%(姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか) ・授業態度 30%(入退出時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか)
受講生へのメッセージ	ウォーキングを習うと聞くと、モデルさんや舞台上に立つ人だったり何か特別な人が習うものと感じていると思いますが、人間はみな二足歩行です。特別な人だけでなく「正しく立つ・歩く」知識や技術は皆さんも知る必要があります。私自身がそうだったように無意識にとっているその姿勢や歩き方が実はマイナスな印象にうつっていたり、身体の不調を引き起こす原因になっている可能性もあります。人前に立った際に、またどんなシーンにおいても好感の持てる人になるよう身につけていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書は適時、配布 持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ウォーキングⅡ					
開講科目英名	Walking & Posture Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	プライダグマネジメント科			2		
【担当教員 実務者経験】						
大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。						
【授業の学習内容】						
後期は前期に引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。男子学生は通年でフラットウォーキングができるようになる。また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形で表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。信頼感の与えられる人材を育てる。						
【到達目標】						
就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
2回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
3回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
4回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手ぐさの法則は女子学生のみ。もの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行えるようになる。(手鏡ご持参ください。)
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びに物のひろい方、書類の渡し方・受け取り方など日常シーンでの仕草を綺麗にできるようになる。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学びできるようになる。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問したシーンにおいてのマナーを理解してできるようになる。)
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。基本的なお辞儀に加え、印象に残るお辞儀ができるようになる。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
13回目	1～12回目までの確認チェックを一人ずつ行い、理解度を確認することができる
14回目	フィードバックを行い、確認チェックできていた点、できていなかった点を振り返る。
15回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・定期試験 90% ・授業態度 10%
受講生へのメッセージ	就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っていきます。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いができ自信のある立ち居振る舞いができるようになります。前期同様、引き続き動的ストレッチを行いつつ、免疫力もあげ「自分に厳しく楽しく」学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
前期に配布したテキスト ヒール 動きやすい服装 飲み物	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	キャリアプログラム I						
開講科目英名	Career Program I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

牧みはる: エステティックサロンにて勤務。幅広い年齢層のお客様に施術を行う。
 中村楓: レストランや写真館にて勤務し、レストランウェディング・こども写真館・フォトウェディング等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。

【授業の学習内容】

学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。
 社会人基礎力を身に付ける

【到達目標】

自己肯定と他己肯定が出来るようになる(自分とクラスメイトを受け入れ、肯定する)

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション～キャリアプログラムの目的、学校ルール説明を行い、これからのスクールライフに対する準備ができる。
2回目	自己紹介・他己紹介①:「自己紹介とは？」どのような項目を伝えれば、相手に「自分らしさ」を伝えることができるかを考えることができる①
3回目	自己紹介・他己紹介②:「自己紹介とは？」どのような項目を伝えれば、相手に「自分らしさ」を伝えることができるかを考えることができる② サポートアンケートの実施
4回目	自己紹介・他己紹介③:「聞き手上手」「話し上手」の技法を知り、今後にいかすことができる。
5回目	自己紹介・他己紹介④: 担任の自己紹介を通して、再度自分の自己紹介文を考えることができる。前回の自己紹介文と比較して、どちらが自分らしさを伝えられているかを検証することができる。
6回目	Teams の使い方の理解、ポートフォリオの活用方法を理解することができる/ CSU願書記入
7回目	相槌・繰り返し・傾聴の技法～どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることができるのか理解出来る
8回目	～伝達トレーニング～言葉だけでメッセージを正確に共有する為の条件を理解して、実践できる。
9回目	～ブラインドワーク～指示の出し方を改善して、問題解決できる方法を体現することができる
10回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
11回目	～担任自己紹介～ライフチャートのFBを行い、自己紹介の多様性を知ることができる
12回目	～ライフチャートの作成～自分の人生を振り返り、GWを通して自己紹介、PRができるようになる
13回目	～ライフチャートの作成～自分の人生を振り返る、GWを通して自己紹介、PRができるようになる
14回目	～認知特性を知る～自分の学習タイプを知って、対策方法を見つけることができる
15回目	～前期振り返り～後期にどうつなげていこうか考え、成長ポイントを見つけることができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度) 20% ・提出物 80%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	キャリアプログラムⅡ						
開講科目英名	Career ProgramⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

牧みはる: エステティックサロンにて勤務。幅広い年齢層のお客様に施術を行う。
 中村楓: レストランや写真館にて勤務し、レストランウェディング・こども写真館・フォトウェディング等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。

【授業の学習内容】

学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。
 社会人基礎力を身に付ける

【到達目標】

自己肯定と他己肯定が出来るようになる(自分とクラスメイトを受け入れ、肯定する)
 人に伝わる自己表現ができるようになる
 人の話を聞く姿勢が理解できるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	学校ルールの再確認と各ルールの意味を理解し、自己採点・振り返りを行い、何事も意味を考えて行動できるようになる
2回目	入学時の自分と現在の自分を見比べ、どう変わったか振り返ることにより、授業の意義を再確認することができるようになる
3回目	ライフチャートを使用して、自己PR(1人1分+クラスメイトFB1分)を一人一人発表し、人前で話すことができるようになる
4回目	ライフチャートを使用して、自己PR(1人1分+クラスメイトFB1分)を一人一人発表し、人前で話すことができるようになる
5回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
6回目	企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について知ることができる
7回目	企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について資料にまとめることができるようになる
8回目	企業研究発表(グループ毎)を行い、より多くの情報を得ることができる
9回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
10回目	PPT自己紹介(1人5分)を行い、自分をプレゼンテーションできるようになる
11回目	PPT自己紹介(1人5分)を行い、自分をプレゼンテーションできるようになる
12回目	～共感の技法～共感の方法を理解し体現することによって、より人の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを取ることができるようになる
13回目	～ジェスチャーコミュニケーション～人に伝えようとする姿勢、聞きとろうとする姿勢を理解することができる
14回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
15回目	～1年振り返り～2年次にどうつなげていくか考え、成長ポイントを見つけることができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度) 20% ・提出物 80%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	コアマネージメント・ベーシック I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
開講科目英名	Core Management Basic I					
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

井上由美：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構代表理事。プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴20年、および部下指導歴25年の経験を持つ。著書に「禁断の気質学フォートロジー®」「オレ様信長のトリセツ」がある。
 居相美穂：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構認定トレーナー。京都女子大学にて約20年間、法人運営業務に従事し管理職を経験する。その後、井上のもとで実践心理学を学び、学校法人を基盤に、気質学等の個人カウンセリングを中心に活動中。
 熊淵敦子：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構認定トレーナー。井上のもとで学び、個人カウンセリングを中心に活動。「ストレス社会を簡単に解決する4シーズンの見分け方、考え方の必勝法」で講演活動を行い、主に女性の社会進出・営業活動のスキルアップのお手伝いをしています。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。インプットしたスキルを直ぐに授業で実践し身につけることができる。

【到達目標】

フォートロジー® NLP、言語学を学び全てを使えるようになりよりコミュニケーションを豊かにし社会人になった時あらゆる人に対応できるようになる。そして人生を豊かにするスキルを身につけることができる。

回数	授業計画・内容		
1-2回目	(オリエンテーション)コアマネとは、自分らしさを活かした夢を叶えるための最高の学び ～前期授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる～	31-32回目	ウィナーのエネルギーの特性を知り、ウィナーの接客の相性を理解することができる②
3-4回目	コアマネージメントとは、自分の人生をプロデュースする為の手法だということを知ることができる	33-34回目	4つのエネルギーのクレーム対応を理解することができる
5-6回目	NLPの基本前提を学ぶ事でコミュニケーションをとる際の気を付ける点等を知ることができる	35-36回目	4つのエネルギーの特徴を理解し、気質を活かした接客を円滑することができる
7-8回目	現在の目標を明確にし、達成に必要なステップを知ることができる	37-38回目	気質学を知識を応用して、4つの気質それぞれの特性に合う商品、又はサービスを考えることができる(1)
9-10回目	(気質学基礎知識①) 人間関係、仕事、恋愛も思いのままになる気質学フォートロジー®とは何か、学ぶ意義を理解することができる	39-40回目	チームワークをよくするには？ ～気質学知識を応用し、それぞれの気質に合うモチベーションの上げ方を理解することができる～
11-12回目	4つの気質の特性を知り、フォートロジー®の面白さに気づくことができる。	41-42回目	気質学を知識を応用し、4つの気質のそれぞれの特性に合う商品、又はサービスを考えることができる(2)
13-14回目	成果を創り出す思考 自分と相手を活かしかうコミュニケーションと場創りを理解できる ～場づくりの原理原則 3つの柱を知り、目標達成しやすい環境を創り出す～	43-44回目	気質を知った上で、チームで課題を取り組むことを通して、成長した自分を知ることができる
15-16回目	気質別に交流することで、4つの気質の理解を深めるとともに自分の特性に気が付くことができる	45-46回目	成果を生み出すチームと現場での実践を考え、理解できる(グループとチームの違い、チームで成果を出す上で必要な物事の見方、考え方、捉え方 志の共有)
17-18回目	サイレンスのエネルギーの特性を知り、サイレンスの接客の相性を理解することができる①	47-48回目	気質別サービスを分析し、さらに気質学の理解を深めることができる
19-20回目	サイレンスのエネルギーの特性を知り、サイレンスの接客の相性を理解することができる②	49-50回目	気質学の授業を通して気が付いた「自分らしさ」「自分の強み」を理解することができる
21-22回目	パーフェクトのエネルギーの特性を知り、パーフェクトの接客の相性を理解することができる①	51-52回目	これまでの全復習を行い、理解度を確認する①
23-24回目	パーフェクトのエネルギーの特性を知り、パーフェクトの接客の相性を理解することができる②	53-54回目	これまでの全復習を行い、理解度を確認する②
25-26回目	エンジョイのエネルギーの特性を知り、エンジョイの接客の相性を理解することができる①	55-56回目	現在の目標を明確にし、達成に必要なステップを知ることができる①
27-28回目	エンジョイのエネルギーの特性を知り、エンジョイの接客の相性を理解することができる②	57-58回目	現在の目標を明確にし、達成に必要なステップを知ることができる②
29-30回目	ウィナーのエネルギーの特性を知り、ウィナーの接客の相性を理解することができる①	59-60回目	授業の総まとめ・次回の授業の概要説明を行い、授業のゴールをイメージすることができる。

評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
------	---

評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう ・定期試験50% ・授業態度50%(聞く態度・質問・課題に取り組む態度)
------	--

受講生へのメッセージ	コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身につけていきましょう。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

・テキスト①コアマネベーシックベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 ②禁断の気質学
 ・筆記用具(ブロッキーマジック) ・ポストイット(7, 5×12, 7サイズ)

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	コアマネージメント・ベーシックⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
開講科目英名	Core Management Basic II					
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

井上由美：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構代表理事。プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴20年、および部下指導歴25年の経験を持つ。著書に「禁断の気質学フォートロジー®」「オレ様信長のトリセツ」がある。
 居相美穂：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構認定トレーナー。京都女子大学にて約20年間、法人運営業務に従事し管理職を経験する。その後、井上のもとで実践心理学を学び、学校法人を基盤に、気質学等の個人カウンセリングを中心に活動中。
 熊淵敦子：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構認定トレーナー。井上のもとで学び、個人カウンセリングを中心に活動。「ストレス社会を簡単に解決する4シーズンの見分け方、考え方の必勝法」で講演活動を行い、主に女性の社会進出・営業活動のスキルアップのお手伝いをしています。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。インプットしたスキルを直ぐに授業で実践し身につけることができる。

【到達目標】

フォートロジー® NLP、言語学を学び全てを使えるようになりよりコミュニケーションを豊かにし社会人になった時あらゆる人に対応できるようになる。そして人生を豊かにするスキルを身につけることができる。

回数	授業計画・内容	
1-2回目	前期テストを返却し、復習することで気質学の理解できていない所の見直しをすることができる	31-32回目 嫌いな人を消すことが出来るスキルを学ぶことができる
3-4回目	自分で設定した目標が魔法のように叶うスキルを学ぶことができる	33-34回目 あなたは感情移入タイプ？冷静に俯瞰するタイプ？自分を知って使い分けるスキルを学ぶことができる
5-6回目	目標をT.O.T.Eモデルで実践し、途中経過を見直し改善点を知ることができる	35-36回目 自分の世界観を超えたものの見方のスキルを学ぶことができる①
7-8回目	コミュニケーションをとる際知らず知らずのうちに誤解を招いていた原因を知ることができる	37-38回目 自分の世界観を超えたものの見方のスキルを学ぶことができる②
9-10回目	コミュニケーションギャップをなくすスキルを学ぶことができる	39-40回目 質問力を上げて信頼を得るスキルを学ぶことができる
11-12回目	人を3秒で好きにさせるスキルを学ぶことができる	41-42回目 夢を叶える為に自分にとって今すべきことを知ることができる
13-14回目	相手の本心を見抜くスキルを学ぶことができる	43-44回目 人生これさえ覚えておけば幸せに生きることができると言っても過言ではない！スキルを学ぶことができる
15-16回目	人と信頼関係を結ぶのが苦手な人も確実に！？信頼関係を結べるスキルを学ぶことができる	45-46回目 自分の脳のパターン認識を知ることができる
17-18回目	憧れのあの人になれるスキルを学ぶことができる	47-48回目 自分自身のモチベーションをコントロールする技術 アンカリングを学ぶことができる
19-20回目	VAKを学び自分の記憶の仕方の強みを知ることができる	49-50回目 諦めていたことを言語のスキルを学びできる自分に気づく事ができる
21-22回目	VAKを学びイメージ力を高めることができる	51-52回目 今までの振り返りを行い、再度学んできたことを見直しブラッシュアップをはかることができる
23-24回目	VAKを高めるトレーニングスキルを学ぶことができる	53-54回目 輝いた未来を生きる為のスキルを学ぶことができる
25-26回目	VAKのイメージ力を使い自分だけの居心地の良い空間をつくる事ができる	55-56回目 タイムラインワークを実践し活かすことができる 宝地図作成に繋げていくことができる
27-28回目	成果を創り出す思考 自分と相手を活かすコミュニケーションと場作りを理解できる ～場づくりの原理原則 3つの柱を知り、目標達成しやすい環境を創り出す～ アイスブレイク20分 +発表することは大切。試されことなんだ！（VAK+EyeアクセッシングQue）	57-58回目 宝地図作成を行う
29-30回目	目は口程に物を言う！相手の嘘を見抜くスキルを学ぶことができる	59-60回目 宝地図作成発表し、自分の目指す目標を確かなものにする事ができる

評価基準
 A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。
 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法
 本授業における評価は、以下の割合にて行う。
 ・授業態度評価(聴く、書く、発表、制作する等の取り組み態度) 50%
 ・技術評価(もしくは試験レポート・宝地図評価) 50%
 なお、出席率70%以下は認定書を発行できません。

受講生へのメッセージ
 コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。皆と毎回学びを深めていける事に喜びを感じて授業をしています。後期もよろしく願いいたします。

【使用教科書・教材・参考書】

・テキスト①コアマネベーシックベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 ②禁断の気質学
 ・筆記用具(ブロッキーマジック) ・ポストイット(7, 5×12, 7サイズ)

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	シュウウエムラメイクアップ					
開講科目英名	shu uemura makeup	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。
JMA日本メイクアップ技術検定協会認定講師、シュウウエムラ認定講師、AFT認定色彩講師、東商1級カラーコーディネーター。

【授業の学習内容】

世界最大の化粧品会社ロレアルグループに属するブランド『shu uemura』のシグネチャーメソッドを習得する。
後期末に予定されている検定試験合格を目指す。

【到達目標】

幅広い現場で活躍できるブライダルヘアメイクアーティストやスタイリストとして必要なメイクアップの知識と技術の向上を図る。
また、“美”を提供するプロとして必要なマナーや身だしなみ、立ち居振る舞いを身に着ける。
shu uemuraのシグネチャーメソッドを習得し、shu uemuraが認めるメイク技術ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	(セッティング)検定概要、セッティング① (ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる
3-4回目	(ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる なぎなた削り
5-6回目	(ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる (アイブロウ)アイブロウメイクができるようになる
7-8回目	(ベースメイク)ベースメイク 計測して目標値を目指す (リップ&アイシャドウ)リップメイク&アイシャドウ1色グラデーションができるようになる
9-10回目	(アイメイク&チーク)アイメイク、チークができるようになる shuハードフォーミュラ配布、アイブロウ&リップ復習
11-12回目	(ポイントメイククレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったポイントメイククレンジングができるようになる (ベースクレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったベースクレンジングができるようになる セッティング②
13-14回目	(ベースクレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったベースクレンジングができるようになる ポイントクレンジング復習、HFなぎなた削り提出
15-16回目	(確認①)内容: モデルセッティング～手指消毒～ベースメイク_12分 ポイントメイクのブラッシュアップ
17-18回目	(確認②)内容: モデルセッティング～手指消毒～スキんケア_18分 ベースメイク 計測して目標値を目指す、ポイントメイクのブラッシュアップ
19-20回目	(トータルレッスン)シグネチャーメソッドがトータルでできるようになる(計測して目標値を目指す) 検定ペア組み
21-22回目	(ポイントメイク)ポイントメイク集中レッスン①、スキんケア計測 shu五角スポンジ配布 ※以降、shuスポンジを使用
23-24回目	(トータルレッスン)モデルセッティング～手指消毒～乳液～ベースメイク～ポイントメイク
25-26回目	確認作業内容: 事前準備_7分半、なぎなた削り モデルセッティング～手指消毒～乳液～ベースメイク～ポイントメイク_35分
27-28回目	(トータルレッスン)モデルセッティング～手指消毒～乳液～ベースメイク～ポイントメイク(アイブロウ、リップ) 検定ペア組み
29-30回目	(ポイントメイク)ポイントメイク集中レッスン②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・なぎなた削りの完成度 10% ・後期試験 90%
受講生へのメッセージ	伸びて長い爪・汚い爪はNGです。適度な長さに切り清潔な状態で施術に臨んでください。 授業は、指定通りのメイク状態★で参加してください。 授業で習ったことを後日実践し復習してください。 皆で検定合格目指して頑張りましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

シュウウエムラテキスト、メイク道具一式、フェイスシールド、携帯用の手指消毒剤、筆記用具

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	セルフメイク I					
開講科目英名	Self make I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

化粧品メーカーに勤務し、その後メイク・フェイシャルエステプライベートサロン経営、美容歴34年。
JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA-shu uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

ブライダルのどの分野に携わってもメイクの知識は必要不可欠。メイク実習を通して、道具の扱い方「メイクの基本理論」を学習。
まずは、自分自身の印象を左右する好印象メイクを学ぶ。
好印象メイクには、清潔感のある肌作りが必要不可欠。メイク前や夜の正しいスキンケア法で「スキンケアの基本」を学習

【到達目標】

セルフメイク実習を通しメイク理論を学び、接客にふさわしい好印象メイクができるようになる。
身だしなみ好印象メイク・スキンケアの知識、身につける。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション) 授業の概要を理解し、美容道具の名称や衛生管理を学ぶ
2回目	(スキンケア)① スキンケアのアイテムの違い等を学び、メイク前の正しいスキンケアができるようになる。
3回目	(スキンケア)② スキンケアのアイテムの違い等を学び、夜の正しいスキンケアができるようになる。
4回目	(自己分析) 顔の基本プロポーションを学び、自分自身がどのような印象なのかを知り、顔の印象を分析できるようになる。
5回目	セルフメイク①(ベースメイク) コントロールカラー、コンシーラーの基礎を知り、アイテムを使用して、好印象メイクのベースを仕上げられるようになる。
6回目	セルフメイク②(ベースメイク) ファンデーションの基礎を知り、アイテムを使って好印象メイクのベースを仕上げられるようになる。
7回目	セルフメイク③(アイブロウ) アイブロウの基本を知識を知り、正しいバランスと自分に合ったアイテムで眉を描けるようになる。
8回目	セルフメイク④(アイブロウ) アイブロウの応用の知識を知り、好印象メイクの眉を描けるようになる。
9回目	セルフメイク⑤(アイシャドウ) 基本知識、錯覚を学び、自分に合ったアイシャドウに仕上げられるようになる
10回目	セルフメイク⑥(アイライン、ビューラー、マスカラ) 基本知識、錯覚を学び、自分に合ったアイメイクに仕上げられるようになる
11回目	セルフメイク⑦(アイシャドウ、アイライン、ビューラー、マスカラ) 応用知識を学び、好印象メイクのアイメイクに仕上げられるようになる
12回目	セルフメイク⑧(チーク) チークの基本のせ方、錯覚理論を知り、顔のバランスを変える事ができるようになる。
13回目	セルフメイク⑨(リップ) リップの基本知識を知り、正しく塗る事が出来る。
14回目	基本のメイクの理解度を確認 好印象メイクのメイクプランシートを作成
15回目	(セルフメイク総復習)これまでのポイントを活かし、基本バランスでセルフメイクを完成させられるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価(聴く、書く、メイク実習の取り組み態度)50% ・技術評価(メイク技術・メイクプランシート等評価)40% ・筆記テスト10%
受講生へのメッセージ	ブライダル業界の現場でプロとして活躍する為に 社会人にふさわしい好印象メイクをスキンケアからメイクを復習をしながら習得してください
【使用教科書・教材・参考書】	
～セルフメイクの教科書～JMAセルフメイク検定公式テキスト	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修	選択必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	セレモニーウェディング実践 I	選択					
開講科目英名	ceremony wedding practice I	授業形態	講義演習	時間数	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			(単位)	4		

【担当教員・実務者経験】

神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。

【授業の学習内容】

挙式で行われる一つずつの儀式を理解し、実践する。

【到達目標】

それぞれの役割・業務を理解したうえで、チャペルでの挙式施行をすることができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	ガイダンス・授業の流れについて理解することができる。
3-4回目	挙式とはどのような儀式なのかを理解することができる。全体の流れを把握する。
5-6回目	挙式の種類を理解することができる。①
7-8回目	挙式の種類を理解することができる。②
9-10回目	それぞれの儀式について理解することができる①(ゲスト・新郎新婦の立ち位置を実践して覚える)
11-12回目	それぞれの儀式について理解することができる②(新郎新婦の入場～指輪交換)
13-14回目	それぞれの儀式について理解することができる③(指輪交換～退場)
15-16回目	それぞれの儀式について理解することができる④(総まとめ 新郎新婦入場～退場)Aチーム
17-18回目	挙式の演出について現状を調査し、近年の挙式事情や人気を調査する①
19-20回目	ドレス・メンズのお衣装の着せ付けを学ぶ プランナーとして新婦様・新郎様のアテンドに必要な知識は配慮を学ぶことができる。
21-22回目	模擬挙式に向けてプランニングを行う。
23-24回目	模擬挙式に向けて実践練習を行う①
25-26回目	模擬挙式に向けて実践練習を行う②
27-28回目	模擬挙式を行い、挙式の流れや意味に対する理解度を確認することができる。
29-30回目	模擬挙式の振り返り。改善点を見つけ、次年度の授業にいかす。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう ・模擬挙式に対するそれぞれの取り組み・内容で評価
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダルの基礎知識 ・適宜プリントを配布します。	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ドレススタイリスト I					
開講科目英名	Dress Stylist I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
2009年キャリアで株式会社トリートに入社。神戸店にてドレスコーディネーターとして勤務したのち、マネージャー業や採用活動に携わる。現在は社内の教育担当として、新人・キャリアメンバーの育成を担当。						
【授業の学習内容】						
衣装の基礎知識の講義・基本のドレス/タキシードのフィッティング方法やイメージ別のコーディネート学ぶ。 クラスタ(お客様の属性)に合わせてドレス・タキシードのご提案が出来るようにロープレを通して実践形式で学んでいきます						
【到達目標】						
婚礼衣装の基礎知識を習得しお客様のクラスタ・要望(会場・季節・好み)に合わせてドレス・タキシードのご提案が出来るようになる						

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション:ドレススタイリストの仕事内容・接客の心構え・商品の名称/種類・ドレスの取り扱い方・サイズの見方についての講義
2回目	ドレス・インナーの着せ付け方実践・タキシードの基礎知識(種類・TPO・小物)習得・着せ付け実践をして衣装フィッティングが出来るようになる
3回目	フィッティングの復習を行いながら、新婦(ドレス)のコーディネート学ぶ (ドレスのシルエット・デザインの種類・ドレスとタキシードのTPO・コーディネートワーク)
4回目	骨格診断やパーソナルカラーを用いて似合うドレス・タキシードを理解しご提案することができるようになる。
5回目	ドレスに合わせた小物のコーディネートができるようになる
6回目	新郎(タキシード)のコーディネート学ぶ (コーディネート・ヘアメイクについて・季節・イメージ別カップルバランス)
7回目	クラスタを理解して、コーディネートを考えることができる(クラスタを取り入れる目的・セルフ診断・クラスタ毎の特色・特徴)
8回目	エレガント(しっかり貴子・クラシック和子)にクラスタからドレス・タキシードの提案をすることができる
9回目	スタイリッシュ(よくばり華子)のクラスタからドレス・タキシードの提案をすることができる
10回目	カラー診断に元づく 衣裳の提案を学ぶことができる
11回目	クラスター診断(応用編)を行い、提案ができるようになる。
12回目	衣裳基礎の復習(フィッティングの振り返り)
13回目	衣裳基礎の復習(花嫁・メンズ衣装のコーディネート)
14回目	総復習接客ロールプレイングを行い、理解度を確認することができる
15回目	フィッティングと接客時に必要な事柄を改めて確認する。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ロールプレイングを基に評価(骨格・パーソナルカラー・ドレス&TXDのコーディネートの提案ができるまで) 100%
受講生へのメッセージ	ご新郎・ご新婦様のドレス選びの提案が出来ることは、その後につながる挙式会場や披露宴会場のコーディネートにも繋がる大切な役割となります。この授業を通して、衣装の知識はもちろんですが、トータルコーディネートを学びお客様のご要望だけでなく選んだ会場・季節・時間帯などあらゆる角度からご提案が出来るようになると今後プランナーとしての幅が広がり、お客様から安心いただけ信頼出来る人材になります 是非、未来に向けて〇〇さん(自身)が担当で良かったと思っただけのように授業も一緒に頑張っていきたいと思います
【使用教科書・教材・参考書】	
特になし(資料は都度準備します) ※6回目にてのり・はさみを持参してください	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ドレススタイリストⅡ					
開講科目英名	Dress Stylist Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	プライダルマネジメント科				2	

【担当教員・実務者経験】

2009年キャリアで株式会社トリートに入社。神戸店にてドレスコーディネーターとして勤務したのち、マネージャー業や採用活動に携わる。現在は社内の教育担当として、新人・キャリアメンバーの育成を担当。

【授業の学習内容】

お客様に対しヒアリング・衣装フィッティング・アテンドを行い、ドレススタイリストとして準備や対応ができるようになる。

【到達目標】

ドレススタイリストとしての立場を理解し、先読みして行動をし、お客様が安心して過ごせるように対応できるように学ぶ。
後期はアテンドを中心に身に着ける

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション・前期の授業の振り返り(フィッティング・接客・心構え)を行い、後期に学ぶ内容を理解する
2回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新婦)ことができるようになる(グループ)
3回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新郎)ことができるようになる(確認発表)
4回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新郎)ことができるようになる(グループ)
5回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新郎)ことができるようになる(確認発表)
6回目	フィッティングの際に必要なアテンド・気配り&心配りを学ぶ
7回目	フィッティングの際に必要なアテンド・気配り&心配りを学ぶ(実践)
8回目	TPOに合わせたドレスのさばき方・持ち方を学ぶ
9回目	決定した衣装の最終確認をお客様の前で行えるようになる(衣装・小物)
10回目	2～9回目の振り返りを行い、苦手なポイントを克服できるようになる
11回目	衣装を身につけられた新郎新婦のアテンド(お着替え室から会場まで)ができるようになる
12回目	衣装を身につけられた新郎新婦のアテンド(お着替え室から会場まで)ができるようになる(確認発表)
13回目	①来店お迎え～最終衣装確認のお客様対応、②フィッティング～場所移動・着衣確認 の流れができてきているか確認し、理解度を図ることができる。
14回目	①来店お迎え～最終衣装確認のお客様対応、②フィッティング～場所移動・着衣確認 の流れができてきているか確認し、理解度を図ることができる ※13回目の授業で行った方と逆を行う
15回目	総まとめ 前期から学び「ドレススタイリスト」とはどのような役割なのか、理解を確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認発表を基に評価(接客対応・言葉遣い・事前準備・アテンド) 100%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	パーソナルカラー I						
開講科目英名	Color Consultation Basic I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

24歳時にカラーコーディネイト色彩能力検定2級を取得。その後服飾業界(5年)、インテリア業界(4年)、住宅・不動産業界(19年)で仕事をする中で、カラーの知識を実務で活用してきました。

【授業の学習内容】

ブライダルの現場では、お客様のタイプとニーズに合わせた幅広い提案力が必要とされる。本授業では、色彩学とパーソナルカラー分析の基本を身につけて、ブライダル業界で役に立つカラーの提案ができるようになること、接客業として顧客のタイプに合わせた接客ができるようになることを目標とし、色彩理論とパーソナルカラー理論を学習する。

【到達目標】

基礎的な色彩理論・パーソナルカラー理論を理解し、実習・課題制作などを行うことでカラーコーディネイトと基礎的なパーソナルカラー分析ができるようになる。
それにより、ブライダル業界において、顧客満足度の高いイメージ表現や似合う色を提案できるようになる。接客業として、顧客のタイプに合わせた提案、接客ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(概要と必要性、パーソナルカラーの歴史) パーソナルカラーコンサルテーションと人間、環境との関わり、歴史を理解できるようになる
2回目	(色彩の基礎) ①光と色②光の三属性③PCCSTーン④色の見え方・対比⑤色の視認性と色の感情効果⑥配色・トーンから色彩の基礎を理解する
3回目	(課題制作) 色相環などの制作を通じて色彩の基本知識の理解が深まる
4回目	(パーソナルカラー1) パーソナルカラーの4シーズン理論を学び肌・眼・髪の色の特徴からシーズン分析の基本を理解する
5回目	(ドレーピングのテクニック) ドレーピングを始める注意点と着眼点を理解し、基礎的なカラー診断ができるようになる
6回目	(パーソナルカラー2) 肌・眼・髪の色を分析し基礎的なパーソナルカラー診断と4シーズン理論に基づいた説明ができるようになる
7回目	(カラーコーディネイト) パーソナルカラーとトーン配色を用いて、イメージに合ったカラーコーディネイトができるようになる
8回目	(課題制作発表) 課題の制作発表を通して、色彩の基礎知識とパーソナルカラー理論を用いてカラーコーディネイト提案ができるようになる
9回目	(カラーコンサルテーション) フォートロジー®タイプとパーソナルカラー分析に基づいたシーズンタイプ別に色彩を提案できるようになる
10回目	(カラーコンサルテーション) シーズンタイプ別にドレスやアクセサリーのデザイン・素材を提案できるようになる
11回目	(カラーコンサルテーション) シーズンタイプ別にブーケ・テーブルコーディネイトなどトータルな提案ができるようになる
12回目	(カラーコンサルテーション) シーズンタイプ別の行動形態を理解し、タイプに合った接客ができるようになる
13回目	(課題制作・発表) 課題制作と発表を通じて、パーソナルカラー理論とフォートロジー理論に基づいたイメージ表現の提案ができるようになる
14回目	色彩とパーソナルカラー理論の基礎知識の理解度を確認する
15回目	総まとめ(これまでの内容についての補足・質疑など)これまでに学習した内容を活用し、お客様に対して基本的なカラーコンサルテーションができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・試験結果 40% ・課題の提出率及び完成度 60%
受講生へのメッセージ	ブライダル業界をはじめ、広告業界・服飾業界・インテリア業界・住宅業界等、カラーの知識や技能を活用できる業界は数多くあります。この講義で色彩学の基礎とパーソナルカラーの基礎、そしてお客様の個性とニーズに合わせた提案力を学び、皆さんの将来の可能性を一気に広げましょう!

【使用教科書・教材・参考書】

--	--

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	パーソナルカラー II					
開講科目英名	Color Consultation Basic II	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員 実務者経験】

24歳時にカラーコーディネイト色彩能力検定2級を取得。その後服飾業界(5年)、インテリア業界(4年)、住宅・不動産業界(19年)で仕事をする中で、カラーの知識を実務で活用してきました。

【授業の学習内容】

ブライダルの現場では、お客様のタイプとニーズに合わせた幅広い提案力が必要とされる。本授業では、色彩学とパーソナルカラー分析の基本を身につけて、ブライダル業界で役に立つカラーの提案ができるようになること、接客業として顧客のタイプに合わせた接客ができるようになることを目標とし、色彩理論とパーソナルカラー理論を学習する。

【到達目標】

気質の4パターンを瞬時判別し、接客対応ができるようになる。そのためには日常に取り入れた生活や意識改革を習慣化する。色彩の基本知識の理解を深め、パーソナルカラー診断と骨格診断の基本知識を習得する。

回数	授業計画・内容
1回目	(概要・確認) 前期で学んだ総復習をし、理解度を確認する
2回目	(色彩の基礎) 代表的な色の持つ心理効果やイメージを確認し、目的に合った適切な色選びができるようになる
3回目	(配色の基本) 配色の基本を復習し、表現したいイメージに対する適切な色選びができるようになる①
4回目	(配色の基本) 配色の基本を復習し、表現したいイメージに対する適切な色選びができるようになる②
5回目	パソコン(webの色彩知識と課題制作)web上で用いられる色彩の基礎知識をもとに、制作物を作成できるようになる①
6回目	パソコン(webの色彩知識と課題制作)web上で用いられる色彩の基礎知識をもとに、制作物を作成できるようになる②
7回目	パソコン(webの色彩知識と課題制作)web上で用いられる色彩の基礎知識をもとに、制作物を作成できるようになる③
8回目	鏡(選択と提案) カラードレープを用いてお客様のカラータイプの目安を判断し、適切なカラーを提案できるようになる①
9回目	鏡(選択と提案) カラードレープを用いてお客様のカラータイプの目安を判断し、適切なカラーを提案できるようになる②
10回目	(イメージの復習) 「似合う色」のルールを知る。①
11回目	(イメージの復習) 「似合う色」のルールを知る。②
12回目	(課題制作) パーソナルカラー、色彩理論の理解度と提案力を確認する
13回目	(課題制作発表) パーソナルカラー、色彩理論の理解度と提案力を確認する
14回目	総まとめ 課題作成 お客様に対するプレゼンテーション資料を作成し、理解度を確認する
15回目	総復習 これまでに学習した内容を活用し、お客様に対して満足度の高いカラーコンサルテーション・提案ができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・[制作物]自己表現力10点、4シーズン理解度10点、カラーの基礎知識10点、集客力10点、タイムマネジメント力10点 ・[プレゼン]言語伝達力10点、自己表現力10点、4シーズン表現力10点、接客対応力10点、ボーナスポイント貢献度・自主性10点
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ビジネスコンピューティング I					
開講科目英名	Business Computing I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	プライダルマネジメント科				2	

【担当教員 実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー（情報を活用できる能力）を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。
挙式のスケジュールや見積表を作成することができる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業内容を理解し、目標に向かって流れを確認する。パソコンの基本操作を理解する①
2回目	パソコンの基本操作を理解する②
3回目	タイピング練習を行い、自分のレベルを確認することができる。(タイムを図る・wordで基本的な文章を作成①)
4回目	タイピング練習を行い、自分のレベルを確認することができる。(タイムを図る・wordで基本的な文章を作成②)
5回目	タイピング練習を行い、自分のレベルを確認することができる。(タイムを図る・wordで基本的な文章を作成③)※タイピングチーム戦を行う。
6回目	Excelレッスン① Excelとは。主に使用する機能を理解し、活用することができる。
7回目	Excelレッスン② Excelとは。主に使用する機能を理解し、活用することができる。
8回目	Excelレッスン③ 4、5回目の授業を振り返り、時間内に課題を作成する。※課題提出
9回目	Excelレッスン④ 表計算を行うことができる。(関数①)
10回目	Excelレッスン⑤ 表計算を行うことができる。(関数②)
11回目	Excelレッスン⑥ 7～8回目の授業を振り返り、時間内に課題を作成する。※課題提出
12回目	Excel課題作成① 授業内に提出
13回目	Excel課題作成② 授業内に提出
14回目	Excel課題作成③ 挙式のスケジュール表を作成する
15回目	Excel課題作成④ 見積表を作成する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・課題提出 100%
受講生へのメッセージ	パソコンは苦手だという学生さんが増えているようです。でもパソコンは使えて当たり前の時代です。苦手意識を取り去って、楽しく一緒に学びましょう。今後の学生生活のみならず、仕事をする上での皆さんの力強い味方となるツールです。頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	フォーマル基礎 I						
開講科目英名	Formai basic I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2		
【担当教員、実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
フォーマルの定義や歴史を学び、フォーマルシーン毎に着分ける衣装について学びます。							
【到達目標】							
ビジネスシーンや社交界などで用いられる正装や礼服についての理解を深め、フォーマルイベントの場での基本的な知識を身に付ける。							

回数	授業計画・内容
1回目	フォーマルの定義・オケージョンを理解する
2回目	フォーマルの歴史を理解する
3回目	フォーマルシーン分類を理解する
4回目	昼のフォーマルシーン(正礼装)を理解する
5回目	昼のフォーマルシーン(準礼装・略礼装)を理解する
6回目	夜のフォーマルシーン(正礼装・準礼装・略礼装)を理解する
7回目	ブライダルフォーマルシーン(正礼装)を理解する
8回目	ブライダルフォーマルシーン(正礼装・お色直し)を理解する
9回目	ブライダルフォーマルシーン(準礼装)を理解する
10回目	ブライダルフォーマルシーン(準礼装・お色直し)を理解する
11回目	ブライダルフォーマルシーン(略礼装)を理解する
12回目	ブライダルフォーマルシーン(略礼装・お色直し)を理解する
13回目	喪のフォーマルシーン(正喪服)を理解する
14回目	喪のフォーマルシーン(準喪服・略喪服)を理解する
15回目	前期内容振返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・試験結果 40% ・課題の提出率及び完成度 60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	ブライダルセールススキル I						
開講科目英名	Bridal sales skill I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】
 リーガロイヤルホテルブライダル部7年、ザ・リッツ・カールトン大阪3年、合計10年間700組以上の最高級ウエディングを担当。その後、ブライダル専門学校講師として約500名以上の学生を大手ホテルなどのプランナーに育成。2009年、2010年にはマスターオブブライダルコーディネーターファイナリストに選出され、2014年金沢のゲストハウスで総支配人に就任し低迷していた会場をV字回復させる。その後ブライダル専門学校の学科長に就任し、2019年「今さら聞けない社会人としての常識&まな一」をつた書房より出版。大手書店にて長らく週刊ランキング1位に輝く。2020年ソムリエ免許取得。

【授業の学習内容】
 結婚式場にいらした新郎新婦様をその会場でご決定いただくための接客スキルの基礎を体系的に学ぶ。

【到達目標】
 ウェディングの新規接客のリアルを体験し、かつ基礎の知識を学び、将来現場に出る時の土台を形成する。
 営業という仕事の楽しさ、やりがいを実感し、興味を深めることができる。

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
1回目	授業紹介 & オリエンテーション	16回目	オリエンテーション
2回目	接客前の事前準備の必要性を知ることができる	17回目	ブライダルフェアの立案(個人ワーク)ができるようになる
3回目	アイスブレイクの重要性を知ることができる	18回目	ブライダルフェアの立案(チーム)ができるようになる
4回目	ヒアリングのポイントを学ぶことができる	19回目	ブライダルフェア造成の計画が立てられるようになる
5回目	挙式日程の希少性の伝え方を学ぶことができる	20回目	ブライダルフェアの実行(会場使用)
6回目	会場案内のポイントを学ぶことができる	21回目	ブライダルフェアにて接客台本作成
7回目	クロージングの基礎を学ぶことができる	22回目	ブライダルフェアの接客シミュレーションができるようになる
8回目	クロージングの応用テクニックを学ぶことができる	23回目	ブライダルフェアの接客の実演を実践する
9回目	【実践】お客様を想定した事前準備ができるようになる	24回目	ブライダルフェアの接客のフィードバックを行う
10回目	【実践】お客様を想定したアイスブレイク～ヒアリングができるようになる	25回目	フリジリオにて新規接客の計画・設計ができるようになる
11回目	【実践】お客様を想定した会場案内ができるようになる	26回目	フリジリオにて新規接客のロールプレイングができるようになる
12回目	【実践】お客様を想定したクロージングができるようになる	27回目	フリジリオにて新規接客の実演を行い、改善点を見つけることができる
13回目	私の新規接客を疑似体験	28回目	フリジリオにて新規接客のフィードバックを行う
14回目	新規接客を実践し、理解度を確認する①	29回目	フリジリオにて新規接客の実演のフィードバックを行う
15回目	新規接客を実践し、理解度を確認する②	30回目	フリジリオにて新規接客の再実演を行い、理解度を確認することができる

評価基準
 A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。
 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法
 本授業においての評価は以下の割合にておこなう。
 ・新規接客の実践にて、アイスブレイク～クロージングまでの一通りの流れが実行できる 50%
 ・お客様の希望を汲み取った接客ができている 50%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ブライダルフォト I					
開講科目英名	Bridal Photo I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2		

【担当教員 実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。
 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。
 フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

一眼レフカメラの基本操作を実習し、写真撮影の基礎から応用を学ぶ。またブライダルフォトに必要なコミュニケーション力や立ち振る舞いを身につける。

【到達目標】

一眼レフカメラの基本操作を学ぶ。
 ブライダルフォトの歴史や用途、フォトグラファーとしての心構えを学ぶことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション カメラの使用上の注意事項を理解し、基本の操作ができるようになる。
2回目	ブライダルのフォトの歴史について学ぶことができる。
3回目	ブライダルフォトの違いについて学ぶことができる。
4回目	ブライダルフォトグラファーの仕事や仕事内容などを理解することができる。
5回目	露出について理解し、さまざまな環境でも適正露出で撮影できるようになる。
6回目	ブライダルフォトからさまざまな構図を知り、構図を意識した撮影ができるようになる。
7回目	基本的なスタジオライティングを学び、証明写真などのポートレート撮影ができるようになる。
8回目	光の種類や色、光の向きを見極め自然光でイメージに沿った撮影ができるようになる。
9回目	レンズの種類や特性を知り、撮影イメージに適したレンズで撮影ができるようになる。
10回目	ブライダルフォトグラファーとして、プランナーとのやり取りを学ぶことができる
11回目	ブライダルフォトグラファーとして、お客様とのやり取り(打ち合わせ)を学ぶことができる
12回目	ブライダルフォトグラファーとして、お客様とのやり取り(当日)を学ぶことができる
13回目	撮影のプランニングを学び、撮影前にイメージやコンセプトを持つことができるようになる。
14回目	状況に合わせて、最適な露出・構図・光をチョイスしシャッターチャンスを作り出すことができるようになる。(実技)
15回目	今まで学んだことを複合的に理解し、瞬時に適した露出・構図・光を見極められるようになる。(前回撮影した作品の見直し)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・作品提出 50% ・作品技術 50%
受講生へのメッセージ	全15回の授業を通じて一眼レフの操作はもちろん、撮影のテクニックやコミュニケーション方法を習得していただきます。 スマートフォンのカメラでは得られないクリエイティビティーを体感しましょう!!

【使用教科書・教材・参考書】

SDカード(8GB以上が望ましい)を各自準備すること。

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ブライダルフォトⅡ					
開講科目英名	Bridal PhotoⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員 実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

一眼レフカメラの基本操作を実習し、写真撮影の基礎から応用を学ぶ。またブライダルフォトに必要なコミュニケーション力や立ち振る舞いを身につける。

【到達目標】

ブライダルフォトグラファーとして立場を考えた撮影ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	復習を行い、ブライダルフォトグラファーの職種の立場を改めて振り返る。
2回目	ブライダルフォトの種類に合わせて撮影を行うことができる。(フォーマルフォトの意味の見直しやお客様が撮りたいという心情・用途を考える)
3回目	ブライダルフォトの種類に合わせて撮影を行うことができる。(ポージングの見直し・撮影)
4回目	撮影した作品の振り返りと見直し、改善する点を考えることができる。
5回目	ブライダルフォトの撮影時にお客様が安心できるようなアテンドやコミュニケーションを考える。
6回目	挙式の撮影を学ぶ。(プランニングをし、感動ポイントを発見する)
7回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる①
8回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる②
9回目	撮影した写真を見比べて、改善点やその撮影者の撮影ポイントを読み取ることができる。
10回目	様々な挙式写真を見て、撮影ポイント知識のバリエーションを増やすことができる。
11回目	フォトグラファーとして、式中にやってはいけないタブーを学ぶ。お客様・新郎新婦に配慮した撮影を考えることができる。
12回目	9～11回目の授業を振り返り、改めて撮影プランニングを行う。
13回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる(2回目)①
14回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる(2回目)②
15回目	9回目の撮影写真と見比べて、フィードバックを行い、理解度を確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・作品提出50% ・作品技術50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

SDカード(8GB以上が望ましい)を各自準備すること。

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	ブライダルヘアメイク I						
開講科目英名	Bridal Hair Make I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

<p>【担当教員、実務者経験】</p> <p>フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。 現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師としてメイクアップ技術の養成に携わる。</p>
<p>【授業の学習内容】</p> <p>「ヘアメイクの基本理論～基礎技術」</p>
<p>【到達目標】</p> <p>・メイク⇒顔型やパーツの配置バランスによる人のイメージを知り、セルフメイク～相モデルで基本バランスとなるメイクアップができるようになる。 ・ヘア⇒ヘアセットの基本となるホットカーラー・ピン・ゴム等の使い方が身につく、ヘアアレンジへと繋がる基礎技術ができるようになる。</p>

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】授業の概要を理解し、美容道具の名称や役割・衛生管理を学ぶ。セッティングができるようになる。
3-4回目	【印象分析】顔分析を学び、自分自身や人の持つ個性を知る事ができる。基本バランスのメイクを知ることができる。 【スキンケア】スキンケアに関する知識を知る。
5-6回目	【セルフメイク① ベースメイク】※ノーメイク着席 コントロールカラー～ファンデーション～コンシーラー～パウダーまでの基礎を知り仕上げられるようになる。
7-8回目	【セルフメイク② アイブロー】アイブローの基本バランスを知り仕上げられるようになる。眉の修正方法を学ぶ。
9-10回目	【セルフメイク③ アイメイク】アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラの基礎技術を学び仕上げられるようになる。
11-12回目	【セルフメイク④ チーク・リップ】・錯覚理論を知りチーク・ハイライトローライトで顔のバランスを整えることができるようになる。 ・リップメイクの基礎知識を知り、正しく塗る事ができるようになる。
13-14回目	【セルフメイクテスト】基本バランスのフルメイクができ、就活を意識したメイクができるようになる。
15-16回目	【基本のフルメイクアップ 相モデル①】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる。
17-18回目	【基本のフルメイクアップ 相モデル②】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる。
19-20回目	【ヘア基礎①】ヘア道具の名称、道具の管理ができるようになる。 ・頭部名称を学び、ブロッキングができるようになる。(ウィッグ)
21-22回目	【ヘア基礎②】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグ)
23-24回目	【ヘア基礎③】ゴム・ピンを扱い、一束結び・ハーフアップ・ピンニングができ簡単なスタイルを作ることができる。
25-26回目	【ヘア基礎④】基礎技術を使いハーフアップ・簡単なアップスタイルができるようになる。ヘアアイロンが使えるようになる。
27-28回目	【ヘアメイク】相モデルでヘアメイクができるようになる。
29-30回目	前期内容の振り返り復習をし、後期に向けての目標を設定することができる。

評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価 50% ・前期試験 実技ヘアメイク 50%
受講生へのメッセージ	挨拶、時間、道具を清潔に保つ事は常に意識し行動して下さい！ これから学ぶ知識は全て花嫁様やご列席の方のスタイリングの為の基礎になり、とても重要な接客力となります。 トータルで花嫁様を表現する基礎を一緒に身につけましょう！！

<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>メイク道具、セルフメイクテキスト、筆記用具は毎回持参してください。 ただし、ヘアの授業時は持参物が変わります。変わるタイミング等各自シラバスをよく読み、把握しておくこと。 相モデルの際はフェイスシールド忘れないように！</p>
--

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	ブライダルヘアメイク II						
開講科目英名	Bridal Hair Make II	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師としてメイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

「基本のヘアセット」「イメージメイク(キュート系・エレガント系)」を学ぶ

【到達目標】

- ・ヘアではセットの基本であるピンニング、カーラー巻き等を応用し、ハーフアップ・簡単なルーズアップスタイル・夜会巻きができるようになる。
- ・基本バランスメイクでは様々なモデル様に対応できるようになる。
- ・可愛い系、キレイ系といったイメージに合わせたメイク施術ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【メイクアップ基礎①】前期からの復習である基本バランスメイクをより理解し、メイク施術が対応できるようになる。
3-4回目	【メイクアップ基礎②】前期からの復習である基本バランスメイクをより理解し、メイク施術が対応できるようになる。
5-6回目	【ヘアアレンジ① こて巻き・逆毛・ハーフアップ】・ブロッキングしピンニングでハーフアップができるようになる(面出し・ルーズ)
7-8回目	【ヘアアレンジ② 編み込み・ルーズアップスタイル】表編み・裏編みや簡単なルーズアップスタイルができるようになる。
9-10回目	【ヘアアレンジ③ 面出しスタイル】きれいな面を生かした、夜会巻きができるようになる。(かぶせアップスタイル)
11-12回目	【ヘアアレンジ④ 面出しスタイル】きれいな面を生かした、夜会巻きができるようになる。(かぶせアップスタイル)
13-14回目	【メイクテクニック① イメージメイク理論】 イメージメイク(キュート・エレガント)が理解できるようになる。
15-16回目	【メイクテクニック② イメージメイク理論】 キュート・エレガントをポイントメイクでイメージ表現できるようになる。
17-18回目	【ヘアメイク実践①】着付けを意識したメイクとトータルバランスを知ることができる。
19-20回目	【メイクテクニック④ イメージメイク理論】 つや肌のイメージと施術の仕方を知ることができる。
21-22回目	【ヘアメイク実践②】ドレスを想定した、キュート系・エレガント系のヘアメイクができるようになる。
23-24回目	【ヘアメイク実践③】ドレスを想定した、キュート系・エレガント系のヘアメイクができるようになる。
25-26回目	着物に合うメイク・夜会巻きを時間内に施術することができるようになる。(実習復習①)
27-28回目	着物に合うメイク・夜会巻きを時間内に施術することができるようになる。(実習復習②)
29-30回目	着物に合うメイク・夜会巻きを時間内に施術することができるようになる。(実習復習③)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度50% ・ヘアメイク技術力50%
受講生へのメッセージ	後期に入り少しずつトータルでヘアメイクを施術していきます。 基礎力がそのまま生かされるので不安のある技術は復習を重ね習得できる努力をしましょう。 ヘアメイクを完成させる楽しさを、一緒に味わっていきましょう!
【使用教科書・教材・参考書】	
ヘアメイクの授業が交互にありますので、シラバスをよく確認し忘れ物がないようにしてください。 後期は接客業に携わる者としての自覚をもって行動してください。	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	ブライダル基礎 I						
開講科目英名	Bridal Manners I	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ホテルにてフロント勤務を経て、ブライダル業界へ転職。その後、ゲストハウス、ホテルにて、ブライダルプランナーとして、新規接客、打合せ、当日施行を経験。約1000件の婚礼を担当。現在は、ブライダル、実践心理学の講師や婚礼の現場にてディレクター業務を行う。

【授業の学習内容】

ブライダルの基礎知識を学び、実践できるよう理解を深めることが出来る。さらに、多様化するニーズと現状を理解し、提案できる知識を習得することが出来る。全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称:JL検定)合格を目指します。

【到達目標】

ブライダルの由来やしきたり、マナー、考え方を身につけることで、現場にふさわしい行動や言動をすることが出来る。ブライダルの知識の基礎を理解し、検定試験に合格できる知識を身につけることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション ブライダル基礎で学ぶ内容を理解できる。ブライダルの仕事には、どのようなものがあるのか理解できるようになる。 小テスト
2回目	接客知識 良い接客とは何か。現場で求められる接客について理解することが出来る。 小テスト
3回目	マナー 印象の良い、身だしなみ、行動、言動について理解し実践することが出来る。 小テスト
4回目	ウェディングの種類 ウェディングの種類を学び、それぞれの特徴や違いを理解し、説明できるようになる。 小テスト
5回目	日本のウェディングの歴史 古来からの流れを理解し、説明できるようになる。 小テスト
6回目	セレモニー・レセプションの現状とトレンド ニーズによる多様化と現状を理解することができる。 小テスト
7回目	ファッションコーディネート・フォーマルファッション① 基本的なウェディングファッションの特徴と専門用語を理解することができるようになる。 小テスト
8回目	ファッションコーディネート・フォーマルファッション② 会場やT・P・Oに合わせたウェディングドレスの特徴を理解し、説明できるようになる。 小テスト
9回目	カラーコーディネート 「色」の力を理解し、「色」の組み合わせから、イメージ作りをすることができるようになる。 小テスト
10回目	フラワーコーディネート ウェディングにおけるフラワー装飾について理解し、会場や装花、ブーケなどについて理解し、説明できるようになる。 小テスト
11回目	和装コーディネート 江戸時代から繋がる和装の婚礼衣装についての知識を理解することができる。専門用語を理解し、説明できるようになる。 小テスト
12回目	フォトスタイリング ウェディングを映像に残す際に必要な知識、アattend方法、より魅力的に写すための知識を理解できるようになる。 小テスト
13回目	カップルアattend 挙式・披露宴当日の新郎、新婦、ご親族さまなどの心情を理解し、的確なサポートを実施するための知識を理解できるようになる。 小テスト
14回目	結納、婚約の現状とトレンド 結納の意義やしきたり、婚約について理解し、説明できるようになる。 小テスト
15回目	前期のまとめと今後の課題理解 検定に向けて知識の復習と自分の理解不足の部分を理解し、克服するためにどうしたらよいか理解できる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・14回の小テスト
受講生へのメッセージ	ブライダルにどんなイメージを持っていますか?思い描くブライダルのイメージがある方も、そうでない方も、自分なら、どんな風にかかわっていきたくかをより具体的にイメージして頂きます。講義では、実際にアイテムを手にとって、触れて頂きます。たくさんの人に喜んでいただけるブライダルの現場で求められる身だしなみ、マナーはもちろんのこと、人を思いやる心を身につけて、人と人との結びつきをお手伝いする大切な役割を理解して頂ける授業です。まずは、基礎知識を学び、そして12月の検定に向けて合格を目指しましょう。そうすれば、自分にとっての選択肢がさらに広がります!

【使用教科書・教材・参考書】

ブライダルの基礎知識・ブライダル雑誌・ドレス・衣装・ウェディングアイテム

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	ブライダル基礎Ⅱ						
開講科目英名	Bridal Manners Ⅱ	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ホテルにてフロント勤務を経て、ブライダル業界へ転職。その後、ゲストハウス、ホテルにて、ブライダルプランナーとして、新規接客、打合せ、当日施行を経験。約1000件の婚礼を担当。現在は、ブライダル、実践心理学の講師や婚礼の現場にてディレクター業務を行う。

【授業の学習内容】

ブライダルの基礎知識を学び、実践できるよう理解を深めることが出来る。さらに、多様化するニーズと現状を理解し、提案できる知識を習得することが出来る。全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称:JL検定)合格を目指します。

【到達目標】

ブライダルの由来やしきたり、マナー、考え方を身につけることで、現場にふさわしい行動や言動をすることが出来る。ブライダルの知識の基礎を理解し、検定試験に合格できる知識を身につけることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	カップルアテンドの方法(テキストP72～77) アテンドの役割について理解し、説明できるようになる (小テスト) 専門用語(テキストP110～114) 専門用語について理解し、説明できるようになる (小テスト)
2回目	結納、婚約の現状とトレンド(テキストP78～83) 結納の意義やしきたりについて理解し、説明できるようになる。(小テスト)
3回目	JL検定対策① 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、見る・読む・書くことで、間違いを重点的に復習し、知識を高めることができる。
4回目	JL検定対策② 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、見る・読む・書くことで、間違いを重点的に復習し、知識を高めることができる。
5回目	JL検定対策③ 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、見る・読む・書くことで、間違いを重点的に復習し、知識を高めることができる。
6回目	JL検定対策④ 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、見る・読む・書くことで、間違いを重点的に復習し、知識を高めることができる。
7回目	JL検定対策⑤ 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、見る・読む・書くことで、間違いを重点的に復習し、知識を高めることができる。
8回目	JL検定対策⑥ 自己の理解度を最終確認し、本試験までの直前対策をたて、満点を目標に自信をもって、本試験に臨むことができる。
9回目	ブライダルの基礎知識 良い接客について、ディスカッションし、演習することで、実践的な接客の知識を理解することができる。
10回目	ブライダルの基礎知識 学んだコンテンツを関連付け、結婚式に携わる仕事について、理解を深めることができる。
11回目	ブライダルの基礎知識 身に付いた知識を使って、新規のお客様に説明できるようになる。
12回目	ブライダルの基礎知識 身に付いた各コンテンツの知識を使って、お客様に説明できるようになる①
13回目	ブライダルの基礎知識 身に付いた各コンテンツの知識を使って、お客様に説明できるようになる②
14回目	ブライダルの基礎知識 身に付いた知識を使って、お客様の要望を引き出し、提案することができる①
15回目	ブライダルの基礎知識 身に付いた知識を使って、お客様の要望を引き出し、提案することができる②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験 50% ・小テスト及び課題の完成度 50%
受講生へのメッセージ	ブライダルにどんなイメージを持っていますか?思い描くブライダルのイメージがある方も、そうでない方も、自分なら、どんな風にかかわっていきたくかをより具体的にイメージして頂きます。講義では、実際にアイテムを手にとって、触れて頂きます。たくさんの方に喜んでいただけるブライダルの現場で求められる身だしなみ、マナーはもちろんのこと、人を思いやる心を身につけて、人と人との結びつきをお手伝いする大切な役割を理解して頂ける授業です。まずは、基礎知識を学び、そして12月の検定に向けて合格を目指しましょう。そうすれば、自分にとっての選択肢がさらに広がります!

【使用教科書・教材・参考書】

ブライダルの基礎知識・ブライダル雑誌・ドレス・衣装・ウェディングアイテム

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	プレゼンテーションスキル I						
開講科目英名	Presentation skill I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当する。現在は、若年者への指導と共に、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。

【授業の学習内容】

最初に、伝える技術の基本となるコミュニケーションを習得する。次に、内容を相手に伝える態度、動作、表情、話し方等プレゼンテーションの基本を学習し活用していく。人前で話すことに慣れるため、発表を積極的に行う。後半はグループでの作業を中心に、プレゼンテーションスキル(スライドの作成、発表の技術)と共に、グループで協働する為に必要なスキルも身に着ける。この授業ではMicrosoft office (Teams、PowerPoint、Excel、Word)を積極的に活用していく。

【到達目標】

相手に伝え、理解してもらい、行動に移してもらえるプレゼンテーションができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 目標設定 プレゼンテーションの基本
2回目	プレゼンテーションスキル 基本① コミュニケーションスキルを高める。相手に与える印象(態度、身だしなみ、表情等)を理解し、相手に話しを聞いてもらえる環境作りができるようになる。
3回目	プレゼンテーションスキル 基本② 話し方のスキル(声の大きさ、間のとり方、目線、伝える順序等)を習得し、相手に伝わる話し方ができるようになる。
4回目	プレゼンテーションスキル 基本③ プレゼンテーションに必要なこと言葉遣いや言葉の選び方を確認し、使えるようになる。
5回目	確認テスト(基本スキル編)与えられたタイトルについて発表(基本スキルが身についているかを確認する)
6回目	プレゼンテーションスキル 応用① 与えられたパワーポイントのスライドでプレゼンテーションを考え、発表することができるようになる。
7回目	中間発表リハーサル(評価)
8回目	プレゼンテーションスキル 応用③ 与えられたパワーポイントのスライドでプレゼンテーションを考え、発表することができるようになる。
9回目	プレゼンテーションスキル 応用④ 与えられたパワーポイントのスライドでプレゼンテーションを考え、発表することができるようになる。
10回目	確認テスト(応用スキル編) 発表と評価(発表を聞いて、評価シートに記入)
11回目	企業プロジェクト準備 プレゼンテーションの動画を視聴 発表の仕方を振り返り再度組み立てる より伝わりやすいプレゼンテーションを考えることができるようになる
12回目	プレゼンテーション発表練習
13回目	プレゼンテーション発表練習(評価)
14回目	振り返り 企業プレゼンテーションの反省 成功した点 失敗した点の洗い出し 今後の取り組み方を検討することで、PDCAを回して目標を達成させることができるようになる
15回目	(総仕上げ)グループ発表 & 質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合を単位認定とする。
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・3回の技術評価テストを授業内で行う(与えられた課題についてのプレゼンテーションを行う) 60% ・授業ノート、プレゼンテーション評価シート 40%
受講生へのメッセージ	プレゼンテーションの基本は相手に伝えて、相手がその内容を理解して、行動に移してくれることです。この授業では、相手に伝わる技術を、毎回の授業の中で講義と実践を通して習得していきます。目的を持って、その目的を達成させる意欲を持って授業に臨んでください。プレゼンテーションスキルだけでなく、社会人として必要となるビジネスマナーも身に着けていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
資料は配布します。必要なことは授業内でメモを取り、ファイリングを各自で毎回行ってください。	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	プレゼンテーションスキルⅡ						
開講科目英名	Presentation skillⅡ	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当する。現在は、若年者への指導と共に、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。

【授業の学習内容】

伝えなければいけないことを明確にでき、自分の言葉にするためには、常に考え伝える練習が必要である。プレゼンテーションの練習だけではなく、ディスカッションを通して、自分の言葉で語れるようにする。

【到達目標】

社会で必要とされるプレゼンテーションスキルを身に付け、聴き手を確実に行動に導くことが出来るプレゼンテーションができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション
2回目	プレゼンテーションの基本(良いプレゼンと悪いプレゼンの違いを認識することができる)
3回目	演習(プレゼンテーション)2回目の内容を理解して、現時点での自分自身のプレゼンテーションスキルを理解できるようになる
4回目	演習(プレゼンテーション)2回目の内容を理解して、現時点での自分自身のプレゼンテーションスキルを理解できるようになる
5回目	プレゼンテーションの構成を考える(相手に伝わるプレゼンテーションの構成を考えることができる)
6回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
7回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
8回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
9回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる
10回目	課題(課題の内容発表、計画書作成)
11回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる
12回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる
13回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる
14回目	課題発表で成果を見せる①
15回目	課題発表で成果を見せる②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合を単位認定とする。
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・課題に対して適切に答えているか 30% ・自分の言葉で発表することができるか 40% ・論理的な説明ができているか 30%
受講生へのメッセージ	プレゼンテーションは社会人として重要なスキルの1つです。何を伝えるか内容も重要ですが、伝わるように構成や言葉選びも必要です。1つ1つの授業を大切に、学んだことを自分のものにしていけるように取り組んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	
授業に必要な資料は配布します。	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	ホスピタリティリサーチ I					
開講科目英名	Hospitality research I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
本校の各スタッフ						
【授業の学習内容】						
本当の“ホスピタリティ”の意味と価値を学び、自分らしい「ホスピタリティ」ができる人になることを目指します						
【到達目標】						
本当の“ホスピタリティ”を理解・実践し、検定合格を目指します。						

回数	授業計画・内容
1回目	授業について 自己紹介 / 今まで受けた「最高のホスピタリティ」の発見
2回目	第1章 日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性 第1章から現在のホスピタリティの重要性を学ぶことができる
3回目	第1章 日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性 前回の授業の知識からグループワークを行い、様々なホスピタリティがあることを発見することができる。
4回目	第2章 ホスピタリティの歴史と文化 についてホスピタリティはどのような考えから来たのかを学ぶことができる。
5回目	第3章 サービスとホスピタリティの語源 について、ホスピタリティという言葉の発端は何なのかを学ぶことができる。
6回目	第4章 ホスピタリティの定義 について、「サービス」と「ホスピタリティ」の違いを学ぶことができる。
7回目	第5章 ホスピタリティの5領域 について、人間の「欲求」とは何かを学ぶことができる。
8回目	第6章 組織と顧客のホスピタリティ について、ホスピタリティの出発点は何かに気づくことができる。
9回目	第6章の学びからグループワークを行い、人とは違うホスピタリティを見つけることができる
10回目	第7章 組織と社員(従業員)のホスピタリティ についてグループワークを行いながら、身近なホスピタリティを発見することができる。
11回目	第8章 ホスピタリティの実践 についてグループワークを行いながら考えることができる。
12回目	第9章各産業におけるホスピタリティの実践 について チームに分かれてリサーチし、発表準備を行う。
13回目	第9章各産業におけるホスピタリティの実践 について チームに分かれてリサーチした内容を発表し、理解することができる。
14回目	検定合格に向けて、振り返りを行い、理解度を図ることができる①
15回目	検定合格に向けて、振り返りを行い、理解度を図ることができる②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・レポート提出 30% ・授業中の課題提出 30% ・授業、検定に対する取り組み姿勢 40%
受講生へのメッセージ	この学校は「ホスピタリティ」を学んで、当然のように対応する人を育てる学校です。 「ホスピタリティ」とは、相手をドキドキさせて喜ばせたり、「ありがとう」という言葉を求めるものだけではありません。 本当の「ホスピタリティ」を学んで、「さすがJSHの学生！」と言われる学校にしましょう！ それができるのは、皆さんしかいません！！
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	マーケティング I					
開講科目英名	Marketing I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。

【授業の学習内容】

マーケティングの知識やフレームワークを中心に学び、社会で活躍する上で大切なスキルである問題発見力・解決力、提案力を高める。授業では身近な事例を活用した知識習得や個人やグループでの実習を通して学習する。

【到達目標】

習得したマーケティングの知識やフレームワークを駆使し、真の問題を見つけ出すと共にその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】本クラスでマーケティングを学ぶ理由、授業の全体像、フレームワークの概略について理解し、受講の目的や意義を理解する。
2回目	【論理思考の基本技法】演繹法・帰納法・認知バイアスを理解することで自分の頭で考えるコツを学び、基本的な論理思考ができるようになる。
3回目	【コミュニケーションの基本技法】ピラミッドストラクチャーとプレゼンテーションの技法を用いて、納得感・共感を得られる説明ができるようになる。
4回目	【問題発見・解決の基本技法】MECEとロジックツリーを用いて、真の問題を発見し解決案を導き出すことができるようになる。
5回目	【マーケティング基礎知識1】「価値の構造」と「プロモーションの種類」を学び、マーケティング視点の発想ができるようになる。
6回目	【マーケティング基礎知識2】「顧客の構造」と「購買行動モデル」を学び、マーケティング視点の発想ができるようになる。
7回目	【マーケティングフレームワーク演習1:PEST】PESTフレームワークを用いて、外部環境の調査・分析ができるようになる。
8回目	【マーケティングフレームワーク演習2:3C】3C, SWOTフレームワークを用いて、内部環境の調査・分析ができるようになる。
9回目	【マーケティングフレームワーク演習3:STP】STPフレームワークを用いて顧客理解の重要性を理解し、マーケティングの基本戦略が立案できるようになる。
10回目	【マーケティングフレームワーク演習4:4P】4Pフレームワークを用いて、具体的なマーケティング施策が立案できるようになる。
11回目	【マーケティング発想力1:リサーチ】様々なリサーチの手法を用いて、適切な仮説や結論を導き出すための調査ができるようになる。
12回目	【マーケティング発想力2:カスタマーインサイト】ペルソナ分析を用いて、顧客の視点や価値観を深く探ることができるようになる。
13回目	【個人課題制作】ここまで学んだフレームワークや知識・技術を駆使してマーケティングプランを作成する。
14回目	【プレゼンテーション】第13回で作成したマーケティングプランを発表する(試験)。
15回目	【本クラスの総まとめ】ここまで学んだ内容を復習することで記憶に定着させ、後期授業や就職後の実務に活かすことができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 授業態度評価(主体的・積極的な受講姿勢、粘り強く課題に取り組む姿勢)40%+ 技術評価(マーケティング企画及びプレゼンテーション)60%とする。 技術評価の詳細は下記の通りである。 ・第14回のプレゼンテーションにて「プレゼンの目的、ターゲットとその評価基準を考慮した設計ができています」か評価:25% ・第14回のプレゼンテーションにて「納得感のある論理構成を構築し、他者に説得力のある説明ができています」か評価:50% ・第14回のプレゼンテーションにて「しっかりと事前準備を行い、聞き手に伝わりやすい表現を工夫ができています」か評価:25%
受講生へのメッセージ	皆さんは卒業後、今までの学生時代とは違い”正解”がない世界に足を踏み入れます。そこでは「自分の頭でフラットに考える力」「考えを正確に伝え納得感を得る力」が大切です。このクラスでは、ビジネススキルの中でも皆さんにとって最も役立つと思われるマーケティングの知識を習得するとともに、皆さんの「考える力」「伝える力」の向上を目指します。今は何となく難しそうだと感じるかもしれませんが、皆さんに馴染みのある具体的な事例を用いながら、座学だけではなく、チームでの実習を通じて楽しみながら学習できる内容になっています。積極的、前向きに楽しみながら取り組んでください！
【使用教科書・教材・参考書】	
「コンサルタントが使っている フレームワーク思考法」高橋健三 著 中経出版社	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	企業研究 I					
開講科目英名	Corporate research I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。						
【授業の学習内容】						
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。						
【到達目標】						
前期で学んだマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	【クラスオリエンテーション・予備調査】本クラスで扱う課題と進め方の概略について理解し予備調査を始める。簡単な企業リサーチができるようになる。
2回目	【外内部環境リサーチ】課題解決に向けて必要な情報を収集する。多種多様な情報ソースから必要と思われる情報にアクセスできるようになる。
3回目	【企業オリエンテーション】企業からのオリエンテーションを受け、話の内容から現状の把握、課題内容の把握を聞き取り整理できるようになる。
4回目	【課題設定・解決策検討】マーケティングのフレームワークを駆使し、課題の解決策を検討する。仮説検証力を身につけることができる。
5回目	【解決策検討・資料作成】前回到引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
6回目	【解決策検討・資料作成】先週に引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
7回目	【中間発表リハーサル】翌週の中間発表に向けリハーサルを行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
8回目	【中間報告】ここまで立案してきた内容を企業に伝えフィードバックをいただく。伝えるべき内容を相手にわかりやすく伝えることができるようになる。
9回目	【リサーチ&解決策検討】不足情報のリサーチと解決策の検討、論理構成の強化を行う。説得力ある論拠を導き出せるようになる。。
10回目	【解決策検討・資料作成】前回到引き続き解決策の検討を実施し、最終的な解決策を立案する。問題解決力を強化することができる。
11回目	【最終プレゼンリハーサル】翌週の最終プレゼンに向けリハーサルと改善を行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
12回目	【最終プレゼンテーション】ここまで検討してきた課題解決の提案を実施する。ビジネスプレゼンテーションを経験し今後の成長に活かすことができるようになる。
13回目	【講師フィードバック】最終プレゼンを受けて講師からの個別フィードバックを行う。現状不足しているスキルを理解することで今後の成長に活かすことができる。
14回目	【マーケティング総まとめ】簡単なテストやレポートを実施し、前期からここまで学んできた内容を整理する。一年間の学びを体系的に理解できるようになる。
15回目	【最終フィードバック】1年間学んだことを整理し講師からのフィードバックを受ける。現状の立ち位置を理解することで今後の成長を効果的に加速できるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・担当企業へのプレゼンテーション(60%) (内訳)提案内容の論理構成:50%、プレゼンでの表現力:50% ・第14回でのテスト(20%);第14回で実施するマーケティング理解力テストの成績 ・授業態度評価(20%);課題への取り組み意欲
受講生へのメッセージ	どんな職種に就いても「考える力、伝える力」は社会人として必須の基礎力となります。本クラスでは実際の企業様の課題に向き合い、前期で学んだマーケティングの知識を活用して筋のいい問題解決案を導き出すとともに、知識を実務で使える知恵に成長させていきます。そのためにも「自ら学び、考え、行動し、発信する人」という姿勢を心がけてください。このような課題は積極的な姿勢が必要不可欠です。ハードルは高いかもしれませんが我々講師陣ももちろんサポートしていきます。楽しみながら取り組んでいってくださいね。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	就職対策 I					
開講科目英名	Employment Support I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。

【授業の学習内容】

社会人になるにあたり、必要な基本的なマナーを習得する。プライダルの現場は、どのサービス業よりも感じの良い、心からの接遇が求められる。第一印象、身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣い、会話など、信頼され、自信をもって活躍できる社会人としての接遇スキルを学び、演習や日常の学校生活の中で学校ルールを徹底し、実践を通して「わかる」だけでなく「できる」に落とし込み、習慣化する。

【到達目標】

・社会人に必要な基本的なルールが身につく、実践できるようになる。
・校外の訪問者や学校関係者同士のコミュニケーションで、印象の良い接遇を実行でき、誰にでも好印象を与えるコミュニケーションスキルの基本を体得することができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	コミュニケーション、マナーの意味を知り、プライダル業界で必要とされる人物像について体験的に理解する。校内で具体的にどのようなシチュエーションで、どのような配慮が必要かを確認する。
2回目	基本的対話スキル① 信頼される1対1のコミュニケーションの取り方が理解でき、実践できるようになる。話す・聴くの基本を学び、実践できるようになる。
3回目	基本的対話スキル② グループで会話するときの、プレゼンテーションスキルを学び、実践できるようになる。
4回目	自己表現スキル① 基本的な社会的マナーを学び、実践できるようになる。
5回目	自己表現スキル② 仕事をする上で必要な「報連相」「交渉」などの表現、技術を学び、実践できるようになる。
6回目	社会的スキル① 電話対応① ビジネスに必要な電話対応の基本を学び、実践できるようになる。
7回目	社会的スキル② 電話対応② ビジネスに必要な電話対応の応用、伝言メモなど学び、実践できるようになる。
8回目	社会的スキル③ 文書・メールなどの公的文書の存在を理解できる。
9回目	社会的スキル④ アポイントのとり方や公的な訪問マナーが理解でき、実践できるようになる。
10回目	食事のマナー 社会人として恥ずかしくない食事のマナーを理解でき、自信をもって振る舞えるようになる。
11回目	実技演習① 前期試験に向けて、就職活動の面接の場面を模し、入退室の方法や流れなどを学び、実践する。
12回目	実技演習② 前期試験に向けて、就職活動の面接を模して、接遇マナースキルの確認をし、自然に振る舞えるようになる。
13回目	前期定期試験実施(個人面接動作)
14回目	実技試験振り返り。初回からの成長を振り返るとともに、自分の今後の課題もまとめ、目標をもって行動できるようになる。
15回目	前期の振り返りと夏休みの課題確認。後期に向けての目標設定。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験(個人面接動作) 100%
受講生へのメッセージ	プライダル業界で通用する「マナー」を身につけていると、社会人として、ビジネスでもプライベートでも、信頼されます。入学直後から「就職対策」と思うと、早いと思うかもしれませんが、今から継続して確実に身に付けるマナーこそが大切です。「マナー」と聞くと、堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、今後の人生が、より豊かで、より幸せにスムーズに周りとのコミュニケーションを取れる最強アイテムです。知らなくて恥ずかしい思いをしなくて済むように、基礎からしっかりと、正しいマナーを身につけ、実践し、より「洗練された人」になり、メッキではない、本物の人間性を高め、自信をもって就職活動に臨める自分づくりをしていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成プリント・コミュニケーションスキルアップ検定テキスト	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	就職対策Ⅱ						
開講科目英名	Employment SupportⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2		
【担当教員 実務者経験】							
・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
・希望の就職先に就職するための準備を始めます。一年生前期からの総まとめとして、後悔しない就職活動のための自己分析とプレゼンテーションスキル、コミュニケーションスキルを磨きます。 ・自己理解をはじめ、自分を語れる準備を進めます。							
【到達目標】							
・自己イメージの通りに自分を伝えるポイントを理解することができるようになる。 ・自己分析を通して、自己理解をはじめ、それを他者に伝えることができるようになる。 ・ブライダル業界人としてふさわしい立ち居振る舞いなどを理解し、実践できるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 ・この講義で学ぶことを再確認し、どのような自分になりたいのかを具体的にイメージし、言語化する。ライフラインチャートを作成する必要性を理解できる。・自分がどのようなことを経験してきているのかを客観視できる。
2回目	【印象の良い立ち居振る舞い】 ・前期の復習も兼ね、自分が見せたいイメージを理解し、それにふさわしい振る舞い(立ち姿勢、立ち方、歩き方、座り方、座り姿勢、ジェスチャー、表情など)を実践できる。
3回目	【印象の良い聴き方】 ・傾聴力の必要性を理解し、他者から好印象を持たれる傾聴姿勢やスキルを実践できる。
4回目	【印象の良い話し方】 ・印象よく、自分の伝えたいイメージに沿った話し方のポイント(速さ、トーン、抑揚、間合い、語尾、言葉遣いなど)を理解し実践できる。
5回目	【CSU検定対策特講】 ・出題傾向を把握し、模擬試験の結果をもとに、自分の間違いやすいポイント、正しく覚えられていない点などを理解し、合格できる知識を確認することができる。
6回目	【CSU検定直前対策特講】 ・出題傾向を把握し、模擬試験の結果をもとに、自分の間違いやすいポイント、正しく覚えられていない点などを理解し、合格できる知識を確認することができる。
7回目	【自分のコミュニケーションスタイルを知る】 ・コンセンサスワークとおして、自分のコミュニケーションスタイルを知り、自他の違いを理解できる。 ・他者とのコンセンサスを図るためのコミュニケーションスキルを知ることができる。
8回目	【自分の想いを他者に伝えるポイントを知る】 ・自分の知識や経験、考えを他者に適切に的確に伝えることの大切さを知ることができる。 ・具体的な伝え方のポイントを体験的に理解することができる。
9回目	【自分の過去を語る】 ・ライフラインチャートを基に、自分を語ることができる。 ・自分の過去について自己理解を深め、これからの行動に活かすことができる。
10回目	【自分の現在地を語る】 ・自分の現在の様子を語ることができる。 ・今の自分は何を大切にどのような価値観で生きているのかを自覚できる。
11回目	【自分の未来を語る】 ・未来の自分はどのような人生を送っていきたいのかを考えることができる。 ・自分のイメージを他者にわかりやすく伝えることができる。
12回目	【より具体的に魅力的に伝えるポイントを知る】 ・表現力の大切さを理解し、実践することができる。 ・緊張感に負けないメンタルの必要性を理解することができる。
13回目	【グループ面接演習】 ・実技試験に向けて、グループ面接の際の基本的な入室のマナーや応答の仕方を理解できる。 ・演習を通して、自分を客観視し、改善したい部分を明確にできる。
14回目	【実技試験】 ・グループ面接(入室の動きに加え、他者が話している際の傾聴姿勢や質疑応答の話し方などを確認します)
15回目	【次年度に向けての意識付け】 ・一年次に学んだことを確認し、自分に不足している点、改善できる点を理解し、どう具体的に行動し、改善していくのかの行動指針を明確にできる。

評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験…50点(面接実技) ・課題提出(ライフラインチャート10点、各回の講義のポイント13回×2点) ・技術評価…(演習の取り組み姿勢14点)
受講生へのメッセージ	ブライダル業界で活躍するために、必要な基本的なマナーやコミュニケーションスキルを学んだ前期に引き続き、基本的なマナーを身に付けることを意識して、日々行動しましょう。基本的なプレゼンテーションスキルも高めつつ、ブライダル業界人としてふさわしい人格をイメージして、実践していきましょう。 メッキは剥がれますので、本物の定着を求めます。また、CSU検定は、全員合格を目指して、キャリアの授業と連携して対策をします。 また、就職活動の際に必要な自己分析と企業研究を始めましょう。焦る必要は全くありませんが、早めの備えは必要です。 毎回のワークで、ムリなく進んでいきますので、この講義をフル活用して、皆さんの夢の実現に役立ててください。

【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成プリント・コミュニケーションスキルアップ検定テキスト・就活ノート(各自作成用)	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
開講科目名	着付 I					
開講科目英名	Kitsuke I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員・実務者経験】

You&きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・箆笄整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営・日本文化を通して学ぶ大人の教養講座を行っている。

【授業の学習内容】

日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では基本である小紋・名古屋帯を使用し、着せ付けの基本を学ぶ。着せ付けの技術だけでなく、日本人としての在り方、着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。また実践形式での授業で自らメモをとって知識を深める。着付けを通して、社会人としての役立つ力も同時に学んでいく。

【到達目標】

着せ付けの基本知識・技術を身に付けること。実践的な場面を想定しての練習を通して、15分着せ付けを目標とする。着付けに関する基礎知識を習得しながら、本授業終了時には、小紋・太鼓結びの着せ付けができるようになる。また着付けを通して礼節、日本の伝統文化に興味を持つこと、行儀作法や物を大切に作る心、美しい立ち居振る舞いへの意識、相手への気遣いができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション
2回目	講義: 日本文化と着物について理解する
3回目	講義: 日本文化と着物について理解する
4回目	(着せ付け前の準備～小紋)長襦袢の準備・補正・長襦袢・小紋(腰ひもまで)・着物・長襦袢のたたみ方・小物の片付け方ができるようになる。
5回目	(小紋着せ付け)準備から小紋までの着せ付けの順番が理解できるようになる
6回目	(小紋着せ付け)準備から小紋までの着せ付けの順番が理解できるようになる
7回目	(名古屋帯)一重太鼓の順序を理解できるようになる
8回目	(小紋・名古屋帯)一重太鼓の順序を理解できるようになる
9回目	(練習)準備～帯までの一連の流れができるようになる
10回目	(練習)準備～帯までの一連の流れができるようになる
11回目	(練習)15分着せ付けができるようになる(練習)
12回目	(練習)15分着せ付けができるようになる(ペアで苦手な部分を確認しあう)
13回目	(練習)15分着せ付けができるようになる(確認)
14回目	(確認)小紋・一重太鼓の15分着せ付け / 準備 5分 / 片付け 10分 ができるかどうかを確認し、さらに力を付ける
15回目	着物を着て写真撮影し、どこまでできるようになったかを振り返って確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験 50% ・筆記試験 40% ・授業態度 10%
受講生へのメッセージ	着付けの授業は欠席をされますとついてこれなくなりますので、できるだけ出席されることをおすすめします。また忘れ物は他の方の迷惑となりますのでお気をつけください。授業中の携帯電話の使用(動画や写真撮影)は許可がない限り禁止です。自らメモをとり積極的に参加取り組むようお願いいたします。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
開講科目名	着付Ⅱ						
開講科目英名	KitsukeⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

You&きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・箆笄整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営・日本文化を通して学ぶ大人の教養講座を行っている。

【授業の学習内容】

日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では前期授業で習得した小紋・名古屋帯の着せ付けをふまえ、自装を学ぶ。着付けの技術だけでなく、日本人としての在り方、着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。また実践形式での授業で自らメモをとって知識を深める。着付けを通して、社会人としての役立つ力も同時に学んでいく。

【到達目標】

着付の基本知識・技術を身に付けること。実践的な場面を想定しての練習を行い、15分着付けを目標とする。着付けに関する基礎知識を習得しながら、本授業終了時には、小紋・太鼓結びの自装ができるようになる。また着付けを通して礼節、日本の伝統文化に興味を持つこと、行儀作法や物を大切にすること、美しい立ち居振る舞いへの意識、相手への気遣いができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明・長襦袢までの順序・片付け
2回目	(自装)：準備～着物まで順序を理解できるようになる
3回目	(自装)一重太鼓の順序が理解できるようになる
4回目	(自装)準備～名古屋帯までの順序を理解できるようになる
5回目	(自装)準備～名古屋帯までの順序を理解できるようになる
6回目	(自装)一重太鼓までが20分で着れるようになる
7回目	(自装)一重太鼓までが20分で着れるようになる
8回目	(自装)一重太鼓までが15分で着れるようになる
9回目	(講義)日本文化と着物についての知識を深めることができるようになる
10回目	(自装)一重太鼓までが15分で着れるようになる
11回目	(自装・確認チェック)15分で着物・一重太鼓ができるようになる
12回目	(講義)日本文化と着物についての知識を深めることができるようになる
13回目	今までの授業内容の確認し、物の名前から手順すべてを確認する
14回目	(他装・復習)小紋の着せ付け・伊達衿付と名古屋帯ができるようになる
15回目	小紋を着用し、お出かけを行う(歩き方や座り方・階段の上り方など普段の服装と所作が違うことを実感する)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験 50% ・筆記試験 40% ・授業態度 10%
受講生へのメッセージ	着付けの授業は欠席をされますとついてこれなくなりますので、できるだけ出席されることをおすすめします。また忘れ物は他の方の迷惑となりますのでお気をつけください。授業中の携帯電話の使用(動画や写真撮影)は許可がない限り禁止です。自らメモをとり積極的に参加取り組むようお願いいたします。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	イベントプランニング I						
開講科目英名	Event Planning I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。

【授業の学習内容】

企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
3-4回目	【企画立案力を身に付ける】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる
5-6回目	【イベントとは】現在行われているイベントの一つを選び、そのイベントについてスケジュールや予算などを想定し、今後の企画書作りにつなげることができる
7-8回目	【企画書の作り方を身に付ける】 制作スケジュールの作成が出来るようになる
9-10回目	【企画書の作り方を身に付ける】 公演概要書の作成が出来るようになる
11-12回目	【企画書の作り方を身に付ける】 企画書の作成が出来るようになる
13-14回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する
15-16回目	【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールの作成が出来るようになる
17-18回目	【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解し、作成出来るようになる
19-20回目	プレゼンテーションリハ イベント企画についての発表の練習を行う
21-22回目	プレゼンテーション 各チームのイベント企画提案について評価を行い、改善を行っていく
23-24回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる
25-26回目	【イベント制作の基礎知識】 イベント制作の流れを理解し、作成出来るようになる
27-28回目	【イベント制作の基礎知識】 反省会～報告書の作成ができるようになる
29-30回目	後期の授業に使うイベント資料をまとめ、実施に向けて準備を行っていく
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・グループワークへの取り組み方・・・30% ・プレゼンテーションへの取り組み方・・・40% ・提出物・・・30%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
開講科目名	イベント実践 I						
開講科目英名	Event practice I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。

【授業の学習内容】

イベント開催をゼロから考えていきます。
 企画立案、企画書作成、企画内容の発表、そしてコロナ渦でも実施できるイベント開催の実現。
 個人力とチーム力をかけ合わせることで、イベント企画・運営力の習得に加え、協調性を育みます。

【到達目標】

- * イベントの「目的」を考えたり、「目標」を明確にすることが出来るようになります。
- * 個人及びチームでイベントをゼロから考える力を養い、企画立案及びプレゼンが出来るようになります。
- * 「コロナ渦」においてもイベント開催準備及び開催が出来るようになります。

回数	授業計画・内容
1-2回目	オリエンテーション: 本授業の目的や進め方等を理解する
3-4回目	イベントの種類や内容を調査・まとめることにより、イベントの種類を理解できるようになる①
5-6回目	イベントの種類や内容を調査・まとめることにより、イベントの種類を理解できるようになる②
7-8回目	具体的な「企画内容」を考え、企画立案ができるようになる①
9-10回目	具体的な「企画内容」を考え、企画立案ができるようになる②
11-12回目	企画内容をまとめ、企画書が作成できるようになる(企画内容の目的や目標の明確化)①
13-14回目	企画内容をまとめ、企画書が作成できるようになる(企画内容の目的や目標の明確化)②
15-16回目	企画内容の問題点(リスク)の洗い出しと改善策を考えることにより、リスクマネジメントが理解できるようになる
17-18回目	企画案を発表(チーム毎)することにより、プレゼンテーションが出来るようになる(企画内容の共有化)
19-20回目	イベント開催に向けた具体的な準備を行う① イベントに必要なものを把握できるようになる
21-22回目	イベント開催に向けた具体的な準備を行う② イベント開催時のタイムスケジュールが作成できるようになる
23-24回目	イベント開催に向けた具体的な準備を行う③ イベントの集客方法を企画できるようになる
25-26回目	イベント開催①(イベント運営全般を理解できるようになる)
27-28回目	イベント開催②(イベント運営全般を理解できるようになる)
29-30回目	成果と反省(全体総括)を行い、改善点を理解し整理する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 * グループワークの取り組み方 20% * プレゼンテーションの取り組み方 30% * イベント当日の取り組み方 50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	必修 選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ウェディングパーティー基礎 I						
開講科目英名	Wedding Party basic I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。
 フLOWER装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター2級

【授業の学習内容】

ブライダルにおけるトータル知識を用いて、その重要性和アプローチ方法・コーディネート力を身に付ける

【到達目標】

お客様の求めているものを聞き出しそれを提案して形に出来るようになる

回数	授業計画・内容
1-2回目	オリエンテーション この授業の目標点について トータルプロデュースに必要な事と目的について
3-4回目	お打ち合わせに大切なことを知る 打合せの流れからポイント、話の聞き出し方と進め方を理解する
5-6回目	聴く力とコミュニケーションの大切さを理解し打ち合わせを円滑に進めることが出来るようになる
7-8回目	配色のセオリー 色相・トーン・配色を理解しコーディネート出来るようになる
9-10回目	イメージとカラーの関係を理解し、イメージからコーディネート出来るようになる →PCを使用してイメージスクラップシート作成
11-12回目	ブーケの種類と使用花材、カラーコーディネートについて理解する →ブーケデザインが出来るようになる
13-14回目	ドレスとブーケの関係性・ヘアメイク・ヘアードについて 好みのドレスと似合うドレス パーソナルチェックシートを利用し骨格・パーソナルカラーから似合うドレスをコーディネート出来るようになる →スタイリングコンセプトシート
15-16回目	二人一組でお互いをヒアリングし、ドレス・ブーケ・ヘアのスタイリングコンセプトシートを作成することが出来るようになる →パーソナルチェックを組み入れたスタイリングコンセプトシートを作成する ※提出課題 スタイリングコンセプトシート
17-18回目	スタイリングコンセプトシートを使用してブーケデザイン・花材決め・花材発注を行う ※提出課題 ブーケデザイン・発注書
19-20回目	フラワー実習① アーティフィシャルフラワーを使って花材のワイヤーテクニックとテーピングができるようになるヘアード・ブートニア作成・リボン作成①
21-22回目	フラワー実習① アーティフィシャルフラワーを使って花材のワイヤーテクニックとテーピングができるようになるヘアード・ブートニア作成・リボン作成②
23-24回目	フラワー実習② 発注花材でラウンドアレンジの基本を学び、ラウンドアレンジメントが作成できるようになる①
25-26回目	フラワー実習② 発注花材でラウンドアレンジの基本を学び、ラウンドアレンジメントが作成できるようになる②
27-28回目	フラワー実習③ ラウンドブーケの基本を学び、ラウンドブーケを作成する①
29-30回目	フラワー実習③ ラウンドブーケの基本を学び、ラウンドブーケを作成する② 後期の授業の流れの説明を行い、目標を改めて立てる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・技術評価 60% 『ヘアード・ブートニア作成・リボン作成』『ラウンドアレンジメント』『ラウンドブーケ』『プレゼン発表』 ・提出課題 40% 『スタイリングコンセプトシート』『ブーケデザイン・発注書』
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ウェディングパーティー実務 I					
開講科目英名	Wedding Party practice I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			4	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

ブライダルにおけるトータルの知識を用いて、その重要性和アプローチ方法・コーディネート力を身に付ける

【到達目標】

披露宴の流れを理解し、各役割を把握して、自分以外の担当の動きも理解しながら、模擬披露宴を作り上げることができる

回数	授業計画・内容
1-2回目	オリエンテーション(自身を分かりやすく伝える)
3-4回目	施行までのお打ち合わせの流れと、披露宴の流れを知る
5-6回目	進行表の作り方を知り、進行に合わせた演出物、その他アイテムの種類を知る
7-8回目	御見積の内訳と利益構造を知る
9-10回目	チームごとにセッションを行い、相手チームのヒアリングを行う
11-12回目	発注物の種類を知り、指示書を理解する イメージシート、御見積、進行表を作成する
13-14回目	中間セッションを行い、相手チームに提案を行うことができる
15-16回目	装花についての打ち訳と、平均的な金額を知る(披露宴の平均的な価格を把握することができる) 装花イメージシートを作成する 最終御見積、進行表を作成する 指示書を完成させる
17-18回目	披露宴の流れを各チームで確認し、進行表の見直しを行う①
19-20回目	披露宴の流れを各チームで確認し、進行表の見直しを行う②
21-22回目	披露宴の流れを各チームで確認し、進行表の見直しを行う③(発表前のリハーサルを行う)
23-24回目	模擬披露宴の発表①
25-26回目	模擬披露宴の発表②
27-28回目	模擬披露宴の映像で振り返りを行う①
29-30回目	模擬披露宴の映像で振り返りを行う②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・自己評価点 20% ・プレゼン評価点 80%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	キャプテン業務 I					
開講科目英名	captain service I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2		

【担当教員 実務者経験】

アルバイト経験を含めおよそ10年間、レストランサービスの現場に携わる。フレンチのサービスから始まり、イタリアン、buffet、和食、宴会ブライダル専門学校を卒業後、ウェディングプランナーとして就職。その後フリーに転身し、プロデュース会社を中心にブライダル業務に従事。新規接客・担当業務に限らず、キャプテン業務、衣装コーディネーター(洋装・和装)、PA等、ブライダル業務を幅広く経験し、現在に至る。

【授業の学習内容】

プロフェッショナルとして料飲接客サービスを行うためには、料理を構成する食材の知識とルーツを知る必要がある。また、料理とともに楽しむ飲料の知識とサービススキルも欠かすことのできないものである。本授業では上記を、座学と実習形式の授業を通じて習得する。

【到達目標】

料飲接客サービスの知識と基礎的な技術習得を目標とする。
料理、食材、飲料の説明、アレルギーへの対応、お皿運び、トレーサービス、ワイン抜栓からエチケットまでができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) 学びにあたって、知識や技術習得の必要性和活用、サービスの目的を理解する。
2回目	(座学①) レストランサービス / グリーティング～退店までの一連の流れが頭で理解できるようになる。
3回目	(座学②) コースの理解 / フレンチ、イタリアン、和食、中華の歴史や違いが説明できるようになる。
4回目	(アクティビティ① 私のお好きなレストラン) 他者の視点を知ることで、「よいお店」のイメージを膨らませることができるようになる。
5回目	(アクティビティ② プロフェッショナルインタビュー) 料理を作る側の人の気持ちを知ることで、「個」→「チーム」で意識できるようになる。
6回目	(確認) 2～5回の講義で学んだ知識の理解度確認
7回目	(ワイン①) 赤、白、スパークリングそれぞれの特徴が説明できるようになる。
8回目	(ワイン②) ワインづくりに使用される代表的なブドウの種類が説明できるようになる。
9回目	(食衛生) 代表的な食中毒の種類を理解するとともに、その影響の大きさを知り危機意識が持てるようになる。
10回目	(食育) 現代のアレルギー品目や食育の必要性について説明できるようになる。
11回目	(確認) 7～10回の講義で学んだ知識の理解度確認
12回目	(サービス実習①) お皿の取り扱いを習得する。 / 料理出し、料理下げ、重ね下げ
13回目	(サービス実習②) トレーサービスができるようになる。 / グラス運び、グラス下げ、グラス提供
14回目	(サービス実習③) ワイン(スティル、スパークリング)の提供、抜栓ができるようになる。
15回目	(演習) 12～15回で学んだ技術習得度の確認
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における成績評価は以下の割合にておこなう。 ・確認テスト(第6回、第11回) 各20% ・演習テスト(第15回) 60%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	コアマネージメントアドバンス I						
開講科目英名	Core Management Advance I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】
 井上由美: 一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構代表理事。プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴20年、および部下指導歴25年の経験を持つ。著書に「禁断の気質学フォートロジ[®]」「オレ様信長のトリセツ」がある。
 大島りか: ホテルにてフロント勤務を経て、プライダル業界へ転職。その後、ゲストハウス、ホテルにて、プライダルプランナーとして、新規接客、打合せ、当日施行を経験し、約1000件の婚礼を担当。現在は、経験をもとにプライダル、実践心理学の講師として、プライダル業界の発展のため活動中。

【授業の学習内容】
 行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通し、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】
 <コアマネージメント> 心理学的な脳の仕組みを理解し、自分と他人とのコミュニケーションを円滑にする手段として、実生活で使えるようになる。
 <気質学> 生まれ持っている人間の4つのエネルギーについて理解し、自分のエネルギーバランスから行動や考え方の特性を知り、「自分らしさ」を理解することができる。

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
1-2回目	(オリエンテーション) コアとは、自分らしさを活かした夢を叶えるための最高の学び～前期授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる～	31-32回目	(影響言語⑤) あなたは秩序を守るタイプ? ルールを守らないタイプ? 考えてから動くタイプ? 即行動タイプ? 行動パターンの言語がわかるようになる
3-4回目	(気質学①) 第一の扉と第二の扉の特徴に気づき、特に第二の使い方をうまく使いこなすことができるようになる	33-34回目	(影響言語⑥) 影響言語の復習を行い、理解度を高めることができる
5-6回目	(気質学②) 第四の扉の特徴を知り、自分の短所を補うための方法を活用することができる。	35-36回目	(影響言語⑦) 影響言語の応用・接客実践練習
7-8回目	(気質学③) 4タイプの相性と攻略法を理解し、人間関係を良好にすることができる(1)	37-38回目	フォートロジ [®] × 言語を使った復習①
9-10回目	(気質学④) 4タイプの相性と攻略法を理解し、人間関係を良好にすることができる(2)	39-40回目	フォートロジ [®] × 言語を使った復習②
11-12回目	(気質学⑤) 4タイプ別の接客極意に気づき、実際の接客で気質を生かしたお客様に合わせた接客ができる(1)	41-42回目	【成果を出す思考と言葉】「質の高いコミュニケーション 影響力を発揮する自分自身になるということ」・影響の領域+関心の領域 ・コミュニケーションは相互作用を理解できる
13-14回目	(気質学⑥) 4タイプ別の接客極意に気づき、実際の接客で気質を生かしたお客様に合わせた接客ができる(2)	43-44回目	実際にフォートロジ [®] × 言語を使って寸劇の発表をおこなう。
15-16回目	(気質学⑦) 4タイプへの指導の仕方・褒め方に気づき、相手のモチベーションを上げる指導法を活用することができる	45-46回目	(気質学まとめ①) 気質学の授業を通して気が付いた「自分らしさ」「自分の強み」をまとめることできる
17-18回目	(気質学⑧) 4タイプへのノルマに対する反応に気づき、人によってノルマの効果的な使い方を理解することができる。	47-48回目	(気質学まとめ①) 気質学の授業を通して気が付いた「自分らしさ」「自分の強み」を発表することができる
19-20回目	(気質学気質学⑨) 今までの学習内容から「自分にしかない」「自分らしさ」と何か、その特性を生かしてどのように人の役に立つことができるのか考えることができる。	49-50回目	(NLP①) NLPの前提を理解し、成功に近づくマインドセットに気が付くことができる
21-22回目	【インクルージョン組織】「気質の4タイプを活かしてロールモデル人材が活躍するシナジーを生み出すチーム」ハーマンモデル流シナジーの生み出し方 一人ひとりの人材の力を最大限発揮させ相乗効果を発揮させるためのコツを理解できる	51-52回目	試験対策。
23-24回目	(影響言語①) あなたは目的地最優先タイプ? 事故渋滞脱出タイプ? 相手に合わせた言語の使いかたが分かるようになる	53-54回目	前期振り返りと理解度の確認
25-26回目	(影響言語②) あなたは自分で決めるタイプ? 他人タイプ? 判断基準の言語がわかるようになる	55-56回目	(NLP②) 現在の目標を明確にし、達成に必要なステップを知ることができる(1)
27-28回目	(影響言語③) 全ての言語を使ったキャッチフレーズを考えることで、相手に伝わる言語を使えるようになる。	57-58回目	(NLP③) 現在の目標を明確にし、達成に必要なステップを知ることができる(2)
29-30回目	(影響言語④) あなたは変化を好むタイプ? 好まないタイプ? 変化に対する意識の言語がわかるようになる	59-60回目	前期授業のまとめ・復習

評価基準
 A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。
 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満し、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法
 本授業における評価は以下の割合にておこなう。
 ・テスト40%
 ・課題提出 レポート30%/発表30%

受講生へのメッセージ
 コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	コアマネージメントアドバンスⅡ						
開講科目英名	Core Management AdvanceⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

井上由美: 一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構代表理事。プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴20年、および部下指導歴25年の経験を持つ。著書に「禁断の気質学フォートロジック®」「オレ様信長のトリセツ」がある。
 大島りか: ホテルにてフロント勤務を経て、プライダル業界へ転職。その後、ゲストハウス、ホテルにて、プライダルプランナーとして、新規接客、打合せ、当日施行を経験し、約1000件の婚礼を担当。現在は、経験をもとにプライダル、実践心理学の講師として、プライダル業界の発展のため活動中。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通し、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

<コアマネージメント> 心理学的な脳の仕組みを理解し、自分と他人とのコミュニケーションを円滑にする手段として、実生活で使えるようになる。
 <気質学> 生まれ持っている人間の4つのエネルギーについて理解し、自分のエネルギーバランスから行動や考え方の特性を知り、「自分らしさ」を理解することができる。

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
1-2回目	前期復習 気質学の学びについて復習し、自己の理解度を確認することができる	31-32回目	知覚フィルターをとおして相手の思い込みを外すことを目指す①
3-4回目	コアマネージメントとは? 学習の目標を立てることができる	33-34回目	知覚フィルターをとおして相手の思い込みを外すことを目指す②
5-6回目	学習の5段階、目標を達成するためのスモールステップを考えることができる	35-36回目	今までの学びを接客実践を通して見直すことができる(練習)
7-8回目	コミュニケーションモデル、コミュニケーションの達人になることができる	37-38回目	今までの学びを接客実践を通して見直すことができる(発表)
9-10回目	目標達成のためのコミュニケーション、仲間の目標達成をコミュニケーションを通して手助けすることができる(1)	39-40回目	客観的立場、3人のメンターを使って、自分の悩みを解決することができる
11-12回目	目標達成のためのコミュニケーション、仲間の目標達成をコミュニケーションを通して手助けすることができる(2)	41-42回目	【ビジネス実践編】バリューを考える ビジョン(目標)を達成させるために私たちが準備すべきミッション5段階を理解し、達成させる力を養うことができる
13-14回目	コミュニケーションの前提、より質の高い会話力を目指すことができる	43-44回目	存在の承認から、自分を愛し、相手を愛することができる。
15-16回目	コミュニケーションの達人モデルから、アウトプットの磨きをかけることができる	45-46回目	モデリング、効果的質問でより自分の思考を成功に導くことができる
17-18回目	セットアップを通して、目標達成ができる思考をみにつけることができる	47-48回目	バリューを使って、自分の優先順位が明確になる
19-20回目	達成される目標の設定を見直すことができる	49-50回目	潜在意識に影響を与える言語モデルを使って、相手に影響力がつか会話ができるようになる
21-22回目	ここまでの復習、実践を行い、理解度を確認することができる	51-52回目	トランス誘導の基本を効果的に使って、相手の深い考え方を引き出すことができる
23-24回目	ここまでの学びをレポートにし、さらに自分の中に落とし込むことができる	53-54回目	ネステッド・ループを使って、相手にインパクトを与えるプレゼンテーション①
25-26回目	一致不致に気づくことができるプロの積極を目指すことができる	55-56回目	ネステッド・ループを使って、相手にインパクトを与えるプレゼンテーション②
27-28回目	ニューロジカルレベルを活用して、自分の考えのレベルを明確にすることができる	57-58回目	昨年作成した宝地図を振り返り、新しい宝地図の作成してこれからの目標を明確にする(作成)
29-30回目	ニューロジカルレベルを活用して、相手の世界をより高いレベルに上げる会話術を身に着けることができる	59-60回目	昨年作成した宝地図を振り返り、新しい宝地図の作成してこれからの目標を明確にする(発表)

評価基準

A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。
 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法

本授業における評価は以下の割合にておこなう。
 ・テスト40%
 ・課題提出 レポート30% / 発表(接客実践発表)30%

受講生へのメッセージ

コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ドレススタイリスト I					
開講科目英名	Dress Stylist I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

ブライダルヘアメイクアーティストとして、結婚式場・撮影にて、8年間勤務した実務経験をもとに、ドレスフィッティングやアテンド等の知識・技術を教授する。

【授業の学習内容】

衣装の基礎知識の講義・基本のドレス/タキシードのフィッティング方法やイメージ別のコーディネート学ぶ。
クラスタ(お客様の属性)に合わせてドレス・タキシードのご提案が出来るようにロープレを通して実践形式で学んでいきます

【到達目標】

婚礼衣装の基礎知識を習得しお客様のクラスタ・要望(会場・季節・好み)に合わせてドレス・タキシードのご提案が出来るようになる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション:ドレススタイリストの仕事内容・接客の心構え・商品の名称/種類・ドレスの取り扱い方・サイズの見方についての講義
2回目	ドレス・インナーの着せ付け方実践・タキシードの基礎知識(種類・TPO・小物)習得・着せ付け実践をして衣装フィッティングが出来るようになる
3回目	フィッティングの復習を行いながら、新婦(ドレス)のコーディネート学ぶ (ドレスのシルエット・デザインの種類・ドレスとタキシードのTPO・コーディネートワーク)
4回目	骨格診断やパーソナルカラーを用いて似合うドレス・タキシードを理解しご提案することができるようになる。
5回目	ドレスに合わせた小物のコーディネートができるようになる
6回目	新郎(タキシード)のコーディネート学ぶ (コーディネート・ヘアメイクについて・季節・イメージ別カップルバランス)
7回目	クラスタを理解して、コーディネートを考えることができる(クラスタを取り入れる目的・セルフ診断・クラスタ毎の特色・特徴)
8回目	エレガント(しっかり貴子・クラシック和子)にクラスタからドレス・タキシードの提案をすることができる
9回目	スタイリッシュ(よくばり華子)のクラスタからドレス・タキシードの提案をすることができる
10回目	カラー診断に元づく 衣裳の提案を学ぶことができる
11回目	クラスター診断(応用編)を行い、提案ができるようになる。
12回目	衣裳基礎の復習(フィッティングの振り返り)
13回目	衣裳基礎の復習(花嫁・メンズ衣装のコーディネート)
14回目	総復習接客ロールプレイングを行い、理解度を確認することができる
15回目	フィッティングと接客時に必要な事柄を改めて確認する。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・基本ロールプレイングを基に評価(骨格・パーソナルカラー・ドレス&TXDのコーディネートの提案ができるまで)
受講生へのメッセージ	ご新郎・ご新婦様のドレス選びの提案が出来ることは、その後につながる挙式会場や披露宴会場のコーディネートにも繋がる大切な役割となります。この授業を通して、衣装の知識はもちろんですが、トータルコーディネートを学びお客様のご要望だけでなく選んだ会場・季節・時間帯などあらゆる角度からご提案が出来るようになると今後プランナーとしての幅が広がり、お客様から安心いただけ信頼出来る人材になります 是非、未来に向けて〇〇さん(自身)が担当で良かったと思っていただけるように授業も一緒に頑張っていきたいと思います
【使用教科書・教材・参考書】	
	特になし(資料は都度準備します) ※6回目にてのり・はさみを持参してください

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ドレススタイリスト I					
開講科目英名	Dress Stylist I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	
【担当教員、実務者経験】						
ロンドンで学び、フリーランスヘアメイクアップアーティストとして活躍 帰国後はブライダル、アパレル撮影、成人式、七五三などのヘアメイクや着付け師として活躍中						
【授業の学習内容】						
衣装の基礎知識の講義・基本のドレス/タキシードのフィッティング方法やイメージ別のコーディネートを学ぶ。 クラスタ(お客様の属性)に合わせてドレス・タキシードのご提案が出来るようにロープレを通して実践形式で学んでいきます						
【到達目標】						
婚礼衣装の基礎知識を習得しお客様のクラスタ・要望(会場・季節・好み)に合わせてドレス・タキシードのご提案が出来るようになる						

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション:ドレススタイリストの仕事内容・接客の心構え・商品の名称/種類・ドレスの取り扱い方・サイズの見方についての講義
2回目	ドレス・インナーの着せ付け方実践・タキシードの基礎知識(種類・TPO・小物)習得・着せ付け実践をして衣装フィッティングが出来るようになる
3回目	フィッティングの復習を行いながら、新婦(ドレス)のコーディネートを学ぶ (ドレスのシルエット・デザインの種類・ドレスとタキシードのTPO・コーディネートワーク)
4回目	骨格診断やパーソナルカラーを用いて似合うドレス・タキシードを理解しご提案することができるようになる。
5回目	ドレスに合わせた小物のコーディネートができるようになる
6回目	新郎(タキシード)のコーディネートを学ぶ (コーディネート・ヘアメイクについて・季節・イメージ別カップルバランス)
7回目	クラスタを理解して、コーディネートを考えることができる(クラスタを取り入れる目的・セルフ診断・クラスタ毎の特色・特徴)
8回目	エレガント(しっかり貴子・クラシック和子)にクラスタからドレス・タキシードの提案をすることができる
9回目	スタイリッシュ(よくばり華子)のクラスタからドレス・タキシードの提案をすることができる
10回目	カラー診断に元づく 衣裳の提案を学ぶことができる
11回目	クラスター診断(応用編)を行い、提案ができるようになる。
12回目	衣裳基礎の復習(フィッティングの振り返り)
13回目	衣裳基礎の復習(花嫁・メンズ衣装のコーディネート)
14回目	総復習接客ロールプレイングを行い、理解度を確認することができる
15回目	フィッティングと接客時に必要な事柄を改めて確認する。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・基本ロールプレイングを基に評価(骨格・パーソナルカラー・ドレス&TXDのコーディネートの提案ができるまで)
受講生へのメッセージ	ご新郎・ご新婦様のドレス選びの提案が出来ることは、その後につながる挙式会場や披露宴会場のコーディネートにも繋がる大切な役割となります。この授業を通して、衣装の知識はもちろんですが、トータルコーディネートを学びお客様のご要望だけでなく選んだ会場・季節・時間帯などあらゆる角度からご提案が出来るようになると今後プランナーとしての幅が広がり、お客様から安心いただけ信頼出来る人材になります 是非、未来に向けて〇〇さん(自身)が担当で良かったと思っていただけるように授業も一緒に頑張っていきたいと思います
【使用教科書・教材・参考書】	
特になし(資料は都度準備します) ※6回目にてのり・はさみを持参してください	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ドレススタイリストⅡ					
開講科目英名	Dress Stylist Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

ロンドンで学び、フリーランスヘアメイクアップアーティストとして活躍 帰国後はブライダル、アパレル撮影、成人式、七五三などのヘアメイクや着付け師として活躍中

【授業の学習内容】

お客様に対しヒアリング・衣装フィッティング・アテンドを行い、ドレススタイリストとして準備や対応ができるようになる。

【到達目標】

ドレススタイリストとしての立場を理解し、先読みして行動をし、お客様が安心して過ごせるように対応できるように学ぶ。
後期はアテンドを中心に身に着ける

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション:前期の授業の振り返り(フィッティング・接客・心構え)を行い、後期に学ぶ内容を理解する
2回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新婦)ことができるようになる(グループ)
3回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新郎)ことができるようになる(確認発表)
4回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新郎)ことができるようになる(グループ)
5回目	フィッティングにお客様が来られることを想定して準備を行う(新郎)ことができるようになる(確認発表)
6回目	フィッティングの際に必要なアテンド・気配り&心配りを学ぶ
7回目	フィッティングの際に必要なアテンド・気配り&心配りを学ぶ(実践)
8回目	TPOに合わせたドレスのさばき方・持ち方を学ぶ
9回目	決定した衣装の最終確認をお客様の前で行えるようになる(衣装・小物)
10回目	2～9回目の振り返りを行い、苦手なポイントを克服できるようになる
11回目	衣装を身につけられた新郎新婦のアテンド(お着替え室から会場まで)ができるようになる
12回目	衣装を身につけられた新郎新婦のアテンド(お着替え室から会場まで)ができるようになる(確認発表)
13回目	①来店お迎え～最終衣装確認のお客様対応、②フィッティング～場所移動・着衣確認 の流れができてきているか確認し、理解度を図ることができる。
14回目	①来店お迎え～最終衣装確認のお客様対応、②フィッティング～場所移動・着衣確認 の流れができてきているか確認し、理解度を図ることができる ※13回目の授業で行った方と逆を行う
15回目	総まとめ 前期から学び「ドレススタイリスト」とはどのような役割なのか、理解を確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認発表を基に評価(接客対応・言葉遣い・事前準備・アテンド)
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ドレススタイリストⅢ					
開講科目英名	Dress StylistⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

ロンドンで学び、フリーランスヘアメイクアップアーティストとして活躍 帰国後はブライダル、アパレル撮影、成人式、七五三などのヘアメイクや着付け師として活躍中

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

TPOにあわせたコーディネートができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	1年を振り返り反省とスタイリストとしての取り組み方や学習の概要を理解し明確にする
2回目	1年間の学びの復習とフォーマルの知識(T・P・O)を強化しながら、スタイリングを考える。
3回目	1年の復習としてフォーマルの知識(T・P・O)を確認しながら、披露宴用ドレスをコーディネートをする。(ボディメイク・お直しをする)
4回目	T・P・Oを視野に入れて、6ラインドレスのコーディネートを試みる。ドレスのラインが明確になる。(ボディメイクやお直しも考える)
5回目	T・P・Oを考えながら、ソワレ(カラードレス)全てのタイプを美しく着せる事ができる (ボディメイク・お直し指示書作成)ジャストサイズに調整出来る
6回目	T・P・Oに沿ったメンズ衣裳スタイリングを提案する。採寸データ(股下・袖丈)の確認
7回目	メンズ衣裳(ズボン裾・袖丈)のお直しは、ジャストサイズに微調整が出来るようになる。(基礎縫い実習)
8回目	WDからEDへのドレスチェンジ(15分位)ヘア・ヘッド・ACCもコーディネートも考える
9回目	上記衣裳の基礎知識①理解度の確認(WDがT・P・Oに沿ったスタイリングができるようになる)技術評価
10回目	上記衣裳の基礎知識②理解度の確認 (EDがT・P・Oに沿ったスタイリングができるようになる)技術評価
11回目	上記衣裳の基礎知識③理解度の確認 (ドレスデザインからT・P・Oを考えることができるようになる) 技術評価
12回目	上記衣裳の基礎知識④の理解度の確認 (微調整はドレスを美しく着せる事ができる)技術評価
13回目	上記衣裳の基礎知識①～⑦理解度の確認
14回目	上記衣裳の基礎知識⑤⑥の理解度の確認 (メンズ衣裳のお直し)技術評価
15回目	上記衣裳の基礎知識①～⑦理解度の確認 テーマを決めてTPOに沿った挙式のスタイリング 技術評価 (グループワーク)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト40% ・演習課題60%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ドレススタイリストⅣ					
開講科目英名	Dress StylistⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2		

【担当教員、実務者経験】

ロンドンで学び、フリーランスヘアメイクアップアーティストとして活躍 帰国後はブライダル、アパレル撮影、成人式、七五三などのヘアメイクや着付け師として活躍中

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

テーマコーディネートができるようになる。
お直しの方法を学ぶ。

回数	授業計画・内容
1回目	前期の授業の振り返りを行い、理解度を確認することが出来る
2回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ①】
3回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ①】※コーディネート実践。スタイルブックを作成する
4回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ①】※TPOを確認。
5回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ②】
6回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ②】※コーディネート実践。スタイルブックを作成する
7回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ②】※TPOを確認。
8回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ③】
9回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ③】※コーディネート実践。スタイルブックを作成する
10回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ③】※TPOを確認。
11回目	3つのコーディネートの振りかえり、作品の発表を行う。
12回目	お直しの方法を学ぶ① 裁縫の基礎の縫い方を学ぶ。
13回目	お直しの方法を学ぶ② 実際のドレスを使用してホツレや破れのお直しを行う。
14回目	お直しの方法を学ぶ③ メンズのパンツの裾直しを行う。
15回目	お直しの方法を学ぶ④ メンズのパンツの裾直しを行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・スタイルブックの作成と完成度・・・50% ・お直しの仕上がり・・・50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ドレススタイリストⅢ					
開講科目英名	Dress StylistⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

ブライダルヘアメイクアーティストとして、結婚式場・撮影にて、8年間勤務した実務経験をもとに、ドレスフィッティングやアテンド等の知識・技術を教授する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

TPOにあわせたコーディネートができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	1年を振り返り反省とスタイリストとしての取り組み方や学習の概要を理解し明確にする
2回目	1年間の学びの復習とフォーマルの知識(T・P・O)を強化しながら、スタイリングを考える。
3回目	1年の復習としてフォーマルの知識(T・P・O)を確認しながら、披露宴用ドレスをコーディネートをする。(ボディメイク・お直しをする)
4回目	T・P・Oを視野に入れて、6ラインドレスのコーディネートを試みる。ドレスのラインが明確になる。(ボディメイクやお直しも考える)
5回目	T・P・Oを考えながら、ソワレ(カラードレス)全てのタイプを美しく着せる事ができる (ボディメイク・お直し指示書作成)ジャストサイズに調整出来る
6回目	T・P・Oに沿ったメンズ衣裳スタイリングを提案する。採寸データ(股下・袖丈)の確認
7回目	メンズ衣裳(ズボン裾・袖丈)のお直しは、ジャストサイズに微調整が出来るようになる。(基礎縫い実習)
8回目	WDからEDへのドレスチェンジ(15分位)ヘア・ヘッド・ACCもコーディネートも考える
9回目	上記衣裳の基礎知識①理解度の確認(WDがT・P・Oに沿ったスタイリングができるようになる)技術評価
10回目	上記衣裳の基礎知識②理解度の確認 (EDがT・P・Oに沿ったスタイリングができるようになる)技術評価
11回目	上記衣裳の基礎知識③理解度の確認 (ドレスデザインからT・P・Oを考えることができるようになる) 技術評価
12回目	上記衣裳の基礎知識④の理解度の確認 (微調整はドレスを美しく着せる事ができる)技術評価
13回目	上記衣裳の基礎知識①～⑦理解度の確認
14回目	上記衣裳の基礎知識⑤⑥の理解度の確認 (メンズ衣裳のお直し)技術評価
15回目	上記衣裳の基礎知識①～⑦理解度の確認 テーマを決めてTPOに沿った挙式のスタイリング 技術評価 (グループワーク)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト40% ・演習課題60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	必修 選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ドレススタイリストⅣ					
開講科目英名	Dress StylistⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

ブライダルヘアメイクアーティストとして、結婚式場・撮影にて、8年間勤務した実務経験をもとに、ドレスフィッティングやアテンド等の知識・技術を教授する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

テーマコーディネートができるようになる。
お直しの方法を学ぶ。

回数	授業計画・内容
1回目	前期の授業の振り返りを行い、理解度を確認することが出来る
2回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ①】
3回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ①】※コーディネート実践。スタイルブックを作成する
4回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ①】※TPOを確認。
5回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ②】
6回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ②】※コーディネート実践。スタイルブックを作成する
7回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ②】※TPOを確認。
8回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ③】
9回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ③】※コーディネート実践。スタイルブックを作成する
10回目	テーマを設定し、コーディネートを行うことが出来るようになる【課題テーマ③】※TPOを確認。
11回目	3つのコーディネートの振りかえり、作品の発表を行う。
12回目	お直しの方法を学ぶ① 裁縫の基礎の縫い方を学ぶ。
13回目	お直しの方法を学ぶ② 実際のドレスを使用してホツレや破れのお直しを行う。
14回目	お直しの方法を学ぶ③ メンズのパンツの裾直しを行う。
15回目	お直しの方法を学ぶ④ メンズのパンツの裾直しを行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・スタイルブックの作成と完成度・・・50% ・お直しの仕上がり・・・50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	パーソナルカラー I					
開講科目英名	Color Consultation Basic I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

24歳時にカラーコーディネイト色彩能力検定2級を取得。その後服飾業界(5年)、インテリア業界(4年)、住宅・不動産業界(19年)で仕事をする中で、カラーの知識を実務で活用してきました。

【授業の学習内容】

ブライダルの現場では、お客様のタイプとニーズに合わせた幅広い提案力が必要とされる。本授業では、色彩学とパーソナルカラー分析の基本を身につけて、ブライダル業界で役に立つカラーの提案ができるようになること、接客業として顧客のタイプに合わせた接客ができるようになることを目標とし、色彩理論とパーソナルカラー理論を学習する。

【到達目標】

基礎的な色彩理論・パーソナルカラー理論を理解し、実習・課題制作などを行うことでカラーコーディネイトと基礎的なパーソナルカラー分析ができるようになる。
それにより、ブライダル業界において、顧客満足度の高いイメージ表現や似合う色を提案できるようになる。接客業として、顧客のタイプに合わせた提案、接客ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(概要と必要性、パーソナルカラーの歴史) パーソナルカラーコンサルテーションと人間、環境との関わり、歴史を理解できるようになる
2回目	(色彩の基礎) ①光と色②光の三属性③PCCストーン④色の見え方・対比⑤色の視認性と色の感情効果⑥配色・トーンから色彩の基礎を理解する
3回目	(課題制作) 色相環などの制作を通じて色彩の基本知識の理解が深まる
4回目	(パーソナルカラー1) パーソナルカラーの4シーズン理論を学び肌・眼・髪の色の特徴からシーズン分析の基本を理解する
5回目	(ドレーピングのテクニック) ドレーピングを始める注意点と着眼点を理解し、基礎的なカラー診断ができるようになる
6回目	(パーソナルカラー2) 肌・眼・髪の色を分析し基礎的なパーソナルカラー診断と4シーズン理論に基づいた説明ができるようになる
7回目	(カラーコーディネイト) パーソナルカラーとトーン配色を用いて、イメージに合ったカラーコーディネイトができるようになる
8回目	(課題制作発表) 課題の制作発表を通して、色彩の基礎知識とパーソナルカラー理論を用いてカラーコーディネイト提案ができるようになる
9回目	(カラーコンサルテーション) フォートロジー®タイプとパーソナルカラー分析に基づいたシーズンタイプ別に色彩を提案できるようになる
10回目	(カラーコンサルテーション) シーズンタイプ別にドレスやアクセサリのデザイン・素材を提案できるようになる
11回目	(カラーコンサルテーション) シーズンタイプ別にブーケ・テーブルコーディネイトなどトータルな提案ができるようになる
12回目	(カラーコンサルテーション) シーズンタイプ別の行動形態を理解し、タイプに合った接客ができるようになる
13回目	(課題制作・発表) 課題制作と発表を通じて、パーソナルカラー理論とフォートロジー理論に基づいたイメージ表現の提案ができるようになる
14回目	色彩とパーソナルカラー理論の基礎知識の理解度を確認する
15回目	総まとめ(これまでの内容についての補足・質疑など)これまでに学習した内容を活用し、お客様に対して基本的なカラーコンサルテーションができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・試験結果 40% ・課題の提出率及び完成度 60%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	パーソナルカラーⅡ					
開講科目英名	Color Consultation Basic Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2		
【担当教員、実務者経験】						
24歳時にカラーコーディネイト色彩能力検定2級を取得。その後服飾業界(5年)、インテリア業界(4年)、住宅・不動産業界(19年)で仕事をする中で、カラーの知識を実務で活用してきました。						
【授業の学習内容】						
ブライダルの現場では、お客様のタイプとニーズに合わせた幅広い提案力が必要とされる。本授業では、色彩学とパーソナルカラー分析の基本を身につけて、ブライダル業界で役に立つカラーの提案ができるようになること、接客業として顧客のタイプに合わせた接客ができるようになることを目標とし、色彩理論とパーソナルカラー理論を学習する。						
【到達目標】						
気質の4パターンを瞬時判別し、接客対応ができるようになる。そのためには日常に取り入れた生活や意識改革を習慣化する。色彩の基本知識の理解を深め、パーソナルカラー診断と骨格診断の基本知識を習得する。						
回数	授業計画・内容					
1回目	(概要・確認) 前期で学んだ総復習をし、理解度を確認する					
2回目	(色彩の基礎) 代表的な色の持つ心理効果やイメージを確認し、目的に合った適切な色選びができるようになる					
3回目	(配色の基本) 配色の基本を復習し、表現したいイメージに対する適切な色選びができるようになる①					
4回目	(配色の基本) 配色の基本を復習し、表現したいイメージに対する適切な色選びができるようになる②					
5回目	パソコン(webの色彩知識と課題制作)web上で用いられる色彩の基礎知識をもとに、制作物を作成できるようになる①					
6回目	パソコン(webの色彩知識と課題制作)web上で用いられる色彩の基礎知識をもとに、制作物を作成できるようになる②					
7回目	パソコン(webの色彩知識と課題制作)web上で用いられる色彩の基礎知識をもとに、制作物を作成できるようになる③					
8回目	鏡(選択と提案) カラードレープを用いてお客様のカラータイプの目安を判断し、適切なカラーを提案できるようになる①					
9回目	鏡(選択と提案) カラードレープを用いてお客様のカラータイプの目安を判断し、適切なカラーを提案できるようになる②					
10回目	(イメージの復習)「似合う色」のルールを知る。①					
11回目	(イメージの復習)「似合う色」のルールを知る。②					
12回目	(課題制作)パーソナルカラー、色彩理論の理解度と提案力を確認する					
13回目	(課題制作発表)パーソナルカラー、色彩理論の理解度と提案力を確認する					
14回目	総まとめ 課題作成 お客様に対するプレゼンテーション資料を作成し、理解度を確認する					
15回目	総復習 これまでに学習した内容を活用し、お客様に対して満足度の高いカラーコンサルテーション・提案ができるようになる。					
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される					
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・[制作物]自己表現力10点、4シーズン理解度10点、カラーの基礎知識10点、集客力10点、タイムマネジメント力10点 ・[プレゼン]言語伝達力10点、自己表現力10点、4シーズン表現力10点、接客対応力10点、ボーナスポイント貢献度・自主性10点					
受講生へのメッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ビューティービジネス I					
開講科目英名	beauty business I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

各美容企業

【授業の学習内容】

様々な美容企業・ドレス企業等をお招きし、現在の美容企業・ドレス企業状況や仕事内容、今後の目指すゴールなどを聞き、自分の今後につなげる。

【到達目標】

業界や仕事内容を学び、どのようなかわりがあり、他業種とつながりがあるのかを学ぶ。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション ブライダルビジネスの授業の目的を理解する。
2回目	【ドレス業界①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。
3回目	
4回目	2-3回で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことが出来る。
5回目	【ドレス業界②】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。
6回目	
7回目	5-6回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報共有をしあうことが出来る。
8回目	【美容業界①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。
9回目	
10回目	7-8回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報共有をしあうことが出来る。
11回目	【美容業界②】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。
12回目	
13回目	11-12回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報共有をしあうことが出来る。
14回目	校外学習 美容業界の売り場のリサーチと雰囲気調査する。
15回目	14回目で調査した内容をレポートにまとめ、発表を行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 レポートブックの作成・・・100%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ビューティービジネスⅡ					
開講科目英名	beauty businessⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2		
【担当教員、実務者経験】						
各美容企業						
【授業の学習内容】						
様々な美容企業・ドレス企業等をお招きし、現在の美容企業・ドレス企業状況や仕事内容、今後の目指すゴールなどを聞き、自分の今後につなげる。						
【到達目標】						
業界や仕事内容を学び、どのようなかわりがあり、他業種とつながりがあるのかを学ぶ。						
回数	授業計画・内容					
1回目	【メイク・ヘアメイク業界①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。					
2回目						
3回目	1-2回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことが出来る。					
4回目	【ブライダルハウス①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。					
5回目						
6回目	4-5回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことが出来る。					
7回目	【ブライダルハウス①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。					
8回目						
9回目	7-8回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことが出来る。					
10回目	【着物業界】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。					
11回目						
12回目	11-12回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことが出来る。					
13回目	【ホテルウェディング①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することが出来る。					
14回目						
15回目	13-14回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことが出来る。					
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される					
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 レポートブックの作成・・・100%					
受講生へのメッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダルアテンドスキル I						
開講科目英名	Bridal Attend skill I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。

【授業の学習内容】

ブライダルシーンにおける新郎新婦のアテンド、親族様のアテンドをどのようにおこなうのか、そのアテンドがどのような役目を果たすのかを学び、プランナーとしてさらにお客様に寄り添える存在を目指して学ぶ。

【到達目標】

ブライダルシーンにおける必要なアテンドシーンを学び、自ら進んで行えるようになる。(親族・ゲスト)

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の中身を説明し、理解することでよりプランナーの身になって考えることができる。	16回目	オリエンテーション 新郎新婦様に対するアテンドを理解した上で、親族様の気持ちに寄り添いながらアテンドを考える
2回目	【お客様ご案内の基礎】 お客様お打合せの前に必要な準備は何かを考えて行動する事ができるようになる① (シミュレーションでの想定)	17回目	【親族アテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、シミュレーションし、自信をもって案内できるようになる①(シミュレーションでの想定)
3回目	【お客様ご案内の基礎】 お客様お打合せの前に必要な準備は何かを考えて行動する事ができるようになる② (振り返り・反省)	18回目	【親族アテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、自信をもって案内できるようになる①(振り返り・反省)
4回目	【お客様ご案内の基礎】 お客様をお迎えして、館内案内を想定してのシミュレーションを行い、自信をもって案内できるようになる① (シミュレーションでの想定)	19回目	【親族アテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、シミュレーションし、自信をもって案内できるようになる②(シミュレーションでの想定)
5回目	【お客様ご案内の基礎】 お客様をお迎えして、館内案内を想定してのシミュレーションを行い、自信をもって案内できるようになる② (振り返り・反省)	20回目	【親族アテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、自信をもって案内できるようになる②(振り返り・反省)
6回目	【振り返り確認】新郎新婦モデルを立てて、実際に一人ずつ確認を行う。	21回目	【親族アテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、シミュレーションし、自信をもって案内できるようになる③(シミュレーションでの想定)
7回目	【結婚式当日シミュレーション】 結婚式当日における新郎新婦のアテンドシーンをシミュレーションし、行動を考える①	22回目	【親族アテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、自信をもって案内できるようになる③(振り返り・反省)
8回目	【結婚式当日シミュレーション】 結婚式当日における新郎新婦のアテンドシーンをシミュレーションし、行動を考える②	23回目	【振り返り確認】両親族のモデルを立てて、実際に一人ずつ確認を行う。
9回目	【結婚式当日シミュレーション】 結婚式当日における新郎新婦のアテンドシーンをシミュレーションし、行動を考える③	24回目	【ゲストアテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、シミュレーションし、自信をもって案内できるようになる①(シミュレーションでの想定)
10回目	【結婚式当日シミュレーション】 結婚式当日における新郎新婦のアテンドシーンをシミュレーションし、行動を考える④	25回目	【ゲストアテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、自信をもって案内できるようになる①(振り返り・反省)
11回目	【結婚式当日シミュレーション】 結婚式当日における新郎新婦のアテンドシーンをシミュレーションし、行動を考える⑤	26回目	【ゲストアテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、シミュレーションし、自信をもって案内できるようになる②(シミュレーションでの想定)
12回目	【結婚式当日シミュレーション】 結婚式当日における新郎新婦のアテンドシーンをシミュレーションし、行動を考える⑥	27回目	【ゲストアテンド】当日のご親族様のアテンドについて学び、自信をもって案内できるようになる②(振り返り・反省)
13回目	【確認】学びをいかして、実際に行えるかどうか一人ずつ実践をする①	28回目	【確認】学びをいかして、実際に行えるかどうか一人ずつ実践をする①
14回目	【確認】学びをいかして、実際に行えるかどうか一人ずつ実践をする②	29回目	【確認】学びをいかして、実際に行えるかどうか一人ずつ実践をする②
15回目	【振り返り】再度「アテンドとは」を考え方を振り返り、後期にいかす。	30回目	【振り返り】年間のアテンドを振り返り、アテンドの役目、必要さを改めて振り返る

評価基準
A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。
※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法
本授業においての評価は以下の割合にておこなう。
・実践確認①・・・40点
・実践確認②・・・50点
・授業態度・・・10点

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダルディレクションスキル I						
開講科目英名	Bridal direction skill I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

フローリストナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

実践を通してディレクション能力を身につける
プロジェクトチームでPDCAサイクルを回せるような管理、調整の仕方を身につける

【到達目標】

ブライダルにおけるトータル知識を用いて、各プロジェクトのゴールに向け、進捗管理などを行いながら、プレイングマネージャーとしての動きができるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 前期授業の流れを説明する
2回目	ブライダルディレクションに必要な資料を理解することができる
3回目	ブライダルディレクションに必要な資料を作成し、チームメンバーに説明の上、役割を割り振ることができる
4回目	前回作成した資料の見直しを行う。(他人から見て見やすいか・わかりやすいか・漏れている事項はないか)
5回目	資料の見直しを行い、作り直して完成させることができる。(もらったアドバイスをもとに作り直す)
4回目	PDCAサイクルを回すことを理解することができる
5回目	チーム内で一つのプロジェクトに対し、PDCAサイクルを回す想定をし、リスクを考えてみる①
6回目	チーム内で一つのプロジェクトに対し、PDCAサイクルを回す想定をし、リスクを考えてみる②
7回目	課題のプロジェクト内容説明
8回目	課題① 校内プロジェクトとしてブライダルイベントを開催する為に、役割分担を行い、プランを立てることができる
9回目	課題① 校内プロジェクトとしてブライダルイベントを開催する為に、必要な資料を作成することができる①
10回目	課題① 校内プロジェクトとしてブライダルイベントを開催する為に、必要な資料を作成することができる②
11回目	課題① 校内プロジェクトとしてブライダルイベントを開催する為の物理的な準備を行う
12回目	課題① 校内プロジェクトとしてブライダルイベントを開催する為のリハーサルを行う
13回目	課題① 校内プロジェクト開催
14回目	課題① 校内プロジェクト開催の振り返りを行い、なにが足りなかったか確認できるようになる
15回目	課題① 校内プロジェクト開催の改善点を踏まえて、次回行うプランを再度立てて、改善案を提案できるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・資料提出・・・60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
なし	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルフォト I					
開講科目英名	Bridal Photo I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員・実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

一眼レフカメラの基本操作を実習し、写真撮影の基礎から応用を学ぶ。またブライダルフォトに必要なコミュニケーション力や立ち振る舞いを身につける。

【到達目標】

一眼レフカメラの基本操作を学ぶ。
ブライダルフォトの歴史や用途を学び、花嫁を美しく見せるコツやドレスをいかに撮影の方法を学ぶことができる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション カメラの使用上の注意事項を理解し、基本の操作ができるようになる。
2回目	ブライダルのフォトの歴史について学ぶことができる。
3回目	ブライダルフォトの違いについて学ぶことができる。
4回目	ブライダルフォトグラファーの仕事や仕事内容などを理解することができる。
5回目	露出について理解し、さまざまな環境でも適正露出で撮影できるようになる。
6回目	ブライダルフォトからさまざまな構図を知り、構図を意識した撮影ができるようになる。
7回目	基本的なスタジオライティングを学び、証明写真などのポートレート撮影ができるようになる。
8回目	光の種類や色、光の向きを見極め自然光でイメージに沿った撮影ができるようになる。
9回目	レンズの種類や特性を知り、撮影イメージに適したレンズで撮影ができるようになる。
10回目	ブライダルフォトグラファーとして、新郎新婦のアテンドや気遣い・配慮するポイントを学ぶことができる①
11回目	ブライダルフォトグラファーとして、新郎新婦のアテンドや気遣い・配慮するポイントを学ぶことができる②
12回目	撮影前にイメージやコンセプトを持つことができるようになる(エレガント)
13回目	状況に合わせて、最適な露出・構図・光をチョイスしシャッターチャンスを作り出すことができるようになる。(実技)
14回目	撮影前にイメージやコンセプトを持つことができるようになる(キュート)
15回目	状況に合わせて、最適な露出・構図・光をチョイスしシャッターチャンスを作り出すことができるようになる。(実技)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・作品提出50% ・作品技術50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

SDカード(8GB以上が望ましい)を各自準備すること。

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダルフォトⅡ			時間数 (単位)	30 2		開講区分
開講科目英名	Bridal PhotoⅡ	授業形態	講義演習				
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

一眼レフカメラの基本操作を実習し、写真撮影の基礎から応用を学ぶ。またブライダルフォトに必要なコミュニケーション力や立ち振る舞いを身につける。

【到達目標】

一眼レフカメラの基本操作を学ぶ。
ブライダルフォトの歴史や用途を学び、花嫁を美しく見せるコツやドレスをいかす撮影の方法を学ぶことができる

回数	授業計画・内容
1回目	復習を行い、美しく撮影するポイントやアテンドの方法を振り返る
2回目	撮影前にイメージやコンセプトを持つことができるようになる(クール)
3回目	状況に合わせて、最適な露出・構図・光をチョイスしシャッターチャンスを作り出すことができるようになる。(実技)
4回目	撮影前にイメージやコンセプトを持つことができるようになる(フレッシュ・ナチュラル)
5回目	状況に合わせて、最適な露出・構図・光をチョイスしシャッターチャンスを作り出すことができるようになる。(実技)
6回目	フォーマル写真の撮影を行うことができる。
7回目	今まで撮影した作品の振り返りと見直し、改善する点を考えることができる。
8回目	ブライダルフォトの撮影時にお客様が安心できるようなアテンドやコミュニケーションを考える。
9回目	チームに分かれて、テーマ別に撮りたいイメージをし、撮影を行う①
10回目	チームに分かれて、テーマ別に撮りたいイメージをし、撮影を行う②
11回目	チームに分かれて、テーマ別に撮りたいイメージをし、撮影を行う③
12回目	チームに分かれて、テーマ別に撮りたいイメージをし、撮影を行う④
13回目	チームに分かれて、テーマ別に撮りたいイメージをし、撮影を行う⑤
14回目	作品を選定し、修正などを行い、作品提出する。
15回目	全授業の振り返り ～自分の視点や好きなパーツだけでなく、全体を通してこだわりポイントをいかした撮影や相手に配慮したアテンドができることを振り返る～
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・作品提出50% ・作品技術50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

SDカード(8GB以上が望ましい)を各自準備すること。

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルフォトⅡ					
開講科目英名	Bridal Photo Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員 実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

一眼レフカメラの基本操作を実習し、写真撮影の基礎から応用を学ぶ。またブライダルフォトに必要なコミュニケーション力や立ち振る舞いを身につける。

【到達目標】

ブライダルフォトグラファーとして立場を考えた撮影ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	復習を行い、ブライダルフォトグラファーの職種の立場を改めて振り返る。
2回目	ブライダルフォトの種類に合わせて撮影を行うことができる。(フォーマルフォトの意味の見直しやお客様が撮りたいという心情・用途を考える)
3回目	ブライダルフォトの種類に合わせて撮影を行うことができる。(ポージングの見直し・撮影)
4回目	撮影した作品の振り返りと見直し、改善する点を考えることができる。
5回目	ブライダルフォトの撮影時にお客様が安心できるようなアテンドやコミュニケーションを考える。
6回目	挙式の撮影を学ぶ。(プランニングをし、感動ポイントを発見する)
7回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる①
8回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる②
9回目	撮影した写真を見比べて、改善点やその撮影者の撮影ポイントを読み取ることができる。
10回目	様々な挙式写真を見て、撮影ポイント知識のバリエーションを増やすことができる。
11回目	フォトグラファーとして、式中にやってはいけないタブーを学ぶ。お客様・新郎新婦に配慮した撮影を考えることができる。
12回目	9～11回目の授業を振り返り、改めて撮影プランニングを行う。
13回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる(2回目)①
14回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影できるようになる(2回目)②
15回目	9回目の撮影写真と見比べて、フィードバックを行い、理解度を確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・作品提出50% ・作品技術50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

SDカード(8GB以上が望ましい)を各自準備すること。

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルフォトⅢ					
開講科目英名	bridal photoⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。
 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。
 フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

ブライダルフォト(婚礼写真)の知識、撮影基礎技術を学び、基本的な撮影テクニックを身に着ける

【到達目標】

一眼レフカメラの操作を習得し、目的やイメージにあわせた撮影ができるようになる。
 ブライダルフォトの現場で生かせる知識やスキルを身に着ける。

回数	授業計画・内容
1回目	授業の流れ、到達目標、ブライダルフォト(婚礼写真)の概要を理解できるようになる
2回目	ブライダルフォトの種類と知識を学び、それぞれの商品知識を理解できるようになる(2年次の復習も含む)
3回目	露出や構図、レンズの特性について理解し、さまざまな環境でも意図した撮影ができるようになる(2年次の復習も含む)
4回目	スタジオで撮影できる写真の種類と照明テクニック学び、イメージに沿った撮影ができるようになる①
5回目	スタジオで撮影できる写真の種類と照明テクニック学び、イメージに沿った撮影ができるようになる②
6回目	記念写真の撮影方法を学び、集合写真や記念写真が撮影できるようになる(並び方を学ぶ)
7回目	記念写真の撮影方法を学び、集合写真や記念写真が撮影できるようになる(お声がけ、適格に指示できるようになる)
8回目	記念写真の撮影方法を学び、基本的な和装の振付けや撮影ができるようになる(立ち方、袖の直し方を学ぶ)
9回目	記念写真の撮影方法を学び、基本的な和装の振付けや撮影ができるようになる(お声がけ、適格に指示できるようになる)
10回目	基本的なデータの編集、加工テクニックを学び、色補正や画像修正ができるようになる。
11回目	基本的なデータの編集、加工テクニックを学び、色補正や画像修正ができるようになる(課題提出)
12回目	提出した課題の発表を行い、こだわりポイントを説明できるようになる。
13回目	挙式の種類に応じた、撮影スタイルやポジショニング、撮影シーンなど、それぞれの宗教挙式を理解し、それに伴う撮影ルールを習得できるようになる①
14回目	挙式の種類に応じた、撮影スタイルやポジショニング、撮影シーンなど、それぞれの宗教挙式を理解し、それに伴う撮影ルールを習得できるようになる②
15回目	振り返り ブライダルフォトを撮影するにあたり注意点を学ぶ。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度・取り組み姿勢・・・60% ・課題提出・・・20% ・発表・・・10%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダルフォトⅣ						
開講科目英名	bridal photoⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。
 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。
 フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

ブライダルフォト(婚礼写真)の知識、撮影基礎技術を学び、基本的な撮影テクニックを身に着ける

【到達目標】

一眼レフカメラの操作を習得し、目的やイメージにあわせた撮影ができるようになる。
 ブライダルフォトの現場で生かせる知識やスキルを身に着ける。

回数	授業計画・内容
1回目	授業の流れ、到達目標 前期授業の振り返りを行う。
2回目	声掛け、指示の出し方を学ぶ(触れずに人を動かす練習)
3回目	企画した人前式にてスナップ撮影を実施し、基本的な挙式スナップ撮影ができるようになる(撮影ポイントをシミュレーションする)
4回目	企画した人前式にてスナップ撮影を実施し、基本的な挙式スナップ撮影ができるようになる(カメラマンとしての動き方を学ぶ)
5回目	企画した人前式にてスナップ撮影を実施し、基本的な挙式スナップ撮影ができるようになる実践)
6回目	撮影したスナップデータを使用し、データの編集、加工テクニックを実践し、フォトデータの編集ができるようになる
7回目	撮影したスナップデータを使用し、データの編集、加工テクニックを実践し、フォトデータの編集ができるようになる(課題提出)
8回目	撮影したスナップデータを使用し、データの編集、加工テクニックを実践し、フォトデータの編集ができるようになる(発表)
9回目	課題1 プランニング テーマを設定し、モデル、ロケーションの検討、撮影準備をする
10回目	課題1 撮影・合評
11回目	課題1 撮影・合評
12回目	課題2 プランニング テーマを設定し、モデル、ロケーションの検討、撮影準備をする。
13回目	課題2 撮影・合評
14回目	課題2 撮影・合評
15回目	課題1・2 フィードバック 振り返りを行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度・取り組み姿勢・・・60% ・課題提出・・・20% ・発表・・・10%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルフォトV					
開講科目英名	Bridal photo V	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。
 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。
 フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

学校の行事やリアルウェディングなどの撮影しながら、撮影時に必要なスキル・知識を学ぶ

【到達目標】

撮影スキルのアップと信頼される立ち振る舞いで、婚礼やイベントの撮影を確実に遂行できるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	オリエンテーション、学校行事の撮影をするうえでの心構えを学び責任感を持って撮影ができるようになる。
3-4回目	撮影した内容を確認し、次回の撮影に向けて反省点・改善すべき点を話し合い、さらにスキルアップした撮影ができるようになる。
5-6回目	撮影されたリアルウェディングのデータを振り返り、ブライダルフォトグラファーに必要な立ち振る舞いを理解できるようになる。
7-8回目	お客様との撮影前の打ち合わせやヒアリングのポイントを知り、信頼を獲得できる提案・撮影ができるようになる。
9-10回目	ブライダルフォト撮影時のアテンドやコミュニケーションのと리카たを学び、お客様が安心して撮影できる環境を提供できるようになる。
11-12回目	学園祭の撮影がスムーズに行えるように計画を練り、シーン毎に適した撮影ができるようになる。
13-14回目	学園祭の撮影のデータをセレクトしながら、反省点・改善点を次回の撮影に活かすことができるようになる。
15-16回目	学園祭の撮影のデータを整理し、写真の補正ができるようになる。
17-18回目	撮影シーンに合わせた露出でシャッターチャンスを見逃さず撮影できるようになる。
19-20回目	光を読み、どの位置から撮るとイメージ通りに撮影できるかを理解できるようになる。
21-22回目	撮影シーンに最適な構図を意図して構築し、かつ迷惑をかけない位置から撮影できるようになる。
23-24回目	写真集撮影①
25-26回目	写真集撮影②
27-28回目	写真集撮影③
29-30回目	写真セレクト、ページ構成ができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実践確認①・・・40点 ・実践確認②・・・50点 ・授業態度・・・10点
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルフォトVI					
開講科目英名	Bridal photo VI	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

全国の数々のホテル、ゲストハウスなどでブライダルフォトグラファーとしてお客様の打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。
主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、鶴見の森迎賓館、THE 33など。
フリーランスとしてお宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影にも従事。

【授業の学習内容】

新型コロナウイルスの蔓延により、昨今はブライダル業界もアニバーサリーフォトの需要が高まっています。
そんな時代にも活躍できる人材になるべく、心のこもった撮影ができるようになるための知識を学びましょう。

【到達目標】

撮影依頼者(被写体)の心に寄り添った撮影、見る人の心を動かす作品作りができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	オリエンテーション アニバーサリーフォトについて知り、お客様にヒアリングができるようになる。
3-4回目	撮影場所、撮影イメージなどをリサーチし、提案できるようになる。
5-6回目	具体的な撮影計画書・企画書を作成し、撮影場所の手配、撮影ポーズやスタイリングを決定する。
7-8回目	撮影予定カットを解析しどのように撮るか練習をし、当日スムーズに撮影ができるようになる。
9-10回目	作品1撮影(別日振替予定)
11-12回目	作品1撮影(別日振替予定)
13-14回目	撮影してきた写真をセレクトし、データを納品するための準備ができるようになる。
15-16回目	セレクトした写真をレタッチし、色調・明るさ・構図などを整えることができるようになる。
17-18回目	セレクトした写真をレタッチし、色調・明るさ・構図などを整えることができるようになる。
19-20回目	出来上がった写真を合評、お客様に納品できるようになる。
21-22回目	人はなぜ写真を撮るのか？その根本を理解し、プランニングできるようになる。
23-24回目	作品2撮影
25-26回目	作品2撮影・セレクト
27-28回目	撮影した写真をセレクト・レタッチすることができるようになる
29-30回目	合評
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実践確認①・・・40点 ・実践確認②・・・50点 ・授業態度・・・10点
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダルヘアアレンジ II						
開講科目英名	Bridal bridal Hair Arrangement II	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ヘア&メイクアップアーティスト。歴18年。ブライダルヘアメイクを経て、タレントやモデルのヘアメイクを中心に手がける。広告、TV、舞台、映画、講師、サロン業務など、幅広く活動。年齢や悩み、TPOに沿ったヘアメイクの提案、似合わせ、エレガントで繊細なヘアメイクが得意。

【授業の学習内容】

大きな課題に対して技術の向上、スタイルブック作成への取り組み

【到達目標】

- ①各担当に責任を持ち準備を進める事が出来る
- ②自身の技術力を理解し、苦手箇所を発見する事が出来る
- ③イメージ、メイク、装いに合わせたヘアスタイルを自ら考案し施術出来るようになる

回数	授業計画・内容
1-2回目	・前期授業の振り返り、理解度確認を行い、今後の授業の流れを理解することができる
3-4回目	【シニオンスタイル】アレンジのバリエーションを増やすために検索や参考雑誌からスタイルブックを作成する
5-6回目	【シニオンスタイル】スタイルブックから、ウィッグで作り上げるヘアスタイルを決め、練習を行う
7-8回目	【ダウンスタイル】アレンジのバリエーションを増やすために検索や参考雑誌からスタイルブックを作成する
9-10回目	【ダウンスタイル】スタイルブックから、ウィッグで作り上げるヘアスタイルを決め、練習を行う
11-12回目	【和装】髪を使用し、和装スタイルを学ぶことができる
13-14回目	【和装】和髪をウィッグで作成することができる①
15-16回目	【和装】和髪をウィッグで作成することができる② ※簪のつけ方を学ぶ
17-18回目	課題① 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジを作り上げて発表の準備を行う①
19-20回目	課題① 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジを作り上げて発表の準備を行う②
21-22回目	課題① 作成した作品の発表を行い、コーディネートバランスを評価しあって改善につなげることができる。
23-24回目	課題② 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジを作り上げて発表の準備を行う①
25-26回目	課題② 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジを作り上げて発表の準備を行う②
27-28回目	課題② 作成した作品の発表を行い、コーディネートバランスを評価しあって改善につなげることができる。
29-30回目	総まとめ 増やしたヘアアレンジのバリエーション知識を今後の自信にし、次年度につなげることができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にて行う ・スタイルブック制作への取り組み・仕上がり 40% ・課題2つの完成度 60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルヘアメイク I					
開講科目英名	Bridal Hair Make I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			4		

【担当教員、実務者経験】

フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動しながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師としてメイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

「ヘアメイクの基本理論～基礎技術」

【到達目標】

- ・メイク⇒顔型やパーツの配置バランスによる人のイメージを知り、セルフメイク～相モデルで基本バランスとなるメイクアップができるようになる。
- ・ヘア⇒ヘアセットの基本となるホットカーラー・ピン・ゴム等の使い方が身につく、ヘアアレンジへと繋がる基礎技術ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】授業の概要を理解し、美容道具の名称や役割・衛生管理を学ぶ。セッティングができるようになる。
3-4回目	【印象分析】顔分析を学び、自分自身や人の持つ個性を知る事ができる。基本バランスのメイクを知ることができる。 【スキンケア】スキンケアに関する知識を知る。
5-6回目	【セルフメイク① ベースメイク】※ノーメイク着席 コントロールカラー～ファンデーション～コンシーラー～パウダーまでの基礎を知り仕上げられるようになる。
7-8回目	【セルフメイク② アイブロー】アイブローの基本バランスを知り仕上げられるようになる。眉の修正方法を学ぶ。
9-10回目	【セルフメイク③ アイメイク】アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラの基礎技術を学び仕上げられるようになる。
11-12回目	【セルフメイク④ チーク・リップ】・錯覚理論を知りチーク・ハイライトローライトで顔のバランスを整えることができるようになる。 ・リップメイクの基礎知識を知り、正しく塗る事ができるようになる。
13-14回目	【セルフメイクテスト】基本バランスのフルメイクができ、就活を意識したメイクができるようになる。
15-16回目	【基本のフルメイクアップ 相モデル①】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる。
17-18回目	【基本のフルメイクアップ 相モデル②】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる。
19-20回目	【ヘア基礎①】・ヘア道具の名称、道具の管理ができるようになる。 ・頭部名称を学び、ブロッキングができるようになる。(ウィッグ)
21-22回目	【ヘア基礎②】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグ)
23-24回目	【ヘア基礎③】ゴム・ピンを扱い、一束結び・ハーフアップ・ピンニングができ簡単なスタイルを作ることができる。
25-26回目	【ヘア基礎④】基礎技術を使いハーフアップ・簡単なアップスタイルができるようになる。ヘアアイロンが使えるようになる。
27-28回目	【ヘアメイク】相モデルでヘアメイクができるようになる。
29-30回目	前期内容の振り返り復習をし、後期に向けての目標を設定することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価 50% ・前期試験 実技ヘアメイク 50%
受講生へのメッセージ	挨拶、時間、道具を清潔に保つ事は常に意識し行動して下さい！ これから学ぶ知識は全て花嫁様やご列席の方のスタイリングの為の基礎になり、とても重要な接客力となります。 トータルで花嫁様を表現する基礎を一緒に身につけましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	
メイク道具、セルフメイクテキスト、筆記用具は毎回持参してください。 ただし、ヘアの授業時は持参物が変わります。変わるタイミング等各自シラバスをよく読み、把握しておくこと。 相モデルの際はフェイスシールド忘れないように！	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダルヘアメイク I						
開講科目英名	Bridal Hair Make I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

<p>【担当教員、実務者経験】</p> <p>フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。 現在も現場活動しながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師としてメイクアップ技術の養成に携わる。</p>
<p>【授業の学習内容】</p> <p>「ヘアメイクの基本理論～基礎技術」</p>
<p>【到達目標】</p> <p>・メイク⇒顔型やパーツの配置バランスによる人のイメージを知り、セルフメイク～相モデルで基本バランスとなるメイクアップができるようになる。 ・ヘア⇒ヘアセットの基本となるホットカーラー・ピン・ゴム等の使い方が身につく、ヘアアレンジへと繋がる基礎技術ができるようになる。</p>

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】授業の概要を理解し、美容道具の名称や役割・衛生管理を学ぶ。セッティングができるようになる。
3-4回目	【印象分析】顔分析を学び、自分自身や人の持つ個性を知る事ができる。基本バランスのメイクを知ることができる。 【スキンケア】スキンケアに関する知識を知る。
5-6回目	【セルフメイク① ベースメイク】※ノーメイク着席 コントロールカラー～ファンデーション～コンシーラー～パウダーまでの基礎を知り仕上げられるようになる。
7-8回目	【セルフメイク② アイブロー】アイブローの基本バランスを知り仕上げられるようになる。眉の修正方法を学ぶ。
9-10回目	【セルフメイク③ アイメイク】アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラの基礎技術を学び仕上げられるようになる。
11-12回目	【セルフメイク④ チーク・リップ】・錯覚理論を知りチーク・ハイライトローライトで顔のバランスを整えることができるようになる。 ・リップメイクの基礎知識を知り、正しく塗る事ができるようになる。
13-14回目	【セルフメイクテスト】基本バランスのフルメイクができ、就活を意識したメイクができるようになる。
15-16回目	【基本のフルメイクアップ 相モデル①】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる。
17-18回目	【基本のフルメイクアップ 相モデル②】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる。
19-20回目	【ヘア基礎①】・ヘア道具の名称、道具の管理ができるようになる。 ・頭部名称を学び、ブロッキングができるようになる。(ウィッグ)
21-22回目	【ヘア基礎②】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグ)
23-24回目	【ヘア基礎③】ゴム・ピンを扱い、一束結び・ハーフアップ・ピニングができ簡単なスタイルを作ることができる。
25-26回目	【ヘア基礎④】基礎技術を使いハーフアップ・簡単なアップスタイルができるようになる。ヘアアイロンが使えるようになる。
27-28回目	【ヘアメイク】相モデルでヘアメイクができるようになる。
29-30回目	前期内容の振り返り復習をし、後期に向けての目標を設定することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価 50% ・前期試験 実技ヘアメイク 50%
受講生へのメッセージ	挨拶、時間、道具を清潔に保つ事は常に意識し行動して下さい！ これから学ぶ知識は全て花嫁様やご列席の方のスタイリングの為の基礎になり、とても重要な接客力となります。 トータルで花嫁様を表現する基礎を一緒に身につけましょう！！
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>メイク道具、セルフメイクテキスト、筆記用具は毎回持参してください。 ただし、ヘアの授業時は持参物が変わります。変わるタイミング等各自シラバスをよく読み、把握しておくこと。 相モデルの際はフェイスシールド忘れないように！</p>	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルヘアメイク II					
開講科目英名	Bridal Hair Make II	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			4		

【担当教員、実務者経験】

フリーのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動しながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

「基本のヘアセット」「イメージメイク(キュート系・エレガント系)」を学ぶ

【到達目標】

- ・ヘアではセットの基本であるピンニング、カーラー巻き等を応用し、ハーフアップ・簡単なルーズアップスタイル・夜会巻きができるようになる。
- ・基本バランスメイクでは様々なモデル様に対応できるようになる。
- ・可愛い系、キレイ系といったイメージに合わせたメイク施術ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【メイクアップ基礎①】前期からの復習である基本バランスメイクをより理解し、メイク施術が対応できるようになる。
3-4回目	【メイクアップ基礎②】前期からの復習である基本バランスメイクをより理解し、メイク施術が対応できるようになる。
5-6回目	【ヘアアレンジ① こて巻き・逆毛・ハーフアップ】・ブロッキングしピンニングでハーフアップができるようになる(面出し・ルーズ)
7-8回目	【ヘアアレンジ② 編み込み・ルーズアップスタイル】 表編み・裏編みや簡単なルーズアップスタイルができるようになる。
9-10回目	【ヘアアレンジ③ 面出しスタイル】 きれいな面を生かした、夜会巻きができるようになる。(かぶせアップスタイル)
11-12回目	【ヘアアレンジ④ 面出しスタイル】 きれいな面を生かした、夜会巻きができるようになる。(かぶせアップスタイル)
13-14回目	【メイクテクニック① イメージメイク理論】 イメージメイク(キュート・エレガント)が理解できるようになる。
15-16回目	【メイクテクニック② イメージメイク理論】 キュート・エレガントをポイントメイクでイメージ表現できるようになる。
17-18回目	【ヘアメイク実践①】着付けを意識したメイクとトータルバランスを知ることができる。
19-20回目	【メイクテクニック④ イメージメイク理論】 つや肌のイメージと施術の仕方を知ることができる。
21-22回目	【ヘアメイク実践②】ドレスを想定した、キュート系・エレガント系のヘアメイクができるようになる。
23-24回目	【ヘアメイク実践③】ドレスを想定した、キュート系・エレガント系のヘアメイクができるようになる。
25-26回目	着物に合うメイク・夜会巻きを時間内に施術することができるようになる。(実習復習①)
27-28回目	着物に合うメイク・夜会巻きを時間内に施術することができるようになる。(実習復習②)
29-30回目	着物に合うメイク・夜会巻きを時間内に施術することができるようになる。(実習復習③)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度50% ・ヘアメイク技術力50%
受講生へのメッセージ	後期に入り少しずつトータルでヘアメイクを施術していきます。 基礎力がそのまま生かされるので不安のある技術は復習を重ね習得できる努力をしましょう。 ヘアメイクを完成させる楽しさを、一緒に味わっていきましょう!
【使用教科書・教材・参考書】	
ヘアメイクの授業が交互にありますので、シラバスをよく確認し忘れ物がないようにしてください。 後期は接客業に携わる者としての自覚をもって行動してください。	

授業シラバス

授業科目名	ビューティープランナースキル	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダルマーケティング I						
開講科目英名	Bridal marketing I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。

【授業の学習内容】

マーケティングの知識やフレームワークを中心に学び、社会で活躍する上で大切なスキルである問題発見力・解決力、提案力を高める。授業ではブライダル業界での問題点をあげ、知識習得や個人やグループでの実習を通して学習する。

【到達目標】

習得したマーケティングの知識やフレームワークを駆使し、ブライダル業界の真の問題を見つけ出すと共にその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】授業の全体像について理解し、受講の目的や意義を理解する。
2回目	【課題発見①】各自でブライダル業界の問題点を探し出し、課題を上げる。
3回目	【問題発見・解決の基本技法】1年次の技法を駆使し、あげた課題について、現状をリサーチする①
4回目	【問題発見・解決の基本技法】1年次の技法を駆使し、あげた課題について、現状をリサーチする②
5回目	【問題発見・解決の基本技法】現状のリサーチから解決法を提案するため、リサーチする①
6回目	【問題発見・解決の基本技法】現状のリサーチから解決法を提案するため、リサーチする②
7回目	【中間発表】プレゼンテーションを行い、発表者の評価と質疑応答を行う。
8回目	【再構築】評価表を基に、マーケティングの深堀、再リサーチを行う①
9回目	【最終プレゼン】課題発表
10回目	【振り返り】評価表を用いて、自分に足りない部分や良かった点を振り返り、次回のマーケティングにいかすようにする。
11回目	【課題発見②】各自でブライダル業界の問題点を探し出し、課題を上げる。
12回目	【問題発見・解決の基本技法】1年次の技法を駆使し、あげた課題について、現状をリサーチする①
13回目	【問題発見・解決の基本技法】現状のリサーチから解決法を提案するため、リサーチする①
14回目	【問題発見・解決の基本技法】現状のリサーチから解決法を提案するため、リサーチする②
15回目	【最終プレゼン】課題発表
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・課題①・・・50% ・課題②・・・50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルメイク I					
開講科目英名	Bridal Make I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				4	

【担当教員、実務者経験】

フリーのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動をしなが、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

「ブライダルメイクの基礎技術～接客メイク」

【到達目標】

カウンセリングメイクの習得→顔の個性やイメージメイクをよく理解し、似合わせる技術を身に付け相手の要望に応える事ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】ブライダルヘアメイクにおいて必要な目標を理解し前期の授業内容を把握できるようになる。 【イメージメイク理論① 顔分析】メイクの基本である顔分析を理解しイメージメイクのバリエーションを理解することができる。
3-4回目	【イメージメイク理論② 錯覚・修正メイク・ポイントメイクテクニック】 ・メイクアップの効果、錯覚による効果を理解することができる。・眉の様々な形とそれぞれのイメージを知り描けるようになる。
5-6回目	【イメージメイク理論③ ポイントメイクテクニック】 アイメイク・リップ・チーク・ハイライト・ローライトの、様々な入れ方とそれぞれのイメージや効果を知り表現できるようになる。
7-8回目	【イメージメイク理論④ カウンセリングメイク】 メイクの強弱のパターン、カウンセリングの仕方を学び、色・形・質感で似合わせる事ができるようになる。
9-10回目	【イメージヘアメイク①】キュートメイクの特徴を理解し接客ができるようになる
11-12回目	【イメージヘアメイク②】エレガントメイクの特徴を理解し接客ができるようになる。
13-14回目	【イメージヘアメイク③】フレッシュメイクの特徴を理解し接客ができるようになる。
15-16回目	【イメージヘアメイク④】クールメイクの特徴を理解し接客ができるようになる。
17-18回目	【ブライダルメイク実習①】ブライダルメイクの特徴を知り、ブライダルのキュートヘアメイクを作れるようになる。
19-20回目	【ブライダルメイク実習②】ブライダルのエレガントヘアメイクを作れるようになる。
21-22回目	【ブライダルメイク実習③】ブライダルのフレッシュヘアメイクを作れるようになる。
23-24回目	【ブライダルメイク実習④】ブライダルのクールヘアメイクを作れるようになる。
25-26回目	【イメージメイクテスト】相モデルでカウンセリングを行い、相手の要望に応えたブライダルメイクができるようになる。
27-28回目	【確認演習】前期テストを意識したカウンセリングヘアメイクができるようになる。
29-30回目	1年生モデルの要望に応えたヘアメイクを完成させることができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験ヘアメイク 50% ・カウンセリング力 50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	ブライダルメイク II					
開講科目英名	Bridal Make II	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			4		

【担当教員、実務者経験】

フリーのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動をしなが、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

企業プロジェクトに向けたイメージメイク・接客メイク

【到達目標】

前期から学んでいる似合わせメイクの技術を、企業プロジェクト等を通して練習を重ね、常にトータルバランスを考えて提案をすることができるようになる。
ブライダルに携わる者としての自分磨き、接客態度をより意識し、心地の良いヘアメイク施術ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	前期授業の振り返り、理解度確認を行い、今後の授業の流れを理解することができる ※ブライダルヘアアレンジの授業との兼ね合いを確認する
3-4回目	【シニオンスタイル】メイクアレンジのバリエーションを増やすために検索や参考雑誌からスタイルブックを作成する
5-6回目	【シニオンスタイル】スタイルブックから定めたヘアアレンジに似合うメイク練習を行う
7-8回目	【ダウンスタイル】メイクアレンジのバリエーションを増やすために検索や参考雑誌からスタイルブックを作成する
9-10回目	【ダウンスタイル】スタイルブックから定めたヘアアレンジに似合うメイク練習を行う
11-12回目	【和装】髪を使用したメイクの仕方を学ぶことができる
13-14回目	【和装】和髪に似合ったメイクの方法を学ぶことができる(白無垢)
15-16回目	【和装】和髪に似合ったメイクの方法を学ぶことができる(色打掛)
17-18回目	課題① 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジに見合うメイクを考察して練習することができる
19-20回目	課題① 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジに見合うメイクを考察して練習することができる ※撮影を行い発表資料を作成する
21-22回目	課題① 作成した作品の発表を行い、コーディネートバランスを評価しあって改善につなげることができる ※ブライダルヘアアレンジ授業と合同
23-24回目	課題② 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジに見合うメイクを考察して練習することができる
25-26回目	課題② 指定ドレスからテーマを考え、2種のヘアアレンジに見合うメイクを考察して練習することができる ※撮影を行い発表資料を作成する
27-28回目	課題② 作成した作品の発表を行い、コーディネートバランスを評価しあって改善につなげることができる ※ブライダルヘアアレンジ授業と合同
29-30回目	総まとめ 撮影した写真作品を見直し、上達レベルを確認することができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・スタイルブック製作の取り組み 25% ・発表成果 50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダル応用 I			時間数 (単位)	30 2		開講区分
開講科目英名	Bridal Application I	授業形態	講義演習				
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。

【授業の学習内容】

BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会発行の『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』『ブライダル用語辞典』を使用し、ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識の修得をワークを通して図るとともに、後期の国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級の取得を目指す。

【到達目標】

ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識をワークを通して修得し、用語については説明することができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	1: ガイダンス・ブライダルコーディネーター技能検定についての説明・【結婚の定義】について理解する 2: 【日本の結婚状況】・【ブライダル市場】・【ブライダル業界の1年と集客システム】について理解し、説明できるようになる
2回目	1: 【宗教と結婚式】 【結婚に関する風習・いわれ】について理解し、説明できるようになる 2: 【キリスト教式の歴史】について理解し、説明できるようになる
3回目	【キリスト教 プロテスタント】の式次第を理解し、説明できるようになる
4回目	1: 【キリスト教 プロテスタント】の式次第を理解し、説明できるようになる 2: 【人前式】【シビル・マリッジ】について理解し、説明できるようになる
5回目	1: 【神前式の歴史】について理解し、説明できるようになる 2: 【神前式 式次第】を理解し、説明できるようになる
6回目	1: 【仏前式】歴史と現状・式次第について理解し、説明できるようになる 2: 【披露宴のスタイル・進行】について理解し、説明できるようになる
7回目	【披露宴のスタイル・進行】について理解し、説明できるようになる
8回目	【披露宴の基本演出】について学び、トレンドについて調査する
9回目	【引出物・引菓子の手配】・【記録・記念アイテム】について理解し、手配できるようになる
10回目	【海外ウェディング】・【2次会】・【新婚旅行】の現状を理解し、説明できるようになる
11回目	【ブライダル関連業種】について理解し、ブライダル業界を取り巻く環境について説明できるようになる
12回目	【成約から当日までの一連の業務】について学び、それぞれの時期で手配するアイテムなどを説明することができるようになる
13回目	【ブーケ・フラワーアイテム】について学び、テーマに沿ってフラワーコーディネーターできるようになる
14回目	【会場コーディネーター】について学び、テーマに沿って会場コーディネーターできるようになる
15回目	総まとめ 復習を行い、理解度を確認することができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・ブライダル用語辞典 40% ・ワーク作品 60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダル用語辞典 ・授業内でプリントを配布します。	

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダル応用Ⅱ			時間数 (単位)	30 2		開講区分
開講科目英名	Bridal ApplicationⅡ	授業形態	講義演習				
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。

【授業の学習内容】

BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会発行の『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』『ブライダル用語辞典』を使用し、ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識の修得を図るとともに、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級の取得を目指す。

【到達目標】

「ブライダルコーディネーター技能検定3級」の合格を目指します！！

回数	授業計画・内容
1回目	【ペーパーアイテム】について学び、それぞれの必要性を説明できるようになる
2回目	【料理・ドリンク・ケーキ】について歴史から現状について学び、それぞれの料理の特徴などについて説明できるようになる
3回目	【見合いと婚約】について歴史と現状を理解し、説明できるようになる
4回目	【結納・婚約式】について学び、それぞれの品の由来や意味などが説明できるようになる
5回目	【ブライダルのエリア特性】について学び、地域ごとの特色を説明することができるようになる 【欧米の結婚式】について学び、歴史と文化について説明することができるようになる
6回目	【コーディネーター業務】について学び、それぞれの役割に沿った業務について説明できるようになる
7回目	【新規業務】について学び、役割を理解して説明することができるようになる
8回目	【成約業務】について学び、役割を理解して説明することができるようになる
9回目	【成約から当日までの一連の業務】について学び、それぞれの時期で手配するアイテムなどを説明することができるようになる
10回目	【技能検定対策①】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
11回目	【技能検定対策②】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
12回目	【技能検定対策③】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
13回目	【技能検定対策④】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
14回目	【技能検定対策⑤】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
15回目	総まとめ プランナーとしての役割・立場を理解し、見直すことができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・ブライダル用語辞典小テスト・・・40% ・確認試験・・・60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダル空間コーディネート I						
開講科目英名	Bridal space coordinate II	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経歴】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。
 フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター

【授業の学習内容】

ウェディング会場装飾に必要なアイテムとその役割を学ぶ。ブライダルにおける空間コーディネート、テーブルコーディネートを学ぶ

【到達目標】

ブライダルにおける空間コーディネート・テーブルコーディネートの基本が出来るようになる。
 根拠に基づいた提案が出来るようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	授業の目的・目標について理解する。プレゼンテーション・マーケティングについて理解する。 空間コーディネートとは？ブライダルに必要なコーディネートを理解することができる。
3-4回目	企業プロジェクトチーム分け 6名×4チーム ・役割分担決定 会場装花 ・キャンドルについて理解する
5-6回目	課題会場のイメージを理解し、テーマ決め・装飾イメージを付ける
7-8回目	トレンドやペルソナ像から収集したリサーチ情報を元に意図・根拠に基づいたコーディネートを考える。ターゲット・方向性を定める。 企画・コンセプトシート・PPT・原稿作成
9-10回目	カメラマキャンドルショールーム見学で、空間装飾するアイテムをリサーチ・考察する。
11-12回目	企画概要書(コンセプトシート)・PPT・原稿の確認・発表を行い、トータルバランスを考え、より良くするために案を他チームからもらう
13-14回目	食空間コーディネートについて理解する→基本的テーブルセッティングが出来るようになる① テーブルクロス・照明説明
15-16回目	食空間コーディネートについて理解する→基本的テーブルセッティングが出来るようになる②(理解の再確認) テーブルクロス・照明説明
17-18回目	テーブルクロス決定・キャンドル他コーディネートアイテム・BGM決定をし、さらに空間コーディネートのイメージをつけることができる。 ・フラワーコーディネート決定させ、発注を行う
19-20回目	最終作品発表のためのテーブルフラワー作成・テーブルコーディネート、PPTの作成を行って行く。
21-22回目	リハーサル テーブルコーディネート・PPTの確認①
23-24回目	リハーサル テーブルコーディネート・PPTの確認② 時間内にセッティングを行う
25-26回目	リハーサル テーブルコーディネート・PPTの確認③ 時間内にセッティングを行う
27-28回目	最終発表を行い、学びの成果を披露することができる。
29-30回目	発表の振り返り映像を確認し、次年度の学びにつなげることができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ・各自コンセプトシート20% ・デザインシート提出20% ・各役割についての評価20% ・最終発表の評価(授業内容的評価)40%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	ブライダル実務 I						
開講科目英名	Bridal Practical I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2		

【担当教員 実務者経験】

フローリストナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。
フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていつも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

ブライダルにおけるトータルの知識を用いて、その重要性和アプローチ方法・コーディネート力を身に付ける

【到達目標】

御見積、進行表(ディスク)、指示書を作成できるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の流れを説明する
2回目	挙式・披露宴に必要な資料を理解することができる
3回目	挙式の進行表を作成する 何の項目が必要か考察する(1年次に行った模擬挙式を各自振り返る)
4回目	進行表の見直しを行い、作り直して完成させることができる。 (もらったアドバイスをもとに作り直す / 他人から見て見やすいか・わかりやすいか・漏れている事項はないか)
5回目	御見積の内訳と利益構造を知る
6回目	発注物の種類を知り、指示書を理解する イメージシート、御見積、進行表を作成する①
7回目	発注物の種類を知り、指示書を理解する イメージシート、御見積、進行表を作成する②
8回目	発注書に対して必要な内容を理解し、作成することができる
9回目	課題① ペルソナ情報をもとに、挙式のを提案し、その提案をもとに必要な資料を作成することができる(イメージシート・提案書・見積書・進行表も含む)①
10回目	課題① ペルソナ情報をもとに、挙式のを提案し、その提案をもとに必要な資料を作成することができる(イメージシート・提案書・見積書・進行表も含む)②
11回目	課題① ペルソナ情報をもとに、挙式のを提案し、その提案をもとに必要な資料を作成することができる(イメージシート・提案書・見積書・進行表も含む)③
12回目	課題①に対して振り返りを行い、改善点を見つけて次回につなげることができる。
13回目	課題② ペルソナ情報をもとに、挙式のを提案し、その提案をもとに必要な資料を作成することができる(イメージシート・提案書・見積書・進行表も含む)①
14回目	課題② ペルソナ情報をもとに、挙式のを提案し、その提案をもとに必要な資料を作成することができる(イメージシート・提案書・見積書・進行表も含む)②
15回目	課題②に対して振り返りを行い、改善点を見つけて次回につなげることができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・提出物・・・60% ・課題・・・40%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	フラワーアクセサリ－ I						
開講科目英名	flower accessory I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。
 フLOWER装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター2級

【授業の学習内容】

ブライダルフラワーについて 特に花嫁に関するフラワーコーディネートを学ぶ

【到達目標】

ブライダルブーケ・ヘアードについての基本を理解し、コーディネート提案から制作までできるようになる。

回数	授業計画・内容
----	---------

1回目	オリエンテーション この授業の目標点について ウェディングスタイリストに必要な事と目的について
2回目	配色のセオリー 色相・トーン・配色を理解しコーディネート出来るようになる
3回目	イメージとカラーの関係性を理解し、イメージからコーディネート出来るようになる
4回目	ブーケの種類と使用花材、カラーコーディネートについて理解する ブーケデザインが出来るようになる
5回目	ヒアリングの大切さを理解し打ち合わせを円滑に進めることができるようになる
6回目	好みのドレスと似合うドレスパーソナルチェックシートを利用し、骨格・パーソナルカラーから似合うドレスをコーディネート出来るようになる →スタイリングコンセプトシート
7回目	ヒアリングからスタイリングコンセプトシートを作成する ※提出課題 スタイリングコンセプトシート
8回目	スタイリングコンセプトシートからブーケ・ブートニア・ヘアードのデザインをする。デザイン画・花材決めをい、花材の本数、価格を調べて発注書作成 ※デザイン画・発注書提出
9回目	実習① アーティフィシャルフラワーを使用して花材のワイヤーテクニック・テーピングができるようになる →ヘアード作成ができるようになる
10回目	実習② アーティフィシャルフラワーを使用して花材のワイヤーテクニック・テーピングができるようになる →ブートニア・コサージュが作成できるようになる
11回目	実習③ アーティフィシャルフラワーを使ってクラッチブーケ+ブートニアが作成できるようになる
12回目	実習④ アーティフィシャルフラワーを使ってラウンドアレンジメントが作成できるようになる
13回目	実習⑤ アーティフィシャルフラワーを使ってラウンドブーケが作成できるようになる →ブーケの仕組み・リボン・バック処理・ステム処理・ブートニア
14回目	実習⑥ アーティフィシャルフラワーを使ってカスケードブーケが作成できるようになる →ブーケの仕組み・リボン・バック処理・ステム処理・ブートニア
15回目	カスケードブーケの仕上げ・チェックと撮影 →ワイヤーテクニック・テーピング・リボン・ブーケ・ブートニア

評価基準
 A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。
 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法
 本授業においての評価は以下の割合にておこなう。
 ・提出課題 50%
 ・技術習得 50%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	フラワーアクセサリィⅡ						
開講科目英名	flower accessory Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。
 フLOWER装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター2級

【授業の学習内容】

ブライダルフラワーについて 特に花嫁に関するフラワーコーディネートを学ぶ

【到達目標】

企業プロジェクトのブーケ提案・コーディネート・デザイン・花材発注・製作までを一貫して行う

回数	授業計画・内容
1回目	前期の振り返りを行う(ブーケの種類について)
2回目	課題①花嫁のイメージ(ドレス・小物など)を決め、それに合ったブーケの制作にかかる(イメージシートの作成)
3回目	課題①コンセプトシート・スタイリングシート・ブーケデザインを作成し、花材発注を行う ※提出課題 スタイリングシート・コンセプトシート・花材発注書
4回目	課題①発注した花材で実際にブーケを作成 →ブートニア・リボンまで完成させる①
5回目	課題①発注した花材で実際にブーケを作成 →ブートニア・リボンまで完成させることができる②
6回目	課題①コンセプトシート・スタイリングシートを用いて、ブーケのプレゼンを行う(発表) フィードバックをもって理解度を確認することができる
7回目	フラワーヘアアクセサリィのデザインについて学ぶ。(バランス・用途・デザイン・カラーなど)
8回目	課題②アーティフィシャルフラワーを使ってフラワーピンを作成する。(洋装用)
9回目	課題③アーティフィシャルフラワーを使ってフラワーピンを作成する。(和装用)
10回目	課題④花嫁のイメージ(ドレス・小物など)を決め、それに合ったフラワーヘアアクセサリィの制作に取り掛かる ※テーマ指定あり・ペルソナ指定あり
11回目	課題④コンセプトシート・スタイリングシート・ブーケデザインを作成し、花材発注を行う ※提出課題 スタイリングシート・コンセプトシート・花材発注書
12回目	課題④発注した花材で実際にフラワーヘアアクセサリィを作成①
13回目	課題④コンセプトシート・スタイリングシートを用いて、ブーケのプレゼンを行う(発表) フィードバックをもって理解度を確認する
14回目	ブーケの振り返りを行うことができる
15回目	フラワーヘアアクセサリィの振り返りを行うことができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・提出課題 50% ・技術習得 50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	プレゼンテーションスキルⅢ						
開講科目英名	Presentation skillⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						
【担当教員、実務者経験】							
<p>航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当すると同時に若年者への指導、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>伝えなければいけないことを明確にでき、自分の言葉にするためには、常に考え伝える練習が必要である。プレゼンテーションの練習だけではなく、ディスカッションを通して、自分の言葉で語れるようにする。</p>							
【到達目標】							
<p>社会で必要とされるプレゼンテーションスキルを身に付け、聴き手を確実に行動に導くことが出来るプレゼンテーションができるようになる。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の目標を理解することができる
2回目	プレゼンテーションの基本(良いプレゼンと悪いプレゼンの違いを認識することができる) 1年次の自分のプレゼンテーションを再度確認する
3回目	演習(プレゼンテーション)2回目の内容を理解して、現時点での自分自身のプレゼンテーションスキルを理解できるようになる①
4回目	演習(プレゼンテーション)2回目の内容を理解して、現時点での自分自身のプレゼンテーションスキルを理解できるようになる②
5回目	どのようなプレゼンテーションを作りたいかをイメージして、その伝わる方法を考える
6回目	プレゼンテーションの構成を考える(相手に伝わるプレゼンテーションの構成を考えることが出来る)
7回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる①
8回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる②
9回目	演習(プレゼンテーション)5回目の内容を理解して、伝わるプレゼンテーションの構成を考え、伝えることができるようになる③
10回目	課題(課題の内容発表、計画書作成)
11回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる①
12回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる②
13回目	演習(プレゼンテーション)構成や内容を考え、相手が行動に移せるプレゼンテーションができるようになる③
14回目	課題発表① 相手のプレゼンテーションを聞いてどれだけ成長したかを評価しあい、レベルアップを実感することができる。
15回目	課題発表② 相手のプレゼンテーションを聞いてどれだけ成長したかを評価しあい、レベルアップを実感することができる。
評価基準	<p>A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される</p>
評価方法	<p>本授業においての評価は以下の割合にておこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して適切に答えているか ・自分の言葉で発表することができるか ・論理的な説明ができているか
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	プレゼンテーションスキルⅣ						
開講科目英名	Presentation skillⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当すると同時に若年者への指導、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。

【授業の学習内容】

伝わるコミュニケーションの基礎を理解して身につけ、プレゼンテーションの基本から応用までを、復習しながら確実に習得していく。様々なワークを通して、責任感、協調性、マナー、個人ワークを通じて主体性、パソコンスキルなど社会人として必要となる基礎力も同時に習得する。情報共有のツールとして、Teamsを積極的に活用していく。

【到達目標】

人に聞いてもらえる、人に共感してもらえる、人に行動してもらえるプレゼンテーションができるようになることを目指す。さらに、社会人として必要なビジネスマナーの意義を知り、実践の場でも活かせる行動を習得することで、社会でも活躍できるスキルも同時に身に付ける。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業内容、評価等の説明、 マインド設定など最終目標に向けてモチベーションを高める。 PDCAを使って仕事の基本的な使い方を知ることができる
2回目	プレゼンテーションの基本① 信頼関係の築き方 見た目を整えることによって、相手との信頼を築き、話を聞いてもらえるようになることを理解できるようにする
3回目	プレゼンテーションの基本② 言葉遣い、話し方のテクニックを身に付け、相手に伝わる話し方ができるようになる
4回目	プレゼンテーション 実践① 発表練習 基本内容がプレゼンテーション内で活かせるようになる
5回目	中間確認発表① 相手に伝えたいことが伝わっているか確認することができる。
6回目	中間確認発表② 相手に伝えたいことが伝わっているか確認することができる。
7回目	プレゼンテーション 実践② 発表方法の準備 様々なプレゼンを視聴してグループのスタイルを考えられるようになる
8回目	プレゼンテーション 実践③ 発表方法の準備 様々なプレゼンを視聴してグループのスタイルを考えられるようになる
9回目	プレゼンテーションの基本④ マナーや言葉遣いの見直し マナーを完璧にすることで信頼感を与えるプレゼンテーションをすることができる
10回目	大課題① 今までの知識と学びを振り返って自分なりのプレゼンテーションを作成する①
11回目	大課題① 今までの知識と学びを振り返って自分なりのプレゼンテーションを作成する②
12回目	大課題① 今までの知識と学びを振り返って自分なりのプレゼンテーションを作成する③
13回目	大課題① 発表 各自プレゼンテーションを行い、身だしなみや姿勢・表情も含め、相手を引き付けるプレゼンが来ているかを確認することができる①
14回目	大課題① 発表 各自プレゼンテーションを行い、身だしなみや姿勢・表情も含め、相手を引き付けるプレゼンが来ているかを確認することができる②
15回目	振り返り 企業プレゼンを振り返り、成功した点、反省点を洗い出すことで、目標達成度合いや計画通りに運んだのかを認識することができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・評価を授業内で行う60%(与えられた課題についてのプレゼンテーションを行う) ・授業ノート、プレゼンテーション評価シート40%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	映像制作 I					
開講科目英名	Video Production I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	プライダルマネジメント科				4	
【担当教員・実務者経験】						
フリーランスとして約10年、そして約5年キャンプがクオンを□□立ち上げ現在はマリンスポーツ施設のマネージメントを行いつつ、PV撮影やライブ配信といった映像制作も携わっています。						
【授業の学習内容】						
カメラ・PCまたはスマートフォンを用いて映像制作の基本を習得します。						
【到達目標】						
映像制作するための基本的なカメラワークはもちろん、編集技術の習得。また、制作した映像の依頼者や見る人の気持ち考えられるような視点を身につけることも目標とします。						
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容			
1回目	(オリエンテーション)カメラ・編集についての概要を理解する	16回目	(PC編集の習得①)映像データを元に編集を進めていく 前期よりもスムーズに編集作業を進めることができるようになる			
2回目	(カメラ基本操作の習得)カメラの基本概要を理解し、動画編集時に必要な「状況説明」「インパクト」のある映像を撮れるようになる	17回目	(PC編集の習得②)編集 前期よりもスムーズに早く編集作業を進めることができるようになる			
3回目	(PC編集の習得①)編集ソフトPremiereの基本概要を理解し、画面の基本操作・素材取り込み・ファイルの保存ができるようになる	18回目	(PC編集の習得③)完成映像を確認し書き出しする、前期よりもスムーズに編集作業を進めることができるようになる			
4回目	(PC編集の習得②)映像素材・楽曲素材をタイムラインへ配置し、基本的な編集操作ができるようになる	19回目	(PC編集の習得①)映像データを元に編集を進めていく 依頼された映像制作に特化した編集なので依頼者の意図を理解した編集ができるようになる			
5回目	(PC編集の習得③)文字の追加・映像素材の倍速・スローの編集を行い、仕上げるができるようになる	20回目	(PC編集の習得②)映像データを元に編集を進めていく 依頼された映像制作に特化した編集なので依頼者の意図を理解した編集ができるようになる			
6回目	(PC編集の習得④)書き出しができるようになる／上記①～③のまとめ復習	21回目	(PC編集の習得①)映像データを元に編集を進めていく 動きのある映像制作に特化した編集なのでリズム感のある編集ができるようになる			
7回目	(演習課題)(カメラ基本操作の習得)で学んだことを自分でできるようになる	22回目	(PC編集の習得②)映像データを元に編集を進めていく 動きのある映像制作に特化した編集なのでリズム感のある編集ができるようになる			
8回目	(演習課題)PC編集の習得①～④の理解度確認し映像編集のフローを理解・自分でできるようになる	23回目	(PC編集の習得③)完成映像を確認し書き出しする 依頼された映像制作に特化した編集なので依頼者の意図を理解した編集ができるようになる			
9回目	(演習課題)「カメラ基本操作の習得」とPC編集の習得①～④を活用し、基本的な映像制作フローが理解できるようになる①	24回目	(PC編集の習得①)完成映像を確認し書き出しする 動きのある映像制作に特化した編集なのでリズム感のある編集ができるようになる			
10回目	(演習課題)「カメラ基本操作の習得」とPC編集の習得①～④を活用し、基本的な映像制作フローが理解できるようになる②	25回目	(PC編集の習得②)映像データを元に編集を進めていく CM映像制作に特化した編集なので特殊効果をつける編集ができるようになる			
11回目	(復習課題)課外授業で撮影を実際に行い印象づけできる撮影ができるようになる①	26回目	(PC編集の習得③)完成映像を確認し書き出しする CM映像制作に特化した編集なので特殊効果をつける編集ができるようになる			
12回目	(復習課題)課外授業で撮影を実際に行い印象づけできる撮影ができるようになる②	27回目	(復習課題) 課外授業で撮影する 自分で撮影する技術・知識が向上するようになる			
13回目	(復習演習)課外授業で撮影した映像データを元に作品を制作する①	28回目	(演習)撮影したものを編集する 自分で撮影したものをどうみせるか考えるのでより第三者の目線になった編集作業ができるようになる①			
14回目	(復習演習)課外授業で撮影した映像データを元に作品を制作する②	29回目	(演習)撮影したものを編集する 自分で撮影したものをどうみせるか考えるのでより第三者の目線になった編集作業ができるようになる②			
15回目	(復習演習)上記操作を活用し撮影から出力まで一貫したフローが理解できるようになる	30回目	(演習)完成 自分で撮影したものをどうみせるか考えるのでより第三者の目線になった編集作業ができるようになる			
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される					
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度評価 50% ・技術評価 50%					
受講生へのメッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員
開講科目名	英会話 I					
開講科目英名	English I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

Instructor has worked in the field of ESL for 18 years. The instructor has used the assigned textbook at this school. The instructor has taught in SHS, University, JHS, English schools and taught business English to corporate employees. The instructor has taught at this school for three years.

【授業の学習内容】

ホスピタリティ業界で使用される英会話をコミュニケーションを取りながら学ぶ

【到達目標】

英語話者と日常会話レベルでコミュニケーションをとるため基礎的な英文法と語彙を理解できるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	この授業の目的・目標と、英語／日本語の違いを理解し、英語学習に対して具体的なイメージを構築できる
2回目	「be動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「一般動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「過去形(be動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「過去形(一般動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
6回目	「進行形(現在 / 過去 / 未来)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
7回目	「未来形(will / be going to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
8回目	「助動詞(can / may / should / must / have to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
9回目	「受動態」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
10回目	「現在完了形①(概念 / 継続)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
11回目	「現在完了形②(経験 / 疑問 / 否定)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
12回目	「不定詞 / 動名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
13回目	「第4文型 / 第5文型」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
14回目	前回までの単元を復習し、習得状況を確認することができる。
15回目	現時点での理解度を確認し、今後の学習に向けて具体的な目標を構築することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 筆記試験 60点 授業態度 10点 課題・提出物 30点
受講生へのメッセージ	苦手意識を持たず楽しく学びましょう!
【使用教科書・教材・参考書】	
・講師作成プリント	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	英会話Ⅱ						
開講科目英名	EnglishⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

Instructor has worked in the field of ESL for 18 years. The instructor has used the assigned textbook at this school. The instructor has taught in SHS, University, JHS, English schools and taught business English to corporate employees. The instructor has taught at this school for three years.

【授業の学習内容】

ホスピタリティ業界で使用する英会話をコミュニケーションを取りながら学ぶ

【到達目標】

基礎的な英文法・語彙を理解し、英語話者と必要なコミュニケーションがとれるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	初対面のあいさつ～お別れまでの会話を理解し、話すことができるようになる。
2回目	自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答えをすることができる。
3回目	天気についての語彙を理解し、短時間の世間話ができるようになる。
4回目	食べ物や趣味嗜好などの好き・嫌いについての会話ができるようになる。
5回目	意見を尋ねる/意見を述べる/人を何かに誘う/誘われた際に返答することができるようになる。
6回目	前回までの単元を復習し、習得状況を確認することができる。
7回目	家族について話したり尋ねることができるようになる。
8回目	自分や相手の性格について話すことができるようになる。
9回目	人を褒める/褒められた際の会話表現について学び、(衣服など)着ているものに関して述べるができる。
10回目	自分や相手の日々の習慣について話したり尋ねることができる。
11回目	会話の中の追加質問について学び、語彙を習得することができる。
12回目	順序について話したり尋ねることができる。
13回目	前回までの単元を復習し、習得状況を確認することができる。
14回目	これまでの学習で習得した語彙・文法を用いて、長時間の会話をすることができる。
15回目	現時点での理解度を確認し、今後の学習に向けて具体的な目標を構築することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 筆記試験 60点 授業態度 10点 課題・提出物 30点
受講生へのメッセージ	苦手意識を持たず楽しく学びましょう!

【使用教科書・教材・参考書】

・講師作成プリント

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
開講科目名	企業研究Ⅱ					
開講科目英名	Corporate researchⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。

【授業の学習内容】

実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。

【到達目標】

前期で学んだブライダルマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【クラスオリエンテーション・予備調査】本クラスで扱う課題と進め方の概略について理解し予備調査を始める。簡単な企業リサーチができるようになる。
2回目	【外内部環境リサーチ】課題解決に向けて必要な情報を収集する。多種多様な情報ソースから必要と思われる情報にアクセスできるようになる。
3回目	【企業オリエンテーション】企業からのオリエンテーションを受け、話の内容から現状の把握、課題内容の把握を聞き取り整理できるようになる。
4回目	【課題設定・解決策検討】マーケティングのフレームワークを駆使し、課題の解決策を検討する。仮説検証力を身につけることができる。
5回目	【解決策検討・資料作成】前回に引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
6回目	【解決策検討・資料作成】先週に引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
7回目	【中間確認リハ】翌週の中間確認に向け最終チェックを行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
8回目	【中間報告】ここまで立案してきた内容を企業に伝えフィードバックを行う。伝えるべき内容を相手にわかりやすく伝えることができるようになる。
9回目	【リサーチ&解決策検討】不足情報のリサーチと解決策の検討、論理構成の強化を行う。説得力ある論拠を導き出せるようになる。
10回目	【解決策検討・資料作成】前回に引き続き解決策の検討を実施し、最終的な解決策を立案する。問題解決力を強化することができる。
11回目	【最終プレゼンリハーサル】翌週の最終プレゼンに向けリハーサルと改善を行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
12回目	【最終プレゼンテーション】ここまで検討してきた課題解決の提案を実施する。ビジネスプレゼンテーションを経験し今後の成長に活かすことができるようになる。
13回目	【講師フィードバック】最終プレゼンを受けて講師からの個別フィードバックを行う。現状不足しているスキルを理解することで今後の成長に活かすことができる。
14回目	【マーケティング総まとめ】簡単なテストやレポートを実施し、ここまで学んできた内容を整理する。この授業からの学びを体系的に理解できるようになる。
15回目	【最終フィードバック】講師からのフィードバックを受ける。現状の立ち位置を理解することで今後の成長を効果的に加速できるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・担当企業へのプレゼンテーション(60%) (内訳)提案内容の論理構成:50%、プレゼンでの表現力:50% ・マーケティング理解力テストの成績(20%) ・授業態度評価(20%):課題への取り組み意欲
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
開講科目名	就職対策Ⅲ					
開講科目英名	Employment SupportⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。

【授業の学習内容】

一年次で学んだ「ブライダル接客」から「就職対策」の学びに引き続き、自己分析と企業研究をより深めます。2022年12月ごろから本格始動する就職活動に向けて、具体的にどんな「学チカ」を作っていくのか計画を立て、実行していきながら、自分の過去、現在、未来を深掘りし、的確な言葉で具体的に伝えるスキルを磨きます。リアルタイムの企業研究を実施することで、自分が活躍する舞台となる企業選びの参考にすることができます。

【到達目標】

- ・就職活動に向けての、自己分析と企業研究をより深めることができるようになる。
- ・自己分析で得た自己理解を、的確な言葉で具体的に他者に伝えることができるようになる。
- ・自分が働きたい業界の現状を的確に把握し、就職希望先を具体的にイメージできるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	一年次の振り返りをしながら、この講義で学ぶ内容や到達目標を理解する。年間行事や資格試験、スケジュールを鑑み、年間計画と目標を立てることができる。
2回目	【自己分析】自己PRの完成度を確認する。自分の過去を振り返り、見落としてしまっている強みはないか確認する。
3回目	【業界研究】数ある業界の中で、ブライダル業界の現状や今後の展望の特徴を調査し、発表する。
4回目	【自己分析】自分の現状と理想の未来像を理解する。自分の興味やモチベーションの源、夢や理想のライフイメージを言語化し、他者に分かりやすく伝えることができる。
5回目	グループディスカッション演習。テーマに基づき、印象よく、他者とコミュニケーションを取りながら、自分の意見もわかりやすく印象よく伝えることができる。短い時間の中で、自分のコミュニケーションスキルを存分に発揮できるようにする。
6回目	【企業研究】ブライダル業界の中から気になる企業を調べ、それについてわかりやすく発表する。自分が就職活動において、重視しているポイントを理解し、就職活動の軸を明確に言語化できるようにする。
7回目	【自己分析】学チカの内容を精査し、6月から12月までの約半年間で、アピールできるネタとなりうる活動や得たい力を明確にすることができる。
8回目	グループ面接演習。グループ面接の際の留意点を実行しながら、面接官の限られた質問から、余すことなく自分の強みを伝えられるようにする。
9回目	セルフプレゼンテーション演習。自己分析をもとに、自分のことを他者にわかりやすく表現することができるようになる。
10回目	質疑応答演習。多彩な質問にも柔軟に自分らしく返答できるようになる。
11回目	個人面接演習。誠実さの伝わる立ち居振る舞いも含めて、自己分析した内容をもとに、わかりやすく具体的に質疑応答できるようになる。
12回目	前回の個人面接の振り返りと前期の学びの復習。13回目までの行動目標。
13回目	実践(個人面接質疑応答)
14回目	実践振り返り。初回からの成長を振り返るとともに、自分の今後の課題もまとめ、目標をもって行動できるようになる。
15回目	後期に向けての目標設定をし、スケジュールを立てることができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実践・・・100点(個人面接質疑応答)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成プリント	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
開講科目名	就職対策Ⅳ					
開講科目英名	Employment SupportⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】
・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。
【授業の学習内容】
・希望の就職先に就職するための準備を整えます。今までの積み重ねにさらにプラスして、自己理解を深め、より具体的に、効果的に自分を伝えられるようにします。 ・実際の面接の場面で緊張に負けないメンタルと自信をつけるための実践演習を重ねます。
【到達目標】
・自己イメージの通りに自分を伝えるポイントを理解し、実践できるようになる。 ・自己分析を深め、的確に、簡潔に、効果的に他者に伝えられるようになる。 ・一緒に働きたいと思われる人格を磨き、さらに立ち居振る舞いなどを洗練させられるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 ・就職とは何かを再確認することができる。 ・自分の就職意識レベルを確認し、何をすべきか明確にすることができる。
2回目	【面接で伝える自己理解を深める】 模擬面接の改善点を理解し、今の自分のすべきことを理解し、行動できる。
3回目	【履歴書を書く】 ・印象の良い履歴書の書き方のポイントを知ることができる。 ・自己PR、学チカ、志望動機の書き方のポイントを知ることができる。
4回目	【オリジナルティあふれる自己PRを創ろう】 ・自己PRの内容をグループでさらに深めることができる。 ・印象良く、自己PRを伝えるポイントを知ることができる。
5回目	【得意・努力した科目を見直す】 ・得意・努力した科目について、伝える表現ができていないか確認することができる。 ・印象良く、表現力豊かに伝えることができる。
6回目	【印象の良いグループディスカッションを実践する】 ・グループディスカッションの目的を理解し、面接官に印象の良い参加の仕方を知り、実践できる。 ・オンラインの場合の注意点やポイントを理解できる。
7回目	【グループ面接演習①】 ・グループ面接演習を通して、他者が話しているときの態度や傾聴姿勢、自分の伝え方などを理解し、ブラッシュアップできる。
8回目	【個人面接演習①】 ・個人面接の模擬演習実践することで、多様な質問に的確かつ簡潔に答える実力をつけることができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生理解することができ、自分の印象も客観視できる。
9回目	【志望動機の書き方のポイントを知る】 ・志望動機は企業さまに対するラブレターであることを理解でき、表現できる。 ・自分の熱意が伝わりやすい表現力を知ることができ、実践することができる。
10回目	【履歴書・エントリーシートの印象の良い書き方を知る】 ・クラスメイトが作成した履歴書を添削することで、印象よく伝わる履歴書の作成方法を具体的に知ることができる。
11回目	【質問に対する対応力を磨く】 ・想定外の質問に対しても、動じることなく、自分らしく瞬時に考え、返答するスキルを磨くことができる。 ・どうしても答えが思い浮かばない際の臨機応変な対応を知り、実践することができる。
12回目	【実技演習 グループ面接演習②】 ・前回の実技での改善点を改善できるか確認できる。 ・端的に的確に自分の想いを伝えることができる。
13回目	【実技演習 個人面接演習②】 ・どのような質問に対しても、動揺することなく、返答できる自信をつけることができる。
14回目	【実技試験 個人面接③】 演習の成果を本番さながらに発揮し、緊張感も克服できる自信を身に付けることができる。
15回目	【総まとめ】 内定獲得に向けて、折れないモチベーションを獲得できる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実践…60点(個人面接実技応答) ・課題提出…16点(履歴書提出) ・技術評価…24点(各回の面接演習の際の取り組み姿勢と習熟度。演習日5回×3点。それ以外9回×1点)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
・講師作成プリント ・就活ノート(自作作成用)	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	着付Ⅲ						
開講科目英名	KitsukeⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・筆筒整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営・日本文化を通して学ぶ大人の教養講座を行っている。

【授業の学習内容】

日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では結婚式に関する着物の知識を学び、留袖の着せ付け技術の習得、男性着付けを体験する。着せ付けの技術だけでなく、日本人としての在り方、着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。また実践形式での授業で自らメモをとって知識を深める。着付けを通して、社会人としての役立ち方も同時に学んでいく。

【到達目標】

着せ付けの基本知識・技術を身に付けること。実践的な場面を想定しての練習を通して、留袖15分着せ付けを目標とする。着付けに関する基礎知識を習得しながら、本授業終了時には、留袖、お太鼓の着せ付けができ、結婚式の着物の知識を理解できるようになる。また着付けを通して日本の伝統文化に興味を持つこと、行儀作法や物を大切にすること、美しい立ち居振る舞いへの意識、相手への気遣いができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明
2回目	(実習)復習:小紋・名古屋帯の着せ付けの復習
3回目	(実習)袋帯が結び方が理解できるようになる。
4回目	(講義)婚礼の着物について理解できるようになる
5回目	(留袖)留袖の着せ付けができるようになる
6回目	(留袖・袋帯)留袖の着せ付け・二重太鼓の順序を理解できるようになる
7回目	(留袖・袋帯)準備～帯までの一連の流れができるようになる
8回目	(留袖・袋帯)留袖20分着せ付けができるようになる
9回目	(練習)留袖15分着せ付けができるようになる
10回目	(練習)留袖15分着せ付けができるようになる
11回目	(練習)留袖15分着せ付けができるようになる
12回目	(確認)留袖15分着せ付け / 準備5分/ 片付け15分 ができるか確認を行う
13回目	(講義)花嫁・花婿衣装について理解できるようになる
14回目	(確認) 今までの授業の理解度を確認する
15回目	(実習)男性着付けを体験する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験 40% ・実技試験 60%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	
開講科目名	着付Ⅳ						
開講科目英名	KitsukeⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・筆筒整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営・日本文化を通して学ぶ大人の教養講座を行っている。

【授業の学習内容】

日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では既婚女性の第一礼装留袖、未婚女性の第一礼装である振袖着せ付け技術を習得する。着せ付けの技術だけでなく、日本人としての在り方、着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。また実践形式での授業で自らメモをとって知識を深める。着付けを通して、社会人としての役立つ力も同時に学んでいく。

【到達目標】

着せ付けの基本知識・技術を身に付けること。実践的な場面を想定しての練習を通して、振袖20分着せ付けを目標とする。着付けに関する基礎知識を習得しながら、本授業終了時には、留袖・振袖の着せ付けができるようになると同時にペアで作業を行うため、日本文化の心である他者を思いやる心、相手への気遣いを身に付ける。また着付けを通して日本の伝統文化に興味を持つこと、行儀作法や物を大切にすること、美しい立ち居振る舞いへの意識ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明・補正方法・長襦袢が着付けられるようになる
2回目	(他装)振袖が着付けられるようになる
3回目	(他装)振袖が着付けられるようになる・変わり結びの基本を理解することができる
4回目	(他装)変わり結びができるようになる
5回目	(他装)ペアでする着付け方法を理解できるようになる・変わり結びまでの順序が理解できるようになる
6回目	(講義)日本文化と着物についての知識を深めることができるようになる
7回目	(他装)変わり結びまでの順序が理解できるようになる
8回目	(確認)今までの授業内容の確認を行い、理解度を確認する
9回目	(講義)日本文化と着物についての知識を深めることができるようになる
10回目	振袖を20分で着せ付けることができるようになる
11回目	振袖を20分で着せ付けることができるようになる
12回目	振袖を20分で着せ付けることができるようになる
13回目	(確認)振袖20分着せ付けが行えるようにする①
14回目	(確認)振袖20分着せ付けが行えるようにする②
15回目	男性袴の着付けができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験60% ・筆記試験40%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	PRテクニック I						
開講科目英名	PR technique I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

テレビ局にて番組制作・営業企画に携わる。その後ガールズのメガイベントの実行委員として従事。クロスメディアでのプロモーションの必要性を感じ、イベント企画運営の際にも様々な媒体と連携をとりながら、SNSでのプロモーションを独学で習得。現在はPR制作会社としてイベント企画運営・動画制作・メディアリレーション・外部広報をこなす。

【授業の学習内容】

PRはいつれの職業についても必要な項目。正しい広報のあり方を知り、プロモーションの基礎を学ぶ。また宣伝という分野では特にSNSのプロモーションのやり方、効果を学び、実践に役立てる。

【到達目標】

広報と宣伝の違いを知り、それぞれのメリットを知る。各 SNSの違いを知り、目的に応じたツールを選択することができるようになり、簡単な操作ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	プロモーションの基礎について理解する。
2回目	コンプライアンスについて学び、発信する内容に責任を持つことを理解する。
3回目	インスタグラムの公式アカウント運用についてのルールを学び、指示されるアカウントの動向について学ぶ
4回目	Instagram 投稿のプランニングを学び、PR計画を立案できるようになる (PC使用)
5回目	Instagram 投稿用写真の構成について立案できるようになる (PC使用) 5限目
6回目	撮影スケジュールの策定・および撮影小道具の準備を行うことで、撮影準備の工程を学び習得する。
7回目	Instagram用 投稿写真撮影①
8回目	Instagram用 投稿写真撮影②
9回目	Instagram用 投稿写真撮影③
10回目	投稿用写真の加工 リール投稿動画の作成(PC使用)
11回目	投稿用写真の加工 リール投稿動画の作成(PC使用)
12回目	広報についての基礎知識、宣伝ツールの違いについて学び、それぞれの特徴を理解した上での確かなツールを選択できるようになる。
13回目	フェイスブックビジネスマネジャーで投稿する手法を知り、広告運用の基礎を学ぶ。
14回目	ウェディング実習現場にてSNS投稿用写真撮影→ 投稿用画像・テキストの課題提出あり
15回目	ウェディング実習現場にてSNS投稿用写真撮影→ 投稿用画像・テキストの課題提出あり
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される。□
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度 30% ・制作物[完成度(クオリティと訴求力)&提出期限] 50% ・小テスト 20%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
スマホ・パソコン	

授業シラバス

授業科目名	ビューティープランナースキル	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	イベントプランニング I					
開講科目英名	Event Planning I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】
 ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。

【授業の学習内容】
 企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】
 イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
 そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
 イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
3-4回目	【企画立案力を身に付ける】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる
5-6回目	【イベントとは】現在行われているイベントの一つを選び、そのイベントについてスケジュールや予算などを想定し、今後の企画書作りにつなげることができる
7-8回目	【企画書の作り方を身に付ける】 制作スケジュールの作成が出来るようになる。ビューティーショーを企画する。
9-10回目	【企画書の作り方を身に付ける】 公演概要書の作成が出来るようになる
11-12回目	【企画書の作り方を身に付ける】 企画書の作成が出来るようになる
13-14回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する
15-16回目	【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールの作成が出来るようになる
17-18回目	【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解し、作成出来るようになる
19-20回目	プレゼンテーションリハ ショー企画についての発表の練習を行う①
21-22回目	プレゼンテーションリハ ショー企画についての発表の練習を行う②
23-24回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる
25-26回目	【イベント制作の基礎知識】 ショー制作の流れを理解し、作成出来るようになる
27-28回目	【イベント制作の基礎知識】 反省会～報告書の作成ができるようになる
29-30回目	振り返り 反省会MTGを行い、改善点を見つける。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・グループワークへの取り組み方 30% ・プレゼンテーションへの取り組み方 40% ・提出物 30%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	イベントプランニングⅡ					
開講科目英名	Event PlanningⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	プライダルマネジメント科				4	

【担当教員、実務者経験】

ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。

【授業の学習内容】

企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
 そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
 年度末に行われる卒業進級制作展におけるイベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
3-4回目	【企画立案力を身に付ける】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる
5-6回目	【イベント内容把握・理解】 イベントについてスケジュールや予算などを想定し、今後の企画書作りにつなげることができる
7-8回目	【企画書の作り方を身に付ける】 制作スケジュールの作成が出来るようになる
9-10回目	【企画書の作り方を身に付ける】 公演概要書の作成が出来るようになる
11-12回目	【企画書の作り方を身に付ける】 企画書の作成が出来るようになる
13-14回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する
15-16回目	【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールの作成が出来るようになる①
17-18回目	【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールの作成が出来るようになる②
19-20回目	【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解し、作成出来るようになる②
21-22回目	【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解し、作成出来るようになる②
23-24回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる①
25-26回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる②
27-28回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる③
29-30回目	後期の授業に使うイベント資料をまとめ、実施に向けて準備を行っていく
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・グループワークへの取り組み方 30% ・プレゼンテーションへの取り組み方 40% ・提出物 30%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	イベントプロデュース I			時間数 (単位)	60 4	
開講科目英名	Event produce I	授業形態	講義演習			開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。						
【授業の学習内容】						
立案したイベント内容・概要を把握し、役割をもって回し、成功させることを目的とします。						
【到達目標】						
イベント当日の運営を行うことができるようになる。 イベントをプランナー目線で考慮・配慮し、取り仕切ることができるようになる。						

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
3-4回目	【全体把握】 イベントの全体的な流れを把握し、イベントの目的を再認識することができる。
5-6回目	【全体把握】 イベントスケジュールを再確認し、必要事項をあげる。
7-8回目	【全体把握】 どのような役割が必要かを考慮することができる。
9-10回目	【全体把握】 役割に対して、どのような情報共有をすることが必要かを考えることができるようになる。
11-12回目	【全体把握】 イベントスケジュールを見直し、役割担当者のスケジュールを立てていくことができる①
13-14回目	【全体把握】 イベントスケジュールを見直し、役割担当者のスケジュールを立てていくことができる②
15-16回目	【イベント準備】 イベントのシミュレーションをし、足りない部分を発見し考えることができる①
17-18回目	【イベント準備】 イベントのシミュレーションをし、足りない部分を発見し考えることができる②
19-20回目	【イベント準備】 イベントのシミュレーションをし、足りない部分を発見し考えることができる③
21-22回目	【最終確認】 イベント直前の最終確認を行い、スムーズに進行できるようにする。
23-24回目	
25-26回目	【イベント実施】 準備を行ってきた通りにイベントを実施する
27-28回目	
29-30回目	【振り返り】 イベントを振り返りを行い、成果発表を行い、改善点やよかったポイントを確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・イベントへの取り組み 80% ・準備姿勢 20%
連絡	総合コースのイベントとは別です。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	イベント実践 I						
開講科目英名	Event practice I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。

【授業の学習内容】

WE ARE JSHのビューティショーの企画立案・企画書作成、そして、イベント進行過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ実践を行う

【到達目標】

ショーを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得できるようになる
そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等を実践することができるようになる

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 これから取り組むショーイベント企画の概要・趣旨を理解する(アップデートされた情報を精査する)
3-4回目	【企画立案力】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる
5-6回目	【企画立案力】 顧客満足が高い企画とはどんなものか考えることができるようになる
7-8回目	【企画書を完成させる】 作成した制作スケジュール、公園概要書、企画書を調整する
9-10回目	【イベント制作の応用】 作成したタイムスケジュール、収支を含む必要経費等の算出・概算予算を調整する
11-12回目	【イベント制作の応用】 作成した実施マニュアルを調整する
13-14回目	【イベント制作の応用】 集客方法、ショー会場運営方法を立案できるようになる
15-16回目	【イベント制作の応用】 立案した集客方法、ショー会場運営方法を実践出来るようになる
17-18回目	プレゼンテーションリハ ショー企画についての物理的準備①
19-20回目	プレゼンテーションリハ ショー企画についての物理的準備②
21-22回目	プレゼンテーションリハ ショー企画についての物理的準備③
23-24回目	ショーの見せ方、照明、音楽等の微調整を指示できるようになる
25-26回目	WE ARE JSHでのショー実施
27-28回目	【イベント制作の応用】 反省会～報告書を作成し、改善案をプレゼンテーションができるようになる
29-30回目	振り返り 反省会MTGを行い、改善点を見つけることができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ショーへの取り組み方 70% ・提出物 30%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
なし	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	イベント総合プロデュース I						
開講科目英名	Event total produce I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ファッションや何事にも制作することが好きで、学生時代よりファッションショーやライブイベントのプロデュースを手掛け、コンテスト入賞をはじめ、神戸コレクションのショースタッフの経験を活かし、カラーコンサルタント会社にて、イベントやセミナーの企画運営、営業、雑貨デザインを担当する。現在教育機関にて、実務で活用できるビジネススキルを養成するべく、教育機関にてコミュニケーションや思考判断を重視した指導を実施し、「伝える技術」「伝わるコミュニケーション」を取り入れ、能動的に学ぶ指導に評価をいただき活動の幅を拡大している。

【授業の学習内容】

立案したイベント内容・概要を把握し、役割をもって回し、成功させることを目的とします。

【到達目標】

イベントの制作、当日の運営を行うことができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
3-4回目	【全体把握】 イベントの全体的な流れを把握し、イベントの目的を再認識することができる。
5-6回目	【全体把握】 イベントの役割を決め、各担当の内容を各自で理解する。
7-8回目	【全体把握】 イベントの役割を決め、各担当の内容を各自で理解し、他の担当と情報共有をする①
9-10回目	【全体把握】 イベントの役割を決め、各担当の内容を各自で理解し、他の担当と情報共有をする②
11-12回目	【全体把握】 イベントスケジュールの打ち合わせを行い、リスクマネジメントや足りない役割をイメージすることができる①
13-14回目	【全体把握】 イベントスケジュールの打ち合わせを行い、リスクマネジメントや足りない役割をイメージすることができる②
15-16回目	【イベント準備】 各役割の準備を行う①
17-18回目	【イベント準備】 各役割の準備を行う②
19-20回目	【イベント準備】 各役割の準備を行う③
21-22回目	【最終確認】 イベント直前の最終確認を行い、スムーズに進行できるようにする。
23-24回目	【イベント実施】 準備を行ってきた通りにイベントを実施する
25-26回目	
27-28回目	
29-30回目	【振り返り】 イベントを振り返りを行い、成果発表を行い、改善点やよかったポイントを確認することができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・イベントへの取り組み 80% ・準備姿勢 20%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	テーブルマナー I					
開講科目英名	Manners at the table, Etiquette of eating	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					
【担当教員 実務者経験】						
1998年から2000年までアルバイトで披露宴のアシスタントを経験し、2000年～2007年までホテルモントレグループにてキャプテン・ウェディングプランナーとして勤務年間120件の施行をこなす。披露宴の施行から打合せ、媒体(XY・Lei等)HP運営、エージェンツセールス 新人トレーニングに従事						
【授業の学習内容】						
日本料理 西洋料理の 食べ方だけでなく 知識と教養を深めるテーブルマナーを学習する						
【到達目標】						
おもてなしを受ける日常からの教養を身に付け 食の楽しみ 知識を深め 心地よい空間を共有 また提供することができるようになる						

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) マナーとは何かを理解する
2回目	テーブルマナーの必要性から どのような動きが不快であるか分かるようになる。お箸の持ちあげ方を整えることができる
3回目	序列の尊重を実践できるようになる。お箸の持ち方 動かし方を実践できるようになる
4回目	食の感謝を表すテーブルマナーを知る お箸で”摘まむ”取り方ができるようになる
5回目	和室の席次をりかひすることができる
6回目	嫌い箸1 御椀とお箸の持ち方や扱い方ができるようになる
7回目	嫌い箸2 汁ものの食べ方がわかるようになる
8回目	様々な道具についての知識と扱い方を知ることができる 蓋つきの御椀を扱えるようにする
9回目	頂く順を知ることができる
10回目	会席料理を知る
11回目	懐石料理を知る
12回目	日本茶を出せるようになる
13回目	様々な食べ物の扱い方を知って 日常に取り入れられるようになる
14回目	実践 お弁当を正しい順を追って 正しく扱えるようになれる
15回目	総まとめ 和室での振る舞いの基本を実践できるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・小テスト×7回 50% ・授業態度 50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
袱紗セット、筆記用具、手元箸(日常家で使っているもの)、初回 割り箸	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	トレンドメイク I					
開講科目英名	Trend Make I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

フリーのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

ブライダルのトレンドメイクを学び、メイクのコーディネートのパリエーションを増やす。

【到達目標】

メイクの知識をさらに幅広くする。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】ブライダルヘアメイクにおいて必要な目標を理解し前期の授業内容を把握できるようになる。 2年次に実施した内容を振り返る。
2回目	最近のメイクの傾向を分析する。資料やデータを集める①
3回目	最近のメイクの傾向を分析する。資料やデータを集める②
4回目	イメージブックを作成する①
5回目	イメージブックを作成する②
6回目	作成したイメージブックから、選んだメイクを実施し、トレンドのポイントをつかむことができる① ※1パターン
7回目	作成したイメージブックから、選んだメイクを実施し、トレンドのポイントをつかむことができる② ※1パターン
8回目	作成したイメージブックから、選んだメイクを実施し、トレンドのポイントをつかむことができる① ※2パターン
9回目	作成したイメージブックから、選んだメイクを実施し、トレンドのポイントをつかむことができる② ※2パターン
10回目	作成したイメージブックから、選んだメイクを実施し、トレンドのポイントをつかむことができる① ※3パターン
11回目	作成したイメージブックから、選んだメイクを実施し、トレンドのポイントをつかむことができる② ※3パターン
12回目	トレンドにどのような傾向があるかを考えて、さらに特徴をつかむことができる。
13回目	ペアで考えたトレンドの傾向を発表し、流行をPRすることができる。
14回目	振り返りを行う。
15回目	後期の授業の流れを理解し、目的を明確にする。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験 50% ・発表 50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ブライダルエステⅡ					
開講科目英名	Bridal estheticⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

エステティックサロンで技術者として約9年勤務、専門学校で講師として5年。

【授業の学習内容】

フェイシャルエステティックの基礎理論、基本技術をセルフケア、相モデル実習で行う。

【到達目標】

スキンケアなど社会人に向け、自身のセルフケアができるようになるとともに、簡単なトリートメントが提供できるようになる。相モデル実習を通して、おもてなしのスキルを向上させる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】ボディの基礎知識
2回目	【相モデル実習】フットケアの技術が習得できるようになる。
3回目	【相モデル実習】フットケアの技術が習得できるようになる。
4回目	【相モデル実習】脚痩せの技術が習得できるようになる。
5回目	【相モデル実習】脚痩せの技術が習得できるようになる。
6回目	【相モデル実習】背中ケアの技術が習得できる。
7回目	【相モデル実習】背中ケアの技術が習得できる。
8回目	サロン実習告知準備を行う。
9回目	【相モデル実習】リラクゼーションマッサージが習得できる
10回目	【相モデル実習】サロン実習練習を行う①
11回目	【相モデル実習】サロン実習練習を行う②
12回目	サロン実習を行い、お客様に対する接客と施術の実施を行う①
13回目	サロン実習を行い、お客様に対する接客と施術の実施を行う①
14回目	【相モデル実習】リラクゼーションマッサージが習得できる
15回目	【相モデル実習】総復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・レポート 50% ・授業態度 50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	ブライダルセールススキルⅡ						
開講科目英名	Bridal sales skill Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			(単位)	4		

【担当教員 実務者経験】
 リーガロイヤルホテルブライダル部7年、ザ・リッツ・カールトン大阪3年、合計10年間700組以上の最高級ウエディングを担当。その後、ブライダル専門学校講師として約500名以上の学生を大手ホテルなどのプランナーに育成。2009年、2010年にはマスターオブブライダルコーディネーターファイナリストに選出され、2014年金沢のゲストハウスで総支配人に就任し低迷していた会場をV字回復させる。その後ブライダル専門学校の学科長に就任し、2019年「今さら聞けない社会人としての常識&まな一」をつた書房より出版。大手書店にて長らく週刊ランキング1位に輝く。2020年ソムリエ免許取得。

【授業の学習内容】
 ブライダルフェアへの来場率・成約率を上げるためのポイントを学び、実際に来場率・成約率に伸び悩む企業へ改善策を考える。

【到達目標】
 実際に来場率・成功率に伸び悩む企業にヒアリングすることで、ブライダルフェアの現状を把握し、企業にあった提案が出来るようになる。

回数	授業計画・内容		
1回目	オリエンテーション	16回目	オリエンテーション
2回目	フェアへの来場者数が増えない例や、成約に結びつかない例を学ぶことができる	17回目	①ブライダルフェアに参加し、各社の特徴を学ぶことができる
3回目	新郎新婦がフェアを選ぶ際の大事な要素について学ぶことができる	18回目	②ブライダルフェアに参加し、各社の特徴を学ぶことができる
4回目	コンセプトに当てはまる結婚式を提案出来る方法を学ぶことができる	19回目	ブライダルフェアを見学し、感じた各社の特徴をまとめることができる
5回目	来場者のニーズとのミスマッチを減らす方法を学ぶことができる	20回目	今回自分たちが行うブライダルフェアの特徴を検討する
6回目	ターゲットを明確にする必要性を学ぶことができる	21回目	ブライダルフェアの集客に必要なことを再度学ぶことができる
7回目	新郎新婦の期待に応えられる満足度の高いフェアを行うための方法を学ぶことができる	22回目	業界用語ではなくわかりやすい平易な単語を使う重要性を学ぶことができる
8回目	実際に企業を訪れ、ブライダルフェアの現状と懸念点をヒアリングをする	23回目	ブライダルフェアの設定数や時間帯の重要性を学ぶことができる
9回目	企業の現状と改善策を自分の中で検討することができる	24回目	ブライダルフェアの宣伝方法について学ぶことができる
10回目	ヒアリングした内容をグループで話し合い、改善策を検討するすることができる	25回目	ブライダル関連のSNS活用とインフルエンサー成功事例について学ぶことができる
11回目	グループで検討した改善策を発表し、どの改善策が最も良いか話し合う	26回目	現状の集客予定数を把握し、より集客を増やす方法を検討する
12回目	改善策を企業に提案し、実現可能かヒアリングする	27回目	ブライダルフェアの準備を行う
13回目	いただいたフィードバックをもとに、実現可能なフェアの内容を再構築することができる	28回目	ブライダルフェアの実施
14回目	実際のブライダルフェアを見学し、提案した改善策がお客様のニーズに合っているか見ることができる	29回目	ブライダルフェアの振り返り
15回目	ブライダルフェアを見学し、感じたことをフィードバックすることができる	30回目	ブライダルフェアの反省を今後活かす方法を考えることができる

評価基準
 A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。
 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法
 本授業における評価は以下の割合にておこなう。
 ・新規接客の実践にて、アイスブレイク～クロージングまでの一通りの流れが実行できる 50%
 ・お客様の希望を汲み取った接客ができていいる 50%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】
 特になし

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	ブライダルディスプレイリサーチ I						
開講科目英名	Bridal display research I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

専門学校 ディスプレイ科でVMD、ショーイング技術を学び、卒業後、企業で営業企画部に所属、ディスプレイ業務に従事。その後フリーランスとなり、百貨店、ショッピングモール、テーマパーク、スーパー、モデルルーム、スポーツブランド(adidas Japan)、雑貨、インテリアShop(Afternoon Tea)等でディスプレイ、新店、リニューアル店舗の立ち上げ、VMD教育に携わる。

【授業の学習内容】

ブライダルの様々な現場で飾られているディスプレイ。色合いや置くもの、テーマなどコーディネートを行い、センスに磨きをかけ、統一されたディスプレイを作り上げる。

【到達目標】

テーマに合ったディスプレイができるようになる。
 "見られる"置き方、"惹きつけられる"置き方を学ぶ。
 ディスプレイでお客様を接客する・お迎えする気持ちを学ぶ。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【オリエンテーション】 授業の概要・趣旨を理解する。どんなディスプレイがあるかを考える
3-4回目	街中にあるディスプレイを探しに行く。惹きつけられるディスプレイ、目的あるディスプレイをリサーチする①
5-6回目	街中にあるディスプレイを探しに行く。惹きつけられるディスプレイ、目的あるディスプレイをリサーチする②
7-8回目	リサーチした結果を発表し、発見を情報共有することができる。新しい発見に結びつけることができる。
9-10回目	高級なものを扱う店のディスプレイから発見ポイントを探し、情報共有することができる。
11-12回目	お客様を「心地よい」気分させるディスプレイはどのようなものかをリサーチすることができる。
13-14回目	自分が一番気に入った街中のディスプレイを発見し、リサーチしに行く①
15-16回目	自分が一番気に入った街中のディスプレイを発見し、リサーチしに行く②
17-18回目	リサーチした結果を発表し、発見を情報共有することができる。新しい発見に結びつけることができる。
19-20回目	ディスプレイの季節感を表す色・ものの特徴を学ぶことができる。
21-22回目	ドレスショップのディスプレイについてリサーチすることができる。特徴や方法
23-24回目	ブライダルの現場において、どのようなディスプレイがあるかをリサーチする(売り手側の目的、ターゲット、テーマなど)①
25-26回目	ブライダルの現場において、どのようなディスプレイがあるかをリサーチする(売り手側の目的、ターゲット、テーマなど)②
27-28回目	実習室のディスプレイの施工を行う①
29-30回目	実習室のディスプレイの施工を行う②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・リサーチ時・ディスプレイ実施の取り組み方 60% ・発表への取り組み方 40%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ブライダルビジネス I					
開講科目英名	Bridal business I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】
各ブライダル企業
【授業の学習内容】
様々なブライダル企業をお招きし、現在の業界状況や仕事内容、今後の目指すゴールなどを聞き、自分の今後につなげる。
【到達目標】
業界や仕事内容を学び、どのようなかわりがあり、他業種とつながりがあるのかを学ぶ。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション ブライダルビジネスの授業の目的を理解する。
2回目	【ブライダル企業①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
3回目	
4回目	2-3回で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことができる。
5回目	【ブライダル業界②】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
6回目	
7回目	5-6回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報共有をしあうことができる。
8回目	【ブライダル業界③】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
9回目	
10回目	7-8回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報共有をしあうことができる。
11回目	【ブライダル業界④】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
12回目	
13回目	11-12回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報共有をしあうことができる。
14回目	13回目で調査した内容をレポートにまとめ、発表を行う。
15回目	振り返り「働く」と「ブライダル業界」の現状を理解し、どのような点に「やりがい」を感じるのかを考えることができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・発表 60% ・レポート 40%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
開講科目名	ブライダルビジネスⅡ					
開講科目英名	Bridal businessⅡ	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	
【担当教員、実務者経験】						
各美容企業						
【授業の学習内容】						
様々なブライダル企業をお招きし、現在の業界状況や仕事内容、今後の目指すゴールなどを聞き、自分の今後につなげる。						
【到達目標】						
業界や仕事内容を学び、どのようなかわりがあり、他業種とつながりがあるのかを学ぶ。						

回数	授業計画・内容
1回目	【演出業界①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
2回目	
3回目	1-2回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことができる。
4回目	【映像制作業界①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
5回目	
6回目	4-5回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことができる。
7回目	【ブライダルハウス①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
8回目	
9回目	7-8回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことができる。
10回目	【着物業界】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
11回目	
12回目	11-12回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことができる。
13回目	【ホテルウェディング①】業界の現状や仕事内容を学び、その企業の特徴やこだわりを理解することができる。
14回目	
15回目	13-14回目で学んだことを改めて振り返り、レポートにして情報を共有しあうことができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・発表 60% ・レポート 40%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	必修 選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ブライダルフォトⅢ					
開講科目英名	bridal photoⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

1989年設立。冠婚葬祭業を基幹とし、さらなるユーザーサービスと業界活性のためにお客様にあったサービスの提供を目指す。婚礼・写真・美容・温泉・古民家事業など5つの事業を展開。

【授業の学習内容】

ブライダルフォト(婚礼写真)の知識、撮影基礎技術を学び、基本的な撮影テクニックを身に着ける

【到達目標】

一眼レフカメラの操作を習得し、目的やイメージにあわせた撮影ができるようになる。
ブライダルフォトの現場で生かせる知識やスキルを身に着ける。

回数	授業計画・内容
1回目	授業の流れ、到達目標、ブライダルフォト(婚礼写真)の概要を理解できるようになる
2回目	ブライダルフォトの種類と知識を学び、それぞれの商品知識を理解できるようになる(2年次の復習も含む)
3回目	露出や構図、レンズの特性について理解し、さまざまな環境でも意図した撮影ができるようになる(2年次の復習も含む)
4回目	スタジオで撮影できる写真の種類と照明テクニック学び、イメージに沿った撮影ができるようになる①
5回目	スタジオで撮影できる写真の種類と照明テクニック学び、イメージに沿った撮影ができるようになる②
6回目	記念写真の撮影方法を学び、集合写真や記念写真が撮影できるようになる(並び方を学ぶ)
7回目	記念写真の撮影方法を学び、集合写真や記念写真が撮影できるようになる(お声がけ、適格に指示できるようになる)
8回目	記念写真の撮影方法を学び、基本的な和装の振付けや撮影ができるようになる(立ち方、袖の直し方を学ぶ)
9回目	記念写真の撮影方法を学び、基本的な和装の振付けや撮影ができるようになる(お声がけ、適格に指示できるようになる)
10回目	基本的なデータの編集、加工テクニックを学び、色補正や画像修正ができるようになる。
11回目	基本的なデータの編集、加工テクニックを学び、色補正や画像修正ができるようになる(課題提出)
12回目	提出した課題の発表を行い、こだわりポイントを説明できるようになる。
13回目	挙式の種類に応じた、撮影スタイルやポジショニング、撮影シーンなど、それぞれの宗教挙式を理解し、それに伴う撮影ルールを習得できるようになる①
14回目	挙式の種類に応じた、撮影スタイルやポジショニング、撮影シーンなど、それぞれの宗教挙式を理解し、それに伴う撮影ルールを習得できるようになる②
15回目	振り返り ブライダルフォトを撮影するにあたり注意点を学ぶ。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度・取り組み姿勢 60% ・課題提出 20% ・発表 10%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	必修 選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ブライダルフォトⅣ					
開講科目英名	bridal photoⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

1989年設立。冠婚葬祭業を基幹とし、さらなるユーザーサービスと業界活性のためにお客様にあったサービスの提供を目指す。婚礼・写真・美容・温泉・古民家事業など5つの事業を展開。

【授業の学習内容】

ブライダルフォト(婚礼写真)の知識、撮影基礎技術を学び、基本的な撮影テクニックを身に着ける

【到達目標】

一眼レフカメラの操作を習得し、目的やイメージにあわせた撮影ができるようになる。
ブライダルフォトの現場で生かせる知識やスキルを身に着ける。

回数	授業計画・内容
1回目	授業の流れ、到達目標 前期授業の振り返りを行う。
2回目	声掛け、指示の出し方を学ぶ(触れずに人を動かす練習)
3回目	企画した人前式にてスナップ撮影を実施し、基本的な挙式スナップ撮影ができるようになる(撮影ポイントをシミュレーションする)
4回目	企画した人前式にてスナップ撮影を実施し、基本的な挙式スナップ撮影ができるようになる(カメラマンとしての動き方を学ぶ)
5回目	企画した人前式にてスナップ撮影を実施し、基本的な挙式スナップ撮影ができるようになる実践)
6回目	撮影したスナップデータを使用し、データの編集、加工テクニックを実践し、フォトデータの編集ができるようになる
7回目	撮影したスナップデータを使用し、データの編集、加工テクニックを実践し、フォトデータの編集ができるようになる(課題提出)
8回目	撮影したスナップデータを使用し、データの編集、加工テクニックを実践し、フォトデータの編集ができるようになる(発表)
9回目	課題1 プランニング テーマを設定し、モデル、ロケーションの検討、撮影準備をする
10回目	課題1 撮影・合評
11回目	課題1 撮影・合評
12回目	課題2 プランニング テーマを設定し、モデル、ロケーションの検討、撮影準備をする。
13回目	課題2 撮影・合評
14回目	課題2 撮影・合評
15回目	課題1・2 フィードバック 振り返りを行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度・取り組み姿勢 60% ・課題提出 20% ・発表 10%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ブライダルヘアメイクⅢ					
開講科目英名	Bridal bridal Hair Make Ⅲ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				4	

【担当教員、実務者経験】

ブライダルヘアメイクアーティストとして長年活動、講師業も行いながら現在に至る。
ブライダル現場でのノウハウを伝える授業の他、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA shu-uemura認定講師も兼任し、メイクアップ技術の養成に携わっている

【授業の学習内容】

ヘアアレンジのバリエーションを増やし、各自の知識習得に繋げる。

【到達目標】

指定されたヘアアレンジが作れるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	2年次の授業の振り返りを行う。スタイルブックを使用して、2年次の完成度を確認。
3-4回目	短時間で指定の技術が行えるかどうかを確認することができる。
5-6回目	ウィッグ(付毛)を使用して、ショートヘアからロングヘアへのアレンジを施すことができる①
7-8回目	ウィッグ(付毛)を使用して、ショートヘアからロングヘアへのアレンジを施すことができる②
9-10回目	アップスタイルからダウンスタイルへヘアチェンジを行えるようになる①
11-12回目	アップスタイルからダウンスタイルへヘアチェンジを行えるようになる②
13-14回目	ダウンスタイルからアップスタイルへヘアアレンジを行えるようになる①
15-16回目	ダウンスタイルからアップスタイルへヘアアレンジを行えるようになる②
17-18回目	スタイルブックに載っていないヘアアレンジをリサーチし、新たに添付。ヘアアレンジを作り上げることができる①
19-20回目	スタイルブックに載っていないヘアアレンジをリサーチし、新たに添付。ヘアアレンジを作り上げることができる②
21-22回目	スタイルブックに載っていないヘアアレンジをリサーチし、新たに添付。ヘアアレンジを作り上げることができる③
23-24回目	スタイルブックに載っていないヘアアレンジをリサーチし、新たに添付。ヘアアレンジを作り上げることができる④
25-26回目	髪型を大きく見せられるような技術を実践して身につける①
27-28回目	髪型を大きく見せられるような技術を実践して身につける②
29-30回目	総まとめ実践 課題提示をし、作成する。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実施課題に対する完成度 50% ・取り組み姿勢 50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	ブライダルヘアメイク IV						
開講科目英名	Bridal bridal Hair Make IV	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

ブライダルヘアメイクアーティストとして長年活動、講師業も行いながら現在に至る。
ブライダル現場でのノウハウを伝える授業の他、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA shu-uemura認定講師も兼任し、メイクアップ技術の養成に携わっている

【授業の学習内容】

ヘアアレンジのバリエーションを増やし、各自の知識習得に繋げる。
自分目線ではなく、お客様の希望にそったアレンジができるようになる。

【到達目標】

指定されたヘアアレンジが作れるようになる。
ヒアリングからヘアの提案ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	前期の授業の振り返り
3-4回目	提示されたヘアスタイルを各自で分析し、各自で作れるようになる①
5-6回目	提示されたヘアスタイルを各自で分析し、各自で作れるようになる②
7-8回目	提示されたヘアスタイルを各自で分析し、各自で作れるようになる(時間指定有)③
9-10回目	提示されたヘアスタイルを各自で分析し、各自で作れるようになる(時間指定有)④
11-12回目	提示されたヘアスタイルを各自で分析し、各自で作れるようになる(時間指定有)⑤
13-14回目	お客様の行ってみたいヘアアレンジをヒアリングし、提案を行って実践する。要望にかなっているかを評価する①
15-16回目	お客様の行ってみたいヘアアレンジをヒアリングし、提案を行って実践する。要望にかなっているかを評価する②
17-18回目	お客様の行ってみたいヘアアレンジをヒアリングし、提案を行って実践する。要望にかなっているかを評価する③
19-20回目	お客様の行ってみたいヘアアレンジをヒアリングし、提案を行って実践する。要望にかなっているかを評価する④
21-22回目	13~20回目の授業から、自分の苦手なポイントを見つけ出し、アドバイスをもらう
23-24回目	お客様の行ってみたいヘアアレンジをヒアリングし、提案を行って実践する。要望にかなっているかを評価する⑤
25-26回目	お客様の行ってみたいヘアアレンジをヒアリングし、提案を行って実践する。要望にかなっているかを評価する⑥
27-28回目	お客様の行ってみたいヘアアレンジをヒアリングし、提案を行って実践する。要望にかなっているかを評価する⑦
29-30回目	総まとめ実践(ヒアリングからうまく情報を汲み取って実践を行う)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点~80点をB、79点~70点をC評価とし、69点~60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA~D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・総まとめ実践 50% ・ヒアリング力 20% ・提案力 30%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	ブライダル実務Ⅱ					
開講科目英名	Bridal practice applicationⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。

【授業の学習内容】

挙式・披露宴という結婚式だけにとらわれず、お客様を呼ぶためのフェアの企画を行う

【到達目標】

ヒアリングや内覧だけでなく、お客様に対してPRできるブライダルフェアの考察と企画やトレンドイベントを含め、企画することができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の流れについて説明を行う
2回目	ブライダルフェアとは何か。行う目的や内容を理解することができる。
3回目	各ホテル、会場のブライダルフェアのチラシやウェブ広告からそれぞれの特徴をリサーチすることができる①
4回目	各ホテル、会場のブライダルフェアのチラシやウェブ広告からそれぞれの特徴をリサーチすることができる②
5回目	主に行われているイベントは何か、どのような人気があるのかをリサーチすることができる①
6回目	主に行われているイベントは何か、どのような人気があるのかをリサーチすることができる②
7回目	イベントからお客様にどのように寄り添おうとしているのかを検討する。(現プランナーからの話を聞いてイメージする)
8回目	会場見学を行い、ブライダルフェアのイメージをすることができる。※見学日は変動の可能性あり。授業時に連絡します
9回目	ブライダルフェアを通して、実施する企業側の思いとお客様の思いを改めて考えることができる。(目的を知る)
10回目	ブライダルフェアの企画をし、資料を作成することができる。(予定会場からイメージをつける)①
11回目	ブライダルフェアの企画をし、資料を作成することができる。(予定会場からイメージをつける)②
12回目	基本的なブライダルフェアの企画から実施するにあたり、スケジュールを立てることができる①
13回目	基本的なブライダルフェアの企画から実施するにあたり、スケジュールを立てることができる②
14回目	企画書とスケジュールを通して現実味のあるブライダルフェアかどうか発表を行い、評価を行う①
15回目	企画書とスケジュールを通して現実味のあるブライダルフェアかどうか発表を行い、評価を行う② ※選考する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度 20% ・企画書 50% ・スケジュール 30%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	プレゼンテーションスキルⅤ						
開講科目英名	Presentation skillⅤ	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当すると同時に若年者への指導、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。

【授業の学習内容】

伝えなければいけないことを明確にでき、自分の言葉にするためには、常に考え伝える練習が必要である。プレゼンテーションの練習だけではなく、ディスカッションを通して、自分の言葉で語れるようにする。

【到達目標】

社会で必要とされるプレゼンテーションスキルを身に着け、聴き手を確実に行動に導くことが出来るプレゼンテーションができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業内容、評価等の説明、 マインド設定など最終目標に向けてモチベーションを高める。 惹きつけるようなプレゼンとは何かを考える。
2回目	様々なプレゼン(映像)をみて、印象深いプレゼンとはどのようなものかをリサーチすることができる①
3回目	様々なプレゼン(映像)をみて、印象深いプレゼンとはどのようなものかをリサーチすることができる②
4回目	リサーチした内容に関して分析し、惹きつけられるプレゼンの特徴を考えることができる。
5回目	2年次に作成したプレゼン資料を見直して、改めて”惹きつけるプレゼン”にするためにはどうしたらよいかを考察することができる。
6回目	2年次に作成したプレゼン資料を見直して、改めて”惹きつけるプレゼン”にするためにはどうしたらよいかを考察することができる。
7回目	2年次に作成したプレゼン資料を作り直し(構成の立て直し)①
8回目	2年次に作成したプレゼン資料を作り直し(構成の立て直し)②
9回目	各自動画を作成する。(思い描いているプレゼンを行う)
10回目	次年度のプレゼンを見比べて、どのようなポイントが改善されているか見比べることができる。
11回目	理想のプレゼン映像と自分のプレゼン映像を見比べて、足りないポイントを検証することができる。
12回目	プレゼン練習を行い、理想のプレゼンに近づけるようにする。
13回目	プレゼン発表①
14回目	プレゼン発表②
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業取り組み姿勢・・・30% ・プレゼン発表・・・70%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	プレゼンテーションスキルⅣ						
開講科目英名	Presentation skillⅣ	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書業務に就く。その後、企業研修講師、講師育成講師を行いながら、専門学校では就職指導の講師を担当する。産業カウンセラー協会では研修の企画、広報を担当すると同時に若年者への指導、女性活用を推進させるプロジェクトにも参加、活動を行っている。

【授業の学習内容】

伝わるコミュニケーションの基礎を理解して身につけ、プレゼンテーションの基本から応用までを、復習しながら確実に習得していく。様々なワークを通して、責任感、協調性、マナー、個人ワークを通じて主体性、パソコンスキルなど社会人として必要となる基礎力も同時に習得する。情報共有のツールとして、Teamsを積極的に活用していく。

【到達目標】

人に聞いてもらえる、人に共感してもらえる、人に行動してもらえるプレゼンテーションができるようになることを目指す。より聞き手に伝わるプレゼンの構成を作ることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業内容、評価等の説明、 マインド設定など最終目標に向けてモチベーションを高める。 わかりやすいプレゼントは何かを追究することができる。
2回目	聞き手がわかりやすく納得するプレゼンとはなにかを考えることができる。
3回目	聞き手がわかりにくく、戸惑うプレゼンとは何かを考えることができる。
4回目	前期に作成したPPTを見直し、わかりやすい資料とわかりにくい資料のポイントを考えることができる。
5回目	スクリーンを通してPPT資料を確認し、気を付けるポイントを検証することができる。
6回目	スライドレイアウトの基本原則が守られているかどうかを確認する。
7回目	オブジェクトが綺麗にそろっているかを確認する(ズレていた際の見え方にも気を付ける)
8回目	結論が明確に伝わっているかを検証することができる。
9回目	具体的に話せているかどうかを検証することができる。
10回目	ボディランゲージを加えて話せているかどうかを検証することができる。
11回目	最終練習①(動画撮影を撮影し、確認をすることの繰り返し)
12回目	最終練習②(動画撮影を撮影し、確認をすることの繰り返し)
13回目	発表と評価① レベルアップの検証を行う
14回目	発表と評価② レベルアップの検証を行う
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業取り組み姿勢・・・30% ・最終プレゼン発表・・・70%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	マナー・プロトコール I	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分
開講科目英名	Manners and Protocol I					
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定 I 種講師としても活動する。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

回数	授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。授業の目的、進め方を理解できる。マナー・プロトコール検定3級の検定概要が理解できるようになるマナーとは何か、慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義が説明できるようになる	16回目 ビジネスシーンのマナー：来客応対のマナー、ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる ●確認テスト④：四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる
2回目	マナーの歴史と意味①：日本の礼儀作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ちについて説明できるようになる	17回目 食事のマナー①：テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい着せ方について説明できるようになる
3回目	マナーの歴史と意味②：アジアのマナーについて説明できるようになる ●確認テスト①：序章・一章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 国際人としてのプロトコール①：プロトコールの原則、具体的な席次例が説明できるようになる	18回目 食事のマナー②：食事中のタプ、和室の作法、西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方について説明できるようになる
4回目	国際人としてのプロトコール②：社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナー、挨拶・握手と紹介のマナーについて説明できるようになる	19回目 食事のマナー③：中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる ●確認テスト⑤：五章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる 「冠」のしきたり①：冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼について説明できるようになる
5回目	国際人としてのプロトコール③：外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる	20回目 「冠」のしきたり②：出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる ●確認テスト⑥：七章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる
6回目	●確認テスト②：二章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①：第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換について説明できるようになる	21回目 「婚」のしきたり：結婚の慶儀、結納のマナー、挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー、ふくさの使い方について説明できるようになる
7回目	社会人に必要なマナー②：敬語の注意点、敬語のつけ方、クッション言葉、聞き方の基本、話し方の基本について説明できるようになる 言葉遣いワークで正しい言葉遣いを徹底的に習得することにより、就職活動や社会人生活で適切な言葉が活用できるようになる	22回目 ●確認テスト⑦：八章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる 「葬」のしきたり：仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀、葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて説明できるようになる
8回目	社会人に必要なマナー③：和装・洋装のマナーについて説明できるようになる	23回目 ●確認テスト⑧：九章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる 「祭」のしきたり①：1月～4月の行事について説明できるようになる
9回目	社会人に必要なマナー④：喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方について説明できるようになる 祝儀袋・不祝儀袋ワークで表書きを練習することにより、正しく表書きできるようになる	24回目 「祭」のしきたり②：5～12月の行事の行事について説明できるようになる ●確認テスト⑨：十章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる すべての章における質疑応答をすることで疑問点が解消できるようになる
10回目	社会人に必要なマナー⑤：手紙のマナーについて説明できるようになる 手紙作成ワークで書き方を練習することにより、正しく手紙が書けるようになる	25回目 ★確認①～9回目の授業を振り返り理解度を確認する
11回目	●確認③：三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ビジネスシーンのマナー①：ビジネスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方について説明できるようになる	26回目 振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができるようになる
12回目	★確認①～11回目の授業を振り返りを行う。自身の強み・弱みを認識する	27回目 ●模擬試験①：授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる 模擬試験①の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができるようになる
13回目	前回の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる	28回目 ●模擬試験②：授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる 模擬試験②の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができるようになる
14回目	ビジネスシーンのマナー②：電話応対のマナー、トラブル対応、来客応対のマナーについて説明できるようになる 電話応対・来客応対ワークで対応練習することにより、好印象な接客応対ができるようになる	29回目 ●模擬試験③：授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる 模擬試験③の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができるようになる
15回目	ビジネスシーンのマナー③：ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる ●確認テスト④：四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる	30回目 ●模擬試験④：授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確にできるようになる 模擬試験④の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率を満たし、かつA～D評価の場合、単位認可される	
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 90% ・授業態度 10%	
受講生へのメッセージ		

【使用教科書・教材・参考書】

マナー&プロトコールの基礎知識、講師配布資料

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	マネジメント基礎 I						
開講科目英名	Management Basic I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2		
【担当教員 実務者経験】							
<p>大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>チームをまとめあげられるマネジメント力を身に付け、その準備を行う。</p>							
【到達目標】							
<p>1年生のセレモニーウェディング実践をマネジメントできるよう、計画をたて、実践できる準備を行う。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス 授業の流れを把握する。 1年生のセレモニーウェディング実践の授業内容・ゴールを定める。
2回目	自分たちが行ったセレモニーウェディングの授業を振り返り、行ってきたことをリストに上げていく。
3回目	セレモニーウェディング実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる①大項目設定
4回目	セレモニーウェディング実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる②中項目設定
5回目	セレモニーウェディング実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる③コマシラバスを考える。
6回目	セレモニーウェディング実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる④ コマシラバスからシチュエーションを考え、無理なく指導ができるかを考える。
7回目	ドレスの着せ付けが正しく指導できるかどうかを確認する。
8回目	新郎の衣装の着せ付けが正しくできるかどうかを確認する。
9回目	挙式についての流れを再度確認し、指導方法を検討する①
10回目	挙式についての流れを再度確認し、指導方法を検討する②
11回目	1年生の特徴やチーム分けの方法を考え、どのように授業を進めていくかを検討する①
12回目	1年生の特徴やチーム分けの方法を考え、どのように授業を進めていくかを検討する②
13回目	今まで立てたスケジュールと指導計画で、実際に行えるかどうかを検証する①
14回目	今まで立てたスケジュールと指導計画で、実際に行えるかどうかを検証する②
15回目	今まで立てたスケジュールと指導計画で、実際に行えるかどうかを検証する③
評価基準	<p>A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される</p>
評価方法	<p>本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・授業の取り組み 100%</p>
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダルの基礎知識 ・適宜プリントを配布します。</p>	

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	マネジメント基礎Ⅱ						
開講科目英名	Management BasicⅡ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。

【授業の学習内容】

チームをまとめあげられるマネジメント力を身に付け、その準備を行った上で、様々なパターンを想定する

【到達目標】

1年生のウェディングパーティー実践をマネジメントできるよう、計画をたて、実践できる準備を行い、対応パターンを増やせるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	ガイダンス 授業の流れを把握する。 1年生のウェディングパーティー実践の授業内容・ゴールを定める。
2回目	自分たちが行ったウェディングパーティー実践の授業を振り返り、行ってきたことをリストに上げていく。
3回目	ウェディングパーティー実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる①大項目設定
4回目	ウェディングパーティー実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる②中項目設定
5回目	ウェディングパーティー実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる③コマシラバスを考える。
6回目	ウェディングパーティー実践のゴールを定めた上で、ゴールまでどのように運ぶかを考えて計画を立てることができる④ コマシラバスからシチュエーションを考え、無理なく指導ができるかを考える。
7回目	お色直しドレスの着せ付けが正しく指導できるかどうかを確認する。
8回目	お色直しの新郎の衣装の着せ付けが正しくできるかどうかを確認する。
9回目	披露宴についての流れを再度確認し、指導方法を検討する①
10回目	披露宴についての流れを再度確認し、指導方法を検討する②
11回目	1年生の特徴やチーム分けの方法を考え、どのように授業を進めていくかを検討する①
12回目	1年生の特徴やチーム分けの方法を考え、どのように授業を進めていくかを検討する②
13回目	今まで立てたスケジュールと指導計画で、実際に行えるかどうかを検証する①
14回目	今まで立てたスケジュールと指導計画で、実際に行えるかどうかを検証する②
15回目	今まで立てたスケジュールと指導計画で、実際に行えるかどうかを検証する③
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう ・授業の取り組み 100%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダルの基礎知識 ・適宜プリントを配布します。	

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	マネジメント実践 I					
開講科目英名	management practice I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				4	

【担当教員 実務者経験】

フローリストナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

1年生のセレモニーウェディング実践の指導・サポートを行い、マネジメントを学ぶ。

【到達目標】

1年生の実践をマネジメントし、“どのように行えば実践成功に導けるか、指導ができるか”を試行錯誤しながらまとめあげることができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	ガイダンス 1年生に授業の流れを説明することができるようになる。
3-4回目	挙式とはどのような儀式なのかを1年生が理解できるようサポートすることができるようになる。
5-6回目	挙式の種類を説明することができるようになる。①(グループに分かれて、担当の挙式の種類を説明)
7-8回目	挙式の種類を説明することができるようになる。②(前回の授業で1年生ができていないか確認する)
9-10回目	それぞれの儀式について1年生に説明する①(ゲスト・新郎新婦の立ち位置を実践して理解できるようにサポートする)
11-12回目	それぞれの儀式について理解することができる②(新郎新婦の入場～指輪交換の実践して理解できるようにサポートする)
13-14回目	それぞれの儀式について理解することができる③(指輪交換～退場の実践して理解できるようにサポートする)
15-16回目	それぞれの儀式について理解することができる④(総まとめ 新郎新婦入場～退場)一連の流れを実施し、理解度を確認する
17-18回目	挙式の演出について現状を調査し、近年の挙式事情や人気を調査する。※グループに分かれて授業をサポートする
19-20回目	ドレス・メンズのお衣装の着せ付け プランナーとして新婦様・新郎様のアテンドに必要な知識は配慮を1年生に指導し、理解させることができるようになる
21-22回目	模擬挙式に向けてプランニングを行うサポートを行う ※チームに分かれて授業をすすめる
23-24回目	模擬挙式に向けて実践練習を行うサポートを行う① ※チームに分かれて授業をすすめる
25-26回目	模擬挙式に向けて実践練習を行うサポートを行う② ※チームに分かれて授業をすすめる
27-28回目	模擬挙式を行い、1年生の挙式の流れや意味に対する理解度を確認することができる。
29-30回目	授業の振り返りを行い、マネジメントがうまくできていたか、改善点・反省点を出し合う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう ・授業の取り組み 100%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダルの基礎知識 ・適宜プリントを配布します。

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	マネジメント実践Ⅱ	選択					
開講科目英名	management practiceⅡ	授業形態	講義演習	時間数	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			(単位)	4		

【担当教員 実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

2年生のウェディングパーティー実践の指導・サポートを行い、マネジメントを学ぶ。

【到達目標】

2年生の実践をマネジメントし、“どのように行えば実践成功に導けるか、指導ができるか”を試行錯誤しながらまとめあげることができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	オリエンテーション(自身を分かりやすく伝える)
3-4回目	施行までのお打ち合わせの流れと、披露宴の流れを伝え、理解できるように工夫して指導することができる
5-6回目	進行表の作り方を知り、進行に合わせた演出物、その他アイテムの種類を指導・レクチャーする
7-8回目	御見積の内訳と利益構造を理解できるように指導することができる
9-10回目	チームごとにセッションを行い、相手チームのヒアリングを行う練習し、サポートすることができる
11-12回目	発注物の種類を知り、指示書を理解できるよう指示することができる イメージシート、御見積、進行表を作成できるようにサポートすることができる
13-14回目	中間セッションを行い、相手チームに提案させあうよう授業の流れを考えてサポートすることができる。
15-16回目	装花についての打ち訳と、平均的な金額を始動する(披露宴の平均的な価格を把握することができる) 装花イメージシートを作成する 最終御見積、進行表を作成できるようサポートする 指示書を完成させられるようサポートする
17-18回目	披露宴の流れを各チームで確認し、進行表の見直しを行えるようサポートすることができる①
19-20回目	披露宴の流れを各チームで確認し、進行表の見直しを行えるようサポートすることができる②
21-22回目	披露宴の流れを各チームで確認し、進行表の見直しを行えるようサポートすることができる③(発表前のリハーサルを行う)
23-24回目	模擬披露宴の発表のサポートを行う①
25-26回目	模擬披露宴の発表のサポートを行う②
27-28回目	模擬披露宴の映像で振り返りを行えるようサポートをする①
29-30回目	模擬披露宴の映像で振り返りを行えるようサポートをする②
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満し、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・チームワーク力・行動 50% ・指導工夫力 50%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	プランナー総合スキル	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	リーダーシップ論 I					
開講科目英名	Leadership theory I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	プライダルマネジメント科				2	

【担当教員、実務者経験】

株式会社Let's supprt 代表取締役 企業支援事業として、人事コンサルティング、人事代行、組織開発、新規事業サポート、キャリアコンサルティング、集客支援、営業支援など“企業が必要とする人財像”や“人が集まる企業の共通点”のノウハウを活かし、企業再生事業を展開中。

【授業の学習内容】

仕事に就き、即戦力となれるよう「リーダーシップ」の取れる人材を目指すため、「リーダーシップ」の取り方を学ぶ。

【到達目標】

リーダーシップとは何かを理解し、苦手な部分を発見し、意識して行えるよう力をつけることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の流れを知ることができる。
2回目	リーダーシップとは？リーダーとリーダーシップの違いを知ることができる。
3回目	リーダーシップの3つの要素を理解することができる。
4回目	リーダーシップの3つの要素から、自分が今後強化しなければならないことは何かを理解することができる。
5回目	チームで求められるリーダーシップの力を具体的に考える。(事例①)
6回目	チームで求められるリーダーシップの力を具体的に考える。(事例②)
7回目	課題①自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察をする。
8回目	課題①自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察したものを検証することができ、他からアドバイスをもらう。
9回目	課題②自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察をする。
10回目	課題②自分がリーダーシップをとるならどのように行動するか考察したものを検証することができ、他からアドバイスをもらう。
11回目	チームでのリスクマネジメントを考える。事例①
12回目	チームでのリスクマネジメントを考える。事例②
13回目	リーダーシップを身に着けることができる。実践チャレンジ①
14回目	リーダーシップを身に着けることができる。実践チャレンジ②
15回目	振り返り 改めてリーダーシップとは何か。各自リーダーシップをとれるよう目標を立てる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される。□
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度 40% ・提出課題 60%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	映像制作Ⅱ						
開講科目英名	Video ProductionⅡ	授業形態	講義演習	時間数	60	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科			(単位)	4		

【担当教員・実務者経験】

フリーランスとして約10年、そして約5年キャンプがグロウンを口口立ち上げ現在はマリンスポーツ施設のマネージメントを行いつつ、PV撮影やライブ配信といった映像制作も携わっています。

【授業の学習内容】

カメラ・PCまたはスマートフォンを用いて映像制作の基本を習得します。

【到達目標】

制作した映像の依頼者や見る人の気持ち考えられるような視点を身につけることも目標とします。

回数	授業計画・内容		
1回目	オリエンテーション 前期の授業の流れを理解することができる。	16回目	オリエンテーション 前期の授業の流れを理解することができる。
2回目	結婚式における感動ポイントを見つけることができる①	17回目	前期で作成した映像のフィードバックから、作品を手直してさらにレベル高い作品を作り上げることができる①
3回目	結婚式における感動ポイントを見つけることができる② ※音なしで映像をみて感動ポイントを発見する	18回目	前期で作成した映像のフィードバックから、作品を手直してさらにレベル高い作品を作り上げることができる②
4回目	結婚式における感動ポイントを見つけることができる③ ※意見交換し、人の感動ポイントやテーマによって見方が変わることを理解する	19回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる① テーマ発表。
5回目	結婚式における感動ポイントを見つけることができる④ ※音響によって感動ポイントが変わることを理解する。	20回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる②
6回目	結婚式における感動ポイントを見つけることができる⑤ ※メッセージを入れることで、映像の見方が変わることを理解する。	21回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる③
7回目	結婚式における感動ポイントを見つけることができる⑥ ※映像の長さで、見ている人の気持ちが変わることを理解する。	22回目	授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる④
8回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる①。テーマ発表。	23回目	4～7回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった“感動ポイント”がわかる映像を作成する①
9回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる②	24回目	4～7回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった“感動ポイント”がわかる映像を作成する②
10回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる③	25回目	披露宴の映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる① ※課題1
11回目	2～7回目の授業を踏まえて、“感動を与える映像”を撮影することができる④	26回目	披露宴の映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる② ※課題1
12回目	8～11回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった“感動ポイント”がわかる映像を作成する①	27回目	披露宴の映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる① ※課題2
13回目	8～11回目の授業での映像を編集し、相手に作り手のこだわった“感動ポイント”がわかる映像を作成する②	28回目	披露宴の映像を見て、“感動ポイント”を見つけ出し、時間内に映像を作成することができる① ※課題2
14回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる①	29回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる①
15回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる②	30回目	映像発表 : 作り手の映像を見て、アドバイス・評価をしあって、さらにレベルの高い映像作成を目指すことができる②

評価基準

A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。
 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。
 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される

評価方法

本授業における評価は以下の割合にておこなう。
 ・授業態度評価 30%
 ・技術評価 70%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	花嫁着付け I					
開講科目英名	Japanese Wedding Kimono Kitsuke I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				4	
【担当教員・実務者経験】						
ワタベウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。						
【授業の学習内容】						
日本の花嫁・花婿の衣装について理解を深め、着付けることができるようにする。						
【到達目標】						
花嫁衣裳・花婿衣装の歴史や小物の意味などを理解し、着付けることができるようになる。						

回数	授業計画・内容
1-2回目	オリエンテーション (講義) 婚礼の歴史について理解できるようになる
3-4回目	(講義) 婚礼の歴史について理解できるようになる
5-6回目	(講義) 花嫁・花婿衣装について理解できるようになる
7-8回目	(講義) 花嫁・花婿衣装に身につける小物について理解することができる。
9-10回目	(実習) 掛下までを理解できるようになる①
11-12回目	(実習) 掛下までを理解できるようになる②
13-14回目	(実習) 掛下帯まで理解できるようになる①
15-16回目	(実習) 掛下帯まで理解できるようになる②
17-18回目	(実習) 打掛→小物まで身につける。座り方や裾の持ち方、アテンドの仕方を学ぶことができる。
19-20回目	(実習) 打掛まで時間までにすべて着付ける練習を行う。
21-22回目	(確認) 打掛まで時間までにすべて着付けることができる。
23-24回目	(実習) 新郎の袴を着つけられるようになる①
25-26回目	(実習) 新郎の袴を着つけられるようになる②
27-28回目	(実習) 新郎の袴を着つけられるようになる③
29-30回目	(実習) 袴をきた新郎のアテンドの仕方を学ぶことができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度・・・40% ・実施ポイントチェック・・・30% ・知識確認・・・30%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	花嫁着付けⅡ					
開講科目英名	Japanese Wedding Kimono Kitsuke Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				4	

【担当教員、実務者経験】

ワタベウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。

【授業の学習内容】

日本の花嫁・花婿の衣装について理解を深め、着付けることができるようにする。

【到達目標】

花嫁衣裳・花婿衣装の歴史や小物の意味などを理解し、着付けることができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	前期の振り返り 後期の授業について流れを理解する。
3-4回目	(実習)花嫁の着付けた正しく着つけられているか、時間通りに着つけられるか、アテンドできるかどうかを確認する①
5-6回目	(実習)花嫁の着付けた正しく着つけられているか、時間通りに着つけられるか、アテンドできるかどうかを確認する②
7-8回目	(実習)花婿の着付けた正しく着つけられているか、時間通りに着つけられるか、アテンドできるかどうかを確認する①
9-10回目	(実習)花婿の着付けた正しく着つけられているか、時間通りに着つけられるか、アテンドできるかどうかを確認する②
11-12回目	(実習)花嫁の鬢、角隠しを実際に着けてバランスを確認することができる。
13-14回目	(実習)引き振袖を着つけることができるようになる①
15-16回目	(実習)引き振袖を着つけることができるようになる②
17-18回目	(確認)引き振袖を着つけ、アテンドができるようになる。
19-20回目	(確認)引き振袖を着つけることができるようになる(時間内に行う)
21-22回目	(講義)打掛の色の意味について学ぶことができる。
23-24回目	(講義)打掛の柄について意味を学ぶことができるようになる。
25-26回目	(講義)紋について意味や種類を調べて理解する。また式の際に紋付の衣装について理解することができるようになる。
27-28回目	総まとめ実習 (ランダムに課題を与え、片付けまで時間に終えるようにする)
29-30回目	振り返り (和装を身に着ける方の心情や思いを考えて着つけられるよう振り返りを行う)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業態度・・・30% ・実施ポイントチェック・・・40% ・知識確認・・・30%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

授業科目名	プランニングスタディ	必修	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	海外ウェディング I	選択					
開講科目英名	Overseas wedding I	授業形態	講義演習	時間数	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			(単位)	2		

【担当教員 実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

『海外ウェディング』の基礎知識を習得する。申し込みから挙式当日までの流れなど、基礎知識を学ぶとともに、国内ウェディングとの違いや海外挙式のメリットデメリットなどを、全員参加でディスカッションし、ロールプレイングを通して理解を深める。

【到達目標】

海外と日本のウェディングの違いを理解することができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の流れを理解することができる。
2回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～①【ハワイ】
3回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～①【ハワイ】 ※なぜ日本人はハワイウェディングを好むのか
4回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～②【グアム】
5回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～②【グアム】 ※ハワイウェディングとの違いを発見する
6回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～③【オセアニア】
7回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～④【ヨーロッパ】
8回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～⑤【アジア】
9回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～⑥【アメリカ】
10回目	課題① 2～9回目以外の国のウェディングについてリサーチする①
11回目	課題① 2～9回目以外の国のウェディングについてリサーチする①
12回目	課題① 2～9回目以外の国のウェディングについてリサーチする① ※発表
13回目	各国のウェディングの伝統・マナー・歴史について触れることができる①
14回目	各国のウェディングの伝統・マナー・歴史について触れることができる②
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・課題提出 60% ・授業態度 40% (発言、グループワーク、プレゼンテーション等参加度)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	海外ウェディング I						
開講科目英名	Overseas wedding I	授業形態	講義演習	時間数	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			(単位)	2		

【担当教員 実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

『海外ウェディング』の基礎知識を習得する。申し込みから挙式当日までの流れなど、基礎知識を学ぶとともに、国内ウェディングとの違いや海外挙式のメリットデメリットなどを、全員参加でディスカッションし、ロールプレイングを通して理解を深める。

【到達目標】

海外と日本のウェディングの違いを理解することができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 授業の流れを理解することができる。
2回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～①【ハワイ】
3回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～①【ハワイ】 ※なぜ日本人はハワイウェディングを好むのか
4回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～②【グアム】
5回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～②【グアム】 ※ハワイウェディングとの違いを発見する
6回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～③【オセアニア】
7回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～④【ヨーロッパ】
8回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～⑤【アジア】
9回目	海外のウェディングについて理解する～地域性・特徴・衣装など～⑥【アメリカ】
10回目	課題① 2～9回目以外の国のウェディングについてリサーチする①
11回目	課題① 2～9回目以外の国のウェディングについてリサーチする①
12回目	課題① 2～9回目以外の国のウェディングについてリサーチする① ※発表
13回目	各国のウェディングの伝統・マナー・歴史について触れることができる①
14回目	各国のウェディングの伝統・マナー・歴史について触れることができる②
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・課題提出 60% ・授業態度 40% (発言、グループワーク、プレゼンテーション等参加度)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	海外ウェディングⅡ	選択					
開講科目英名	Overseas weddingⅡ	授業形態	講義演習	時間数	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			(単位)	2		

【担当教員 実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

『海外ウェディング』の基礎知識を習得する。申し込みから挙式当日までの流れなど、基礎知識を学ぶとともに、国内ウェディングとの違いや海外挙式のメリットデメリットなどを、全員参加でディスカッションし、ロールプレイングを通して理解を深める。

【到達目標】

海外ウェディングの流れやオプション・エリア情報などを理解できるように基礎知識を習得し、お客様に説明できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション／海外ウェディングイメージDVD鑑賞／海外ウェディングQ&Aを行い海外挙式の全体像を把握できるようになる。
2回目	ブライダルの動向／海外ウェディングの位置付け／今後求められるウェディングを考え、ディスカッションができるようになる。
3回目	海外ウェディングの基礎知識と流れ／海外ウェディングのイメージディスカッションすることにより、知識を深めることができるようになる。
4回目	海外ウェディングと国内挙式との違い／各々メリットデメリットをディスカッションすることにより、知識を深めることができるようになる。
5回目	オプションについて／挙式パンフレット内容の理解／小テストに挑戦することにより、理解度を確認できるようになる。
6回目	衣装プラン(新郎新婦)の特徴／各種メリットデメリット、ディスカッションし、理解度を深め、他者の考えに気づくことができるようになる。
7回目	ウェディングドレスの基礎知識(ドレスとブーケの相性とコーディネート実践)／ドレスに合ったブーケを選ぶことができるようになる。
8回目	ウェディングドレス接客実践 (衣装提案とコーディネート)／実際のタレントさんを例に、その人に合ったドレスを選ぶことができる。
9回目	エリア情報①／ハワイ・グアム・ヨーロッパ・オセアニア・他／重要なエリア情報を理解できるようになる。
10回目	エリア情報②／主な挙式会場とお進め理由、ディスカッション／小テストを行うことにより、理解度を深めることができるようになる。
11回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション① (グループ決め・エリア決め)／その人に合ったエリアの紹介ができるようになる。
12回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション② (担当別 情報収集)／グループで協力しながら商品づくりの企画ができるようになる。
13回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション③ (企画纏め リハーサル)／グループ作業を完成させることができるようになる。
14回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション④ 発表 / 商品企画をプレゼンテーションできるようになる。
15回目	海外ウェディング基礎知識 まとめ / プレゼンテーション評価 / 授業内容の振り返り、後期につなげることができるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末テスト 60%(記述) ・授業態度 40%(発言、グループワーク、プレゼンテーション等参加度)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	企業研究Ⅲ			時間数 (単位)	60	
開講科目英名	Corporate researchⅢ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	4	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					

【担当教員、実務者経験】

スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。

【授業の学習内容】

実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。

【到達目標】

2年間考察してきたマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察・また実施を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【クラスオリエンテーション・予備調査】本クラスで扱う課題と進め方の概略について理解し予備調査を始める。簡単な企業リサーチができるようになる。
3-4回目	【外内部環境リサーチ】課題解決に向けて必要な情報を収集する。多種多様な情報ソースから必要と思われる情報にアクセスできるようになる。
5-6回目	【企業オリエンテーション】企業からのオリエンテーションを受け、話の内容から現状の把握、課題内容の把握を聞き取り整理できるようになる。
7-8回目	【課題設定・解決策検討】マーケティングのフレームワークを駆使し、課題の解決策を検討する。仮説検証力を身につけることができる。
9-10回目	【解決策検討・資料作成】前回に引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
11-12回目	【解決策検討・資料作成】先週に引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
13-14回目	【中間確認リハ】翌週の中間確認に向け最終チェックを行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
15-16回目	【中間報告】ここまで立案してきた内容を企業に伝えフィードバックを行う。伝えるべき内容を相手にわかりやすく伝えることができるようになる。
17-18回目	【リサーチ&解決策検討】不足情報のリサーチと解決策の検討、論理構成の強化を行う。説得力ある論拠を導き出せるようになる。。
19-20回目	【実践】企画した内容について実施を行い、検証をする①
21-22回目	【実践】企画した内容について実施を行い、検証をする②
23-24回目	【実践】企画した内容について実施を行い、検証をする③
25-26回目	【最終プレゼンリハーサル】最終プレゼンに向けリハーサルと発表の改善を行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
27-28回目	【最終プレゼンテーション】ここまで検討してきた課題解決の提案を実施する。ビジネスプレゼンテーションを経験し今後の成長に活かすことができるようになる。
29-30回目	【講師フィードバック】最終プレゼンを受けて講師からの個別フィードバックを行う。現状不足しているスキルを理解することで今後の成長に活かすことができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・担当企業へのプレゼンテーション(60%) (内訳)提案内容の論理構成:50%、プレゼンでの表現力:50% ・2年間のレベルアップ度を比較して評価・・・40%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	企業研究Ⅳ						
開講科目英名	Corporate researchⅣ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。
【授業の学習内容】
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。
【到達目標】
企業研究Ⅲの振り返りを行いながら、自分の苦手な点を「どのように行えばできるようになるか」を考えた上で、マーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察・また実施を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1-2回目	【クラスオリエンテーション・予備調査】 企業研究Ⅲの振り返り。苦手なポイントを「どのように行えばできるようになるか」を考える。本クラスで扱う課題と進め方の概略について理解し予備調査を始める。簡単な企業リサーチができるようになる。
3-4回目	【外内部環境リサーチ】課題解決に向けて必要な情報を収集する。多種多様な情報ソースから必要と思われる情報にアクセスできるようになる。
5-6回目	【企業オリエンテーション】企業からのオリエンテーションを受け、話の内容から現状の把握、課題内容の把握を聞き取り整理できるようになる。
7-8回目	【課題設定・解決策検討】マーケティングのフレームワークを駆使し、課題の解決策を検討する。仮説検証力を身につけることができる。
9-10回目	【解決策検討・資料作成】前回に引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
11-12回目	【解決策検討・資料作成】先週に引き続き解決策の検討を実施し、中間発表に向け解決策を立案する。問題解決力を身につけることができる。
13-14回目	【中間確認リハ】翌週の中間確認に向け最終チェックを行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
15-16回目	【中間報告】ここまで立案してきた内容を企業に伝えフィードバックを行う。伝えるべき内容を相手にわかりやすく伝えることができるようになる。
17-18回目	【リサーチ&解決策検討】不足情報のリサーチと解決策の検討、論理構成の強化を行う。説得力ある論拠を導き出せるようになる。。
19-20回目	【実践】企画した内容について実施を行い、検証をする①
21-22回目	【実践】企画した内容について実施を行い、検証をする②
23-24回目	【実践】企画した内容について実施を行い、検証をする③
25-26回目	【最終プレゼンリハーサル】最終プレゼンに向けリハーサルと発表の改善を行う。主に構成面をチェックし納得感のある構成力を身につけることができる。
27-28回目	【最終プレゼンテーション】ここまで検討してきた課題解決の提案を実施する。ビジネスプレゼンテーションを経験し今後の成長に活かすことができるようになる。
29-30回目	【講師フィードバック】最終プレゼンを受けて講師からの個別フィードバックを行う。現状不足しているスキルを理解することで今後の成長に活かすことができる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・担当企業へのプレゼンテーション(60%) (内訳)提案内容の論理構成:50%、プレゼンでの表現力:50% ・準備、実践行動力(40%)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	総合スタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	社会人即戦力						
開講科目英名	work-ready course	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員、実務者経験】

老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。

【授業の学習内容】

企業が求める社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身につける。昨今、企業には新入社員を育てていける余裕がなく、企業はまさに即戦力を求めている。そのための社会人即戦略講座を行う

【到達目標】

いかなる問題や課題もチャンスと捉えらえるようになるだけでなく、自ら、問題解決できるようになる。また、分かち合い、助け合う、思いやりある人材を育てる。最後に社会人になる前に営業・販売の基礎を身に付け、実践できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)社会人即戦力とは何か?についてグランドルールを理解できるようになる。
2回目	社会人基礎力を身につけるための考え方～安楽の欲求と充実の欲求について学び、充実感ある社会人像とは何か知る
3回目	社会人になるために自立型姿勢を学ぶことで、ピンチをチャンスにする思考を得られる
4回目	「分かち合える人財」について学ぶことで、他喜力が得られる
5回目	映画:「今を生きる」から学ぶ～カーペディエム(今を生きる)、行動力を得られる
6回目	「時流の変化」の5つの変遷を用いて、時流力を得られる
7回目	不可能を可能にする5箇条である「充実体験」ワークを行うことで、不可能を可能にする思考を得られる
8回目	不可能を可能にする5箇条である「可能思考」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
9回目	不可能を可能にする5箇条である「理想の一日」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
10回目	不可能を可能にする5箇条である「one team」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
11回目	「営業の5ステップ」を体系的に学ぶことで、営業力が得られる
12回目	「マーケティング」について学ぶことで、戦略的思考が得られる
13回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を学ぶことで、伝達力が得られる
14回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を活かしたプレゼンテーションを作成できるようになる
15回目	社会人になる前にどんな輝いた社会人になるかを発表し、ロールモデルを明確にする
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・課題提出 50% ・小テスト 50%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
なし	

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	手話 I						
開講科目英名	sign language I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科						

【担当教員 実務者経験】

関西社会福祉専門学校で介護や日常生活にかかわる手話。初任者研修で接客にかかわる手話。藍野大学と大阪市総合医療センターで病院にかかわる手話。大阪市役所で一般的な手話。私立高校で文化祭での手話歌表現の指導。派遣通訳者として病院、学校、講演会、後援会の通訳。など

【授業の学習内容】

コミュニケーションツールとしての手話をやりたい。資格をとるための学習ではなく、聞こえない人、お年寄り、外国人、にも通じる方法を楽しく学ぶ。

【到達目標】

身につけた手話を使って、積極的に話しかけることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 手話って何? →手話とはどういう言語(視覚言語)なのか理解できる。
2回目	実践①表現(絵カードを使う)→CL表現を理解できる。
3回目	演習①DVD鑑賞 『どう思う?』グループワーク→聴覚障がい者を理解する。
4回目	実践②表現(自己紹介)→自分の名前が手話で表せる。
5回目	実践③表現(私の趣味は..)→自分の好きなものは何か手話で表せる。
6回目	実践④表現(私はこんな仕事がしたい)→自分の夢を手話で表せる。
7回目	演習②DVD鑑賞→グループワークで人の意見を聞く。理解する。
8回目	実践⑤表現(家族・色)→いろんな表現を身につける
9回目	実践⑥表現(数字・一週間)→いろんな表現を身につける
10回目	演習③課題レポート→自分の意見を言えるようになる。
11回目	実践⑦豊かな表現(手話歌)→感情表現を身につけることができる。
12回目	実践⑧豊かな表現(手話歌)→自分で考えて作れるようになる。
13回目	復習(しばらく間があいたので復習)→簡単な会話ができるようになる。
14回目	実践⑨簡単な劇→劇の練習をすることによって責任感を身につける
15回目	集大成(発表)→自分で考えた手話表現で練習し、皆でやり切った達成感を共有しよう。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・実技テストの表現力 20% ・レポート: 自分の考えをしっかりとっているかどうか(実技で表現力40% + 自分の考えを書くレポート40%)
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	手話 II						
開講科目英名	sign language II	授業形態	講義演習	時間数	30	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科			(単位)	2		

【担当教員 実務者経験】

関西社会福祉専門学校で介護や日常生活にかかわる手話。初任者研修で接客にかかわる手話。藍野大学と大阪市総合医療センターで病院にかかわる手話。大阪市役所で一般的な手話。私立高校で文化祭での手話歌表現の指導。派遣通訳者として病院、学校、講演会、後援会の通訳。など

【授業の学習内容】

コミュニケーションツールとしての手話をやりたい。資格をとるための学習ではなく、聞こえない人、お年寄り、外国人、にも通じる方法を楽しく学ぶ。

【到達目標】

身につけた手話を使って、積極的に話しかけることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	単語の数を増やす①季節に関する手話（春夏秋冬・・・に関係するもの表現がわかる）
2回目	単語の数を増やす②行事に関する手話（一年間の行事の表し方・それを通してろう者の文化を理解する）
3回目	単語の数を増やす③動物園に行こう！（動物・動物園周辺のもの表現）
4回目	単語の数を増やす④料理教室をしよう！（野菜・果物・調味料などの表現）
5回目	単語の数を増やす⑤都道府県を制覇しよう！（県名手話）
6回目	単語の数を増やす⑥海外旅行をしよう！（国名手話）
7回目	単語の数を増やす⑦町で見かける物（建物・設備・交通）
8回目	学校を案内しよう！①入り口から順番に案内しよう！（視界に入ってくる順に表現）
9回目	学校を案内しよう！②パンフレットにそって（学校教育・理念）
10回目	感情表現ークリスマスに関する手話歌
11回目	学校を案内しよう！③パンフレットにそって（クラスの設備・備品など）
12回目	学校を案内しよう！⑤音声を聞きながら・・・（オープンキャンパス風）
13回目	学校を案内しよう！⑤音声を聞きながら・・・（通訳の練習）
14回目	まとめ 技術テスト
15回目	まとめ 表現テスト
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・表現力評価 40% ・技術評価 40% ・授業態度 40%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	共通科目	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
開講科目名	茶道 I						
開講科目英名	tea ceremony I	授業形態	講義演習	時間数	60	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科			(単位)	4		
【担当教員 実務者経験】							
三日月茶道教室主宰。幼少の頃より茶道を学び大阪と神戸にて茶道教室を開く。現在は教室での指導だけでなく、海外でのワークショップ開催、カルチャーセンターで茶道講師として活動している。また企業へおもてなしの講座を開催している。							
【授業の学習内容】							
茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。							
【到達目標】							
茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け閉め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。							

回数	授業計画・内容		
1回目	オリエンテーション: 茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。	16回目	オリエンテーション: 茶道の意義を知る。薄茶平点前: 風炉 前期の復習
2回目	和室での立ち振る舞い①: お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を学ぶ。	17回目	薄茶平点前: 風炉 お仕舞いまでを学ぶことができる
3回目	和室での立ち振る舞い②: 立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見の方法を学ぶ。	18回目	薄茶平点前: 風炉 お仕舞いまでを学ぶことができる
4回目	和室での立ち振る舞い③: 水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を学ぶ。	19回目	薄茶平点前①: 風炉 柄杓の扱い、座る位置、運び出し等を学習することができる
5回目	割稽古①: 袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い嚢と茶杓を清める。	20回目	薄茶平点前②: 風炉 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習をすることができる
6回目	割稽古②: 茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。	21回目	薄茶平点前③: 風炉 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習をすることができる
7回目	割稽古③: 茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までをとおして学ぶ。	22回目	薄茶平点前④: 風炉 客と亭主に分かれお仕舞いを学ぶことができる
8回目	盆略点前①: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。	23回目	薄茶平点前⑤: 風炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
9回目	盆略点前②: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。	24回目	薄茶平点前⑥: 風炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
10回目	盆略点前③: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまで通して学ぶ	25回目	薄茶平点前⑦: 風炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで通して学習をすることができる
11回目	盆略点前④: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。	26回目	薄茶平点前⑧: 風炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで身につけるようにすることができる
12回目	盆略点前⑤: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。	27回目	薄茶平点前⑨: 風炉 客と亭主に分かれお仕舞いまで身につけるようにすることができる
13回目	確認: 和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。	28回目	前期試験: 薄茶平点前
14回目	確認: 和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。一部、筆記試験を行う。	29回目	前期試験: 薄茶平点前
15回目	振り返り	30回目	亭主と客にわかれ心をこめて茶を点てる。一期一会の時間を大切にす

評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・取り組み姿勢 10% ・試験 90%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員
開講科目名	和装コーディネート I					
開講科目英名	Kimono & Dress coordination I	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2		

【担当教員 実務者経験】

You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・筆笥整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営・日本文化を通して学ぶ大人の教養講座を行っている。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化である着物を使用し、ドレスやテーマに合わせたコーディネートを行うことで、着物を通したトータルコーディネートを表現する。

【到達目標】

ドレスなどを用いて、和装コーディネートの方法を知ることができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明
2回目	ドレスと着物のカラーなどから着付けのイメージをすることができる。
3回目	変わり結びができるようになる①
4回目	変わり結びができるようになる②
5回目	ドレスの上に着物を合わせて着付けることができるようになる①
6回目	ドレスの上に着物を合わせて着付けることができるようになる②
7回目	着物ドレスの着せ付けができるようになる①
8回目	着物ドレスの着せ付けができるようになる②
9回目	【練習】時間内に着物ドレスの着せ付けができるようになる
10回目	【確認】時間内に着物ドレスの着せ付けができるようになる
11回目	【テーマトータルコーディネート】発表のためにメイク・ヘアメイクを用いてコーディネートを作成させる準備をする①
12回目	【テーマトータルコーディネート】発表のためにメイク・ヘアメイクを用いてコーディネートを作成させる準備をする②※撮影
13回目	テーマトータルコーディネート発表の資料を作成する。
14回目	テーマトータルコーディネート発表
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は以下の割合にておこなう。 ・発表 80% ・取り組み姿勢 20%
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

授業科目名	ドレススタディ	必修 選択	必修 選択	年次	3	担当教員	
開講科目名	和装コーディネートⅡ						
開講科目英名	Kimono & Dress coordination Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						

【担当教員・実務者経験】

You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・筆笥整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営・日本文化を通して学ぶ大人の教養講座を行っている。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化である着物を使用し、テーマに合わせたコーディネートを行うことができるようになる。

【到達目標】

着付け方の基礎を学んだ上で、着物の新しい着方や新しい表現を発見する。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明
2回目	帯で花結びを作り上げる① ※バラ
3回目	帯で花結びを作り上げる② ※ユリ
4回目	帯で花結びを作り上げる③ ※各自気になった花を検索して実践する。
5回目	着物の新しい着付け方を発見する① カタログを用いて模範する
6回目	着物の新しい着付け方を発見する② カタログを用いて模範する
7回目	【テーマ:ブランド】テーマから着物コーディネートを行う①
8回目	【テーマ:ブランド】テーマから着物コーディネートを行う②
9回目	【テーマ:ブランド】テーマから着物コーディネートを行う③
10回目	コーディネート発表①
11回目	振り返り
12回目	【袴の着付け】袴の正しい着付け方を学ぶ
13回目	【袴の着付け】袴スタイルから新しいコーディネートを思案する
14回目	【袴の着付け】袴スタイルから新しいコーディネートを思案する ※発表
15回目	振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は以下の割合にておこなう。 ・発表 80% ・取り組み姿勢 20%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】